

令和 7 年度使用義務教育諸学校教科用図書採択の件

令和 7 年度使用西宮市立義務教育諸学校教科用図書採択について、別添により審議の上、定める。

令和 6 年 7 月 19 日提出

西宮市教育委員会
教育長 藤 岡 謙 一

○ 採択項目

- (1) 令和 7 年度使用特別支援学級用一般図書
- (2) 令和 7 年度使用西宮市立小学校、義務教育学校前期課程教科用図書
- (3) 令和 7 年度使用西宮市立中学校、義務教育学校後期課程教科用図書

令和6年(2024年)7月19日

西宮市教育委員会 様

令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択について

(報 告)

義務教育諸学校教科用図書選定委員会

はじめに

当義務教育諸学校教科用図書選定委員会（以下「選定委員会」という）は、西宮市立小学校、中学校義務教育学校が使用する教科用図書について、西宮市教育委員会が採択するための調整及び審議を行う、西宮市教育委員会の附属機関である。

本年5月22日に委員委嘱を受けた9名の委員から構成される選定委員会は、以来、5月29日に教科別調査員会及び学校教育法附則第9条第1項の規定による特別支援学級用一般図書（以下「一般図書」という）調査員会を設置し、6月から7月にかけて教科用図書の調査研究を進めた。

6月27日の第2回選定委員会、7月4日の第3回選定委員会において、各調査員会より調査研究結果の報告を受け、選定委員会による審議を行い、報告をまとめた。

報告書を読むにあたって

◆報告書の構成

はじめに	1 - 2		
(1) 中学校、義務教育学校後期課程教科用図書の調査報告について	3 - 31		
1. 国語 (3-6)	2. 社会 (7-14)	3. 数学 (15-17)	4. 理科 (18-19)
5. 音楽 (20-21)	6. 美術 (22)	7. 保健体育 (23-24)	
8. 技術・家庭 (25-26)	9. 外国語 (27-28)	10. 特別の教科 道徳 (29-31)	
(2) 令和7年度使用小学校、義務教育学校前期課程教科用図書一覧	32		
(3) 特別支援学級用一般図書の調査報告	33 - 41		
(4) 義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員名簿	42		

◆中学校、義務教育学校後期課程教科用図書調査研究の観点について

調査研究を行うにあたり、11の観点（特別の教科 道徳は12の観点）を設け、観点ごとに、西宮の子供の学習活動の様子に照らして分析をした。観定の趣旨は次のとおりである。

I 全教科に共通に設定する観点

- ① 教科目標から見た編集の適切さ
 - ・ 資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫
- ② 主体的・対話的で深い学びについての工夫
 - ア. 言語活動を充実するための工夫
 - イ. ICTを活用した学習活動の工夫
 - ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫
 - エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫
 - オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫
- ③ 他教科との連携の工夫
- ④ 写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ
- ⑤ 表記・表現のわかりやすさ
- ⑥ 単元（教材の配列）の適切さ
- ⑦ 判・ページ数

II 特別の教科「道徳」に設定する追加観点

② 主体的・対話的で深い学びについての工夫

ア. 言語活動を充実するための工夫

イ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫

ウ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫

エ. 個々の考えを深めるための工夫

オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫

⑧ 現代的な課題への対応

◆中学校、義務教育学校後期課程教科用図書調査報告書内の発行者表記について

発行者番号及び報告書内において使用している発行者の正式名称は次のとおりである。

2	東 書	:	東京書籍株式会社
4	大日本	:	大日本図書株式会社
6	教 図	:	教育図書株式会社
9	開隆堂	:	開隆堂出版株式会社
11	学 図	:	学校図書株式会社
15	三省堂	:	株式会社三省堂
17	教 出	:	教育出版株式会社
26	信 教	:	一般社団法人信州教育出版社
27	教 芸	:	株式会社教育芸術社
38	光 村	:	光村図書出版株式会社
46	帝 国	:	株式会社帝国書院
50	大修館	:	株式会社大修館書店
61	啓林館	:	株式会社新興出版社啓林館
81	山 川	:	株式会社山川出版社
104	数 研	:	数研出版株式会社
116	日 文	:	日本文教出版株式会社
224	学 研	:	株式会社 Gakken
225	自由社	:	株式会社自由社
227	育鵬社	:	株式会社育鵬社
229	学び舎	:	株式会社学び舎
232	あか図	:	あかつき教育図書株式会社
233	日 科	:	日本教科書株式会社
236	令 書	:	令和書籍株式会社

3 調査報告「国語」	10人	15 三省堂	17 教出
発行者・教科書名 観点	2 東書 「新編 新しい国語」	15 三省堂 「現代の国語」	17 教出 「伝え合う言葉 中学国語」
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	「話す・聞く」「書く」「読む」の各教材を通して身につけたい汎用的な言語能力のポイントを「言葉の力」として明示している。「読む」から「話す・聞く」「書く」へと「言葉の力」がつながるように教材が配置されている。1年の教科書では、大きな教科書体で示し、文章量も比較的少ない作品が多く配置されている。3年の教科書では、評論(P72、P106)や報道記事(P188)、社会生活に必要な言語活動が多く配置されている。主体的・対話的で深い学びへ誘い、他者と関わりながら学び進められる学習活動を設定している。	学習指導要領の指導事項をふまえて学習の系統化が図られており、基礎・基本について段階的に習得できるように構成されている。学習のプロセス(例:学習の道しるべ 3年P24、P40、P62など)が、簡潔に示されている。各教材の冒頭に「つけたい力」として学習目標を掲示し、教材の最後には学習を振り返る機会が設けられている。これにより、身についた力を自分で診断・評価することができ、次への学習に生かす仕組みとしている。	教科書全体を単元化された本教材と、補助的・参考として扱う小教材や資料に分け、学習内容に応じて柔軟に利用できるように構成されている。指導事項や学習活動の重点を明確にすることで、反復的、螺旋的に言語力を高める構成となっている。教材を読み深めていくための視点を教材の前に示す(3年P76、P92など)ことで、生徒は見通しをもって学習に取り組むことができるようになっている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	主体的・対話的で深い学びができるように課題解決的な言語活動をそえ、協働的な学びの場面も多く設定している。物語仕立ての教材やゲームを取り入れた教材、色鮮やかな挿絵、デジタルコンテンツの映像やアニメーションなど、生徒の学習意欲を高める仕掛けを工夫している。各教材の学習のポイントを「言葉の力」(1年P32、P64、P108 2年P24、P44、P64 3年P24、P25、P34など)として明示し、着実な定着を図っている。	全領域の教材において、「つけたい力」との関連を明確にして、多様な言語活動を取り上げている。また、読む意欲を喚起する魅力的な文章教材が豊富に取り上げられており、主体的な学習を促している。各所に対話や考えの共有などの協働的な言語活動の場として「グループディスカッション」(1年P36 2年P38 3年P46)が設けられている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、教材名や目標でも言語活動を明示し、「目標」「学習活動の流れ」では、学習の見通しと重点、言語活動を示している。「読むこと」教材の学習の手引き「みちるべ」(1年P45、P134、P169 2年P36、P55、P62 3年P17、P23、P30、P45)での「自分の考えを伝え合おう」で示される学習課題は、授業での言語活動として取り組むことを盛り込んでいる。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	個別最適な学びに応えるデジタルコンテンツが豊富であり、SDGsや情報活用の特設サイトにも簡単にアクセスできる。家庭での自学自習に活用できるコンテンツもある。また、生徒が必要に応じて参照できる便利な資料を、デジタルコンテンツの「デジタル資料室(3年P313～P314)」「言葉・漢字・古典の資料」に用意しているので、家庭学習でも活用することができる。	個別最適な学びに応えるデジタルコンテンツ(全学年P358、P359)が豊富であり、デジタル漢字ドリルや、解説動画など内容が充実している。また、タブレット端末を使った学習例の提示も多く、ICT機器の効果的な活用が促されている。巻末の一覧「ICT活用のヒント」は個別最適な学びや家庭学習にも役立つようになっている。学習の過程において、ICT活用のイメージをもちやすくするよう工夫している(全学年「グループディスカッション」「行事案内リーフレット」1年P154～P157 「課題作文」3年P64～P63など)。	教材内容に応じて「まなびリンク」(1年P14 2年P14 3年P14)を設け、学習時に参照できる生徒の自学自習に資する資料や、読むこと教材の補足資料、参考図書、参考作品、古文・漢文の解説動画、言語の理解を深める画像資料などが教育出版のウェブサイトで見られるようになっている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	ウ. 学習を見通し振り返りするための工夫 各教材のはじめに「目標」生徒目線の「問いかけ」が示され、教材の学習のポイントを明示し、着実な習得を図ることで、学習の進捗を把握しやすくしている。巻頭の「領域別教材一覧」で、生徒が既習事項を振り返ったり、今後の学習の見通しをもったりすることができる。各教材の「見通す」(1年P108 2年P92 3年P60)で学習目標と問いかけを、「てびき」(1年P108 2年P92 3年P60)で学習の進め方を、「振り返る」(1年P109 2年P93 3年P61)で振り返りの観点を示している。これらを手がかりに、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにしている。	各教材のはじめに目標を設定し、段階的な学びをサポートしている。「学び方」を学ぶための手順を示し、汎用的な力を身につけることに重点をおいている。主体的な学びのために、各単元における「学びへの扉」から視覚的に学習の見通しを持てるように「この教科書の使い方」(1年P12～P15 2年P12～P15 3年P12～P15)で説明されている。振り返りまでの一連の学習の流れが、矢印によって一本化されているのも特徴である。	各教材を通して、「目標」「学びナビ」「みちるべ」「振り返り」と一連の流れの中で学習の仕組みが明確に展開され、主体的な学びを促進している。特に、てびき「みちるべ」(3年P140、P173、P179など)は、図解や思考ツールも付随しており、スモールステップで学べるよう展開している。また、巻末の領域別「学びナビ」マップを通して、汎用的な読む力の育成の形成を促している。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	協働的な学びの場を設け、他者との関わりを通じて多様な考え方を知り、自己の考えを深める機会を提供している。また、「学びを支える言葉の力」(3年P8、62、100、116、202など)で、情報の扱い方や論理的な考え方、文学作品の読み深め方、コミュニケーションの基礎力を鍛えることができるようにしている。	学習者相互の対話を促す活動を重視している。各学年第一単元目に「グループディスカッション」(1年P36、2年P38、3年P46)を位置づけ、話し合いの方法を学習できるようにしている。また、「学び方」を学ぶことを重視し、他教科の学習や社会生活における言語活動において活用できるように工夫している(全学年「グループディスカッション」「読み方を学ぼう」「思考の方法」)。	多様な意見を引き出し、考えの形成・共有がしやすいように配置されている。また、「みちるべ」(1年P169、P183)に自分の考えを伝え合おう」という項目を設け、「参考」として生徒同士の会話例(1年P226など)やノートまとめ例(2年P63)を掲載している。また、多様な立場や考えを知り、交流をすることで対話力を高め、協働的な学びを実現しようとしている。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	読み取った情報を結びつけたり、自分の意見を記述する設問を多く取り入れたりしている。各教材では、言葉に着目し、言葉による見方・考え方を働かせられるように、活動指示や「てびき」(3年P24、P38、P60、P98、P136、P170、P196、P220)を工夫している。物語仕立ての教材やゲームを取り入れた教材、色鮮やかな写真や挿絵、デジタルコンテンツの映像やアニメーションなど、生徒の学習意欲を高める仕掛けを工夫している。	積極的に問題解決にあたるために対話や合意形成などで必要とされる力を育成する教材として、「一〇〇〇円の価値を考える」(1年P98～P105)、「一〇〇年後の水を守る」(2年P148～P160)、「小さな手袋」(2年P170～P181)などを配置している。	現代の課題を捉え、活動を通して自ら考える教材が豊富である。特に、SDGsを国語科の視点で教材化し、全学年に配置することで、正解のない問いに対し、考えを深める機会を提供している。情報活用能力を手助けするコンテンツを「まなびリンク」(1年P14)に収録し学習をサポートしている。
③他教科との連携の工夫	他教科と特に関連の深い教材に教科関連マークと教科名を示している。(例:依頼状とお礼状(2年P96:書写)、枕草子・徒然草(2年P124:社会(歴史))、平家物語(2年P132:社会(歴史))、他教科で学ぶ漢字(2年P173:他教科))	社会的な題材が選定され、他教科と関連するさまざまな価値観に触れることができる。また、「読み方を学ぼう」には思考力・判断力・表現力を伸ばすための方法が示されており、他教科での学習にも活用することができる。(例:図表と文章(2年P100))。	読書教材の内容を吟味し、情報・メディアに関する単元を組み込むことで幅広い分野の話題を取り上げ、他教科との連携を図っている(3年生P62、P66)。「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の教材では、教材末の「学びを生かそう」で他教科や日常生活に活用できるように工夫されている。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインの観点から、色覚の多様性に配慮した工夫がされている。色の違いで区別する場合には、マークや文字情報に加え、色以外の要素でも区別できるように工夫されている。未習漢字だけでなく、小学校で学習していない漢字の初出箇所には振り仮名がふられていて、漢字への抵抗感を和らげる工夫がある。	カラーユニバーサルデザインに配慮して編集されており、色覚の特性を考慮し、形の違いや記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けている。わかりやすい図解を随所に用いることで、内容を視覚的に捉えられるよう工夫されている。図やグラフは、色だけの違いに頼らず、色の濃淡や罫線、形の違い、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりが設けられている。	カラーユニバーサルデザインを取り入れて、色覚特性に配慮した色づかいと色彩のバランスがなされており、イラストや図版の内容が区別できるように工夫されている。本文の字体は、画数と字形の関係など、漢字学習も考慮した、独自に開発した字体となっている。イラストや図版は、内容が区別できるよう色づかいと色彩のバランスを考え、形のうえでも区別しやすいよう工夫されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	特別な明朝体を使用している(教科書体に筆遣いや字形を合わせる)。文字の大きさや書体、罫線や囲みの使い方、色遣いなどを工夫し、生徒が情報を捉えやすいように配慮している。ページの下に、行数を示す数字とドットが付されており、生徒が行数を数えやすいように工夫されている。古典の教材(1年P148、2年P124、3年P138)では、現代仮名遣いが青字で左側に付されており、学習上支援が必要な生徒に配慮されている。	独自の明朝体・ゴシック体・教科書体を開発し、画数や点画の方向等に誤解が生じないように配慮されている。大きさや書体を適宜使い分けて情報を整理し、学習しやすいように工夫している。新出漢字は特に大きく見やすくなっている。古典教材の現代語訳(1年P119、2年P112、3年P130)では、色覚の特性による見え方の差が少ない青色が用いられている。	美しさと、点画など文字学習を考慮した書体を用いている(一部にUD書体も)。表記・表現は3学年を通して基準を統一している。ページの下に、行数を示す数字とドットが付されており、生徒が行数を数えやすいように工夫されている。古典の教材(1年P114 2年P124 3年P122)では、現代仮名遣いが赤字で右側に付されており、音読の際の配慮がされている。古典の文字(1年P130 2年P145、3年P138)は大きめに書かれている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	各領域についての指導がバランス良く学習できるように配列されている。「言葉の力」は、「読むこと」教材で習得したことを、続く「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材で活用・定着できるように、3年間を通して系統的・段階的に積み上げられるように配置されている。	既習事項を活用しながら言葉の力を身につけられるように、系統的・段階的に教材を配列している。防災教育(1年P148)SDGs(2年P148)など。	各領域等の教材を偏りなく配列し、学習評価に際してバランスが取れるようにしている。SDGsや情報・メディア等、現代的な課題を積極的に取り上げている(1年P80～81など)。1年間を通じて各領域の教材を偏りなく配列している。SDGs(1年P80 3年P222など)、情報・メディアと表現(3年P62など)。
⑦判・ページ数	B5判 1年306 2年310 3年322	B5判 1年366 2年366 3年366	B5判 1年357 2年373 3年357

3 調査報告「国語」	
発行者・教科書名	38 光 村
観点	「国語」
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	知識・技能、思考力・判断力・表現力の分野として「話す聞く・書く・読む」の領域に属する単元を、知識・技能の領域として「言葉・情報・言語文化」の領域に属する単元を、一覧表にして提示し、学習の見通しを立てられるよう年間をかけてどのような力を身につけられるように構成している。巻末「国語の力試し」では、身につけた資質・能力を、他教科や日常に生かしていけるよう工夫している。
ア. 言語活動を充実するための工夫	多様な解釈が可能な質の高い文学作品を掲載している。また、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促すよう工夫されており、言語活動の充実が図られるようになっている。語彙ブック(3年P247～P254)で自分の語彙を磨いたり、特設「情報×SDGs」(1年P78～P79 2年P76～P81 3年P76～P83)では、SDGsとの関連を図ったりしながら、メディアリテラシーを系統的に学べるよう配慮している。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	個別最適な学びに応えるデジタルコンテンツが豊富であり、巻末に一覧表(1年P340～P341)を設けている。朗読音声や漢字の練習問題、「国語の力試し」の発展問題(ウェブサイト用)なども用意している。また、動画を視聴し意見の妥当性や議論の進め方を評価する教材や「書くことのミニレッスン」、新出漢字一覧や練習問題などが紹介されている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫 ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	巻頭「学習の見通しをもとう」では1年間の国語学習を見渡し、巻頭「主体的な学びのために」では学び方を知ることができる。「主体的に学習に取り組む態度」を育むことを重視し、各教材の「学びの扉」(3年P50など)では自分の言葉で学びを価値づける場を設けている。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	他者の価値を尊重し、協力する態度を育てることが強調されている。「話の構成を工夫しよう」(1年P34など)では、スピーチを通して自己を開示し、より深く互いを理解し合う活動が設定されている。学習活動面においても、他教科の学習や日常生活で活用できるよう配慮している(「魅力的な提案をしよう(プレゼンテーション)」2年P32「表現を工夫して書こう(手紙・電子メール)」2年P110～P112、「聞き上手になろう」3年P124～P125)。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	日常生活や現代社会の課題を取り上げ、対話を通して考えたり問題解決したりする機会と場を充実させている。「情報×SDGs」(3年P76～P83)では、正解のない問いに対し、言葉で思考し協働して課題解決に挑む力をつけようとしている。
③他教科との連携の工夫	他教科の学習の場面や日常生活で活用できるような題材の単元を設定している(3年P76)。「学習の見通しをもとう」に他教科との関連を示し、生徒が学習計画を立てられるようになっている。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインに配慮し、色覚特性を考えた配色にしている。図表は色に頼ることなく線の種類や濃淡、地紋でも識別できるよう工夫がある。情報のまとまりが認識しやすいように、アイコン・マークを付して示している。多様な表やグラフ、マップ等を配し、考えを可視化したり形成したりすることができるように工夫している。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさなど)	目的・用法に合わせて、独自の明朝体・ゴシック体・教科書体・読みやすいUD書体を用いている。表記・表現の基準を全学年に渡って統一し、適切な表現が身につくように配慮している。ページの下に、行数を示す数字とドットが付されており、生徒が行数を教えやすいように工夫されている。古典の教材(1年P157)では、1年生にのみ現代語訳が青色で左側に付されている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	発達段階や学習の持続性を考慮し、軽重をつけバランス良く配列されており、各学習が特定の時期に偏ることがないようにバランスも工夫されている。(1年78～P83 2年P76～P81 3年P76～P83)
⑦判・ページ数	B5判 1年344 2年344 3年340

3 調査報告「書写」	[10人]	15 三省堂	17 教出
観点	2 東 書 「新編 新しい書写」	「現代の書写」	「中学書写」
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	学年の発達段階に応じた重点が設けられ単元が系統だてて配列されており、螺旋的に書写学習の基礎・基本的な事項を学習できるよう工夫されている。単元ごとに「書写のかぎ」を置き、単元名や目標により、学習内容を分かりやすくしている。文字を「書く」ことの意義に注目し、手で書くことをめぐる様々な見解を共有するページを設け、手で書くという行為に注目させ、活動に入る構成となっている。	学習の見通しをもてるようにすることで、主体的に学習を進めていけるように構成されている。毛筆教材は見開き2ページで構成され、全ての教材に学習目標と振り返りが設けられている。また、各教材の冒頭に「書き方を学ぼう」が設置され、当該教材で学習すべき書き方のポイントが提示されている。「書き方を学ぼう」が冒頭に設けられ、書き方のポイントを提示し、具体的にどのように書けば良いのかを明確に示す工夫がなされている。	文字の書き方の秩序性を理解するために、姿勢・執筆や運筆方法、字形の整え方などの基礎・基本について、習得できるように構成されている。「目標」から「振り返ろう」まで、学習の流れがわかりやすい紙面構成になっている。巻末に掲載の「書式の教室」「漢字一覧表」「補充教材」などは、各学年共通で活用することができる。教材の構成や目標、学習過程を明確に生徒に示し、学び方を提示することで書写学習の定着を図っている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	「生活に広げよう」(P39～P41、P60～P61、P65～P67、P83～P86)において、生活に活用できる書写力の育成を目指す工夫がされている。「身の回りの文字の豊かさに触れ、効果的に書く」において、様々な目的に応じて工夫された文字について触れることで実生活でも表現しようとする創造性を養う工夫がみられる。国語科で学習する文学作品や古典の一節を書いて味わったり、題材例に「書くこと」の学習内容や言語活動を取り入れたりして、関連づけて学習できるように工夫されている(P60～P61「本のポップを書こう」)。	各教材に示す課題や、学年末教材の「やってみよう」(P44～P45、P64～P65、P74～P75)では、生徒どうしの対話を通して書写の学習を深められるよう工夫している。各学年の「やってみよう」の教材や、「書いて身につけよう」(P18～P21、P28～P29、P40～P43、P50～53、P58～P61、P72～P73)で書き写す作品などにおいて、国語の教材と密接に関連づけた学習指導ができるように題材が工夫されている。	硬筆教材について、国語で学習した文学教材などから設定し関連を図るとともに、言語としての響きや豊かさを考慮している。国語の言語活動との関連に配慮した教材を取材し、掲載しているため、国語と書写を連携させ、普段の授業で自然に書写学習の観点を取り入れることができる(お勧めの本の帯やポップを作る P34)。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	教科書の付された二次元コードや URL の先には教材文字の運筆動画など視覚的な支援となるコンテンツが提供されており、プロジェクトで投影しながら机間指導を行うことができるなど、授業支援として活用できるよう工夫されている。また、家庭学習や個に応じた指導にも効果的である。	各教材の二次元コードの参照先サイトにて、学習の役に立つ解説動画や書字動画、補充教材や参考資料など、豊富なデジタルコンテンツを提供している。巻末には、二次元コードの掲載ページとその参照先のコンテンツを一覧表で示している。	学習時に参照できる運筆動画などを、ウェブサイトで見られるようにしている(P4など)。二次元コードコンテンツである「まなびリンク」には毛筆の全運筆動画や硬筆の運筆動画を収録している。また、デジタル教材には各教材のポイント解説動画や穂先の動きを重点的に確かめられる動画も収録されるなど、それぞれの用途に合わせて活用できる。特に「硬筆文字検索」は楷書と行書の切り替えが可能で、日常生活と書写が連動するように工夫されている。
ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	巻頭の「文字を『書く』って、なんだろう」(表紙裏～P1)では、書写学習の意義や何ができるようになるのかを知ることで、学習の見通しを持ち、自分の文字をよりよくしていこうとする態度を育成するよう工夫されている。各項目の「目標」や「振り返ろう」の小見出しにより、学習の流れを意識しやすいように工夫されている。各単元に設けられた「書写のかぎ」により、学習のねらいを理解した上で学ぶことができるようにしている。	学習の見通しをもちやすいよう、教科書冒頭で「学習の流れ」について解説している。各教材に「目標」「振り返り」を設け、生徒自身が主体的に学習に臨めるようにしている。教科書冒頭の「自分の文字をよりよくするために」において、学習の流れと教科書の見方・使い方のポイントを示し、生徒自身の主体的な学びへと繋がるよう工夫されている。	学習ステップがわかるアイコンを提示することで、生徒自らが学習過程を理解できるようにしている(P10、P11 など)。「学習の進め方」解説動画で学び方を知り「比較ツール」で課題を発見し、目的にあった「動画」を活用するという学習プロセスの明確化により、見通しをもてるようにしている。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	活用単元「生活に広げよう」では、「書写のかぎ」での学びを国語や他教科の学習、生活の中で活用できるようにしている。「思いを文字で表そう」(3年P83～P86)のページでは、卒業を控えた生徒たちが自身の価値観を表現できるような内容となっている。「生活に広げよう」では、具体的な場面が挙げられており、学んだことをどのように活用すればよいか話し合う活動が設定されている。	「書いて身につけよう」では、日常生活・社会生活で用いる言葉や書き方を硬筆で練習し、実践的な力の定着を図れるようにしている。資料編「日常の書式」(P78～P83)では、宛名や伝票の書き方など、生活に必要な書式を提示している。P74、P75の「名言集を作ろう」では、3年間の学びをもとに自分の考えを表現する機会が設けられており、他の生徒との交流も授業展開として取り入れられるよう工夫されている。	「話し合い活動を通した学び方」(P11、P86)を掲載し、書写用語で伝え合うポイントや、具体例を通して、話し合い活動の活性化を促している。「学習活動や日常生活に生かして書こう」(P104～P107、P118、P119)では、日常で自ら進んで取り組むための教材が紹介されている。また、実社会で活用できる「書式の教室」(P108)では、手紙の書き方、小包伝票の書き方例などが掲載されている。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	各基本単元の「1 見つけよう」では、教材ごとに課題がわかりやすく設定されており、教材ごとに付された「書写のかぎ」をもとに学ぶことで課題解決できるようにしている。また、「書写のかぎ」での学びを他の文字でも応用できるようにしている。	学ぶ意義を自覚して学ぶことができるよう、「書き方を学ぼう」(P46、P48、P54、P56)では、どこに気をつけて、どのように書けばよいか、という「学び方」をわかりやすく示されており、自学自習でも活用できるように工夫されている。	ESDやSDGsが取り上げられ、生徒一人一人が自ら課題を発見し思考しながら、持続可能な社会の形成に積極的に関わっていくことができるよう工夫している(P56、P78、P104、P105)。中学生が普段目にしないような歴史的資料や活字をはじめとした身近な文字環境の両面から取材し、コラムとして扱っている。また、情報を整理する方法として手を動かして書く活動を取り入れている(例:書写で身につけた力を、学習活動で活用しよう P119)。
③他教科との連携の工夫	国語や他教科で扱われる言語活動や題材を使って教材化しているため、関連づけたり合科的に扱ったりすることができるようにしている。国語や他教科の学習と連動している単元・教材には、教科関連マークが付され意識づけを図っている(例:手紙を書こう(P21～P23)、手紙(書写活用ブックP2))。	各学年の「やってみよう」の教材や「書いて身につけよう」で書き写す作品などにおいて、国語の教材と密接に関連づけた学習指導ができるように題材が工夫されている。身のまわりの文字文化に注目し、生活の中で触れることができる書写・書道に関する興味をもつきっかけを設けている(例:便せん、封筒、願書など)。各学年末の「やってみよう」は、国語の学年末教材と同じ活動を取り上げ、手書きの作品例を掲載している。国語で内容を、書写で書き方を学習することができる(P44、P64、P74)。	「学習活動や日常生活に生かして書こう」(P104～P107、P118、P119)の教材では、習得した書写力を他教科や日常生活に活用できるように関連が図られている。どのような場面で書写学習を活かすことができるのか、日常生活における具体的な場面を紹介している。SDGsに関する内容が各学年ごとに配置されている。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	イラストに統一感がある。写真はやや少ないものの身の回りの文字の写真例については充実している。毛筆の「基本の点画の書き方」(1年P10～P11)では、穂先の向きがわかりやすいよう工夫されており、色の配慮もなされている。色の区別による説明は最小限に抑えられており、色を用いる際は、全ての生徒に見分けやすい配色となるよう工夫されている。右利き、左利きどちらの場合でも教材の文字をしっかり見ながら書くことができるように配慮されている。	表紙は華やかであるが、中身はイラスト、写真例共に控えめである。見開きを基本としたレイアウトで、学習手順が明確化されている。配色への配慮もされている。同じ学年で学習する教材の言葉や一節を、数多く取り上げている(P28、P58、P72)。	学習した書き方を生かした写真が豊富で、視覚資料として充実している。見開きを基本としたレイアウトで、学習手順が明確化されている。配色への配慮もされている。行書に抵抗がないよう、手のひらを筆に見立て、筆使いが学べるよう図で示す工夫が見られる(P42)。色覚等の特性をふまえ、判読しやすい配色やレイアウトを工夫している(P22)。左利きで書く場合の毛筆用具の置き方が写真で掲載されている(P8)。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	漢字の読み仮名や吹き出しなど小さな文字には、読みやすいようUD書体使用しており、手書き文字に近い字形のフォントを使用している。情報が多くなりすぎないよう文字量を抑制している。	独自の明朝体、ゴシック体を使用している。大きさ、書体を使い分け、情報が整理しやすく、学習しやすいように工夫されている。生徒が意欲をもって学習を進められるよう、わかりやすい用語・表現を用いられている。	手書き文字に近い形のUD書体を使用している。文章表現は平易で簡潔、かつ具体的である。書体や色を使い分け、要点が伝わりやすいように工夫している。文章表現は平易で簡潔であるとともに、運筆方法が伝わるように、具体的な言葉で示されている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	国語の言語活動と関連する題材を積極的に取り上げている。国語の教科書掲載作品の一節を書くページがある(P43、P69、P87)。お礼状(P22)、レポート(P39～P41)、本のポップ(P60)など国語科の言語活動と関連する題材を取り上げている。また、国語教科書に掲載される作品の一節を書くページを設け、適宜、関連づけて指導ができるよう工夫されている(P43)。小学校からの移行がスムーズに行えるよう、小学書写の学習内容を振り返り確認するページが設けられている(P6～P13)。	発達段階に即した系統的な学習が可能で、巻末の「資料編」で実社会での活用例が多く紹介されている。国語との関連教材が配置(P28、P58、P59、P72、P73)されており、書き込み練習のページが充実している。同じ学年で学習する教材の言葉や一節を、数多く取り上げている(P28、P58、P72)。各学年末の「やってみよう」は、国語の学年末教材と同じ活動を取り上げ、手書きの作品例を掲載している。国語で内容を、書写で書き方を学習することができる(P44、P64、P74)。	生きてはたらく書写力が育成できるよう、硬筆と毛筆を関連させ、毛筆学習の成果が確実に硬筆学習につながるように構成されている。合冊形式をとっているため学年間の見通しのもと、系統的に学習することができる。各学年の担当ページ最後に、実寸大の書き初めの手本が掲載されている。漢字一覧表(P121～)が部首毎に記載されている。国語との関連教材が配置されており(P30、P31、P80～P85、P98)書き込み練習のページが充実している。日常生活と関連の深い「横書きの書き方」は、生徒の発達段階に応じて各学年で扱っている(P14、P92、P104)。
⑦判・ページ数	B5変型判 146	B5判 122	AB判 146

3 調査報告「書写」	
発行者・教科書名	38 光村
観点	「中学書写」
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	全教材に、学習のポイントがひと目でわかる「学びのカギ」を設け、他の文字を書くときにも活用できる基礎・基本が示されている。別冊の硬筆練習帳「書写ブック」(P1～P28)を設け、毛筆教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題が豊富に設定されている。硬筆との密接な関連が図られ、毛筆での学習を硬筆に反映させることができる構成となっている。手書きの価値について考える教材も設置され、手書きの意義を考えながら、活動に臨むことができる構成にしている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	各学年に国語との関連教材を設け、言語活動を通して、日常生活に生きて働く書写の知識・技能を習得できるよう工夫している。古典文学や短歌・俳句を書いて味わう教材として、豊富に設定している(P46、P62、P63、P84、P85、P106、P107、P162、P163)。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	運筆動画や、用具の準備・片付けの解説動画、アニメーションなどの資料が豊富で、全毛筆教材に筆づかいを確かめる動画を収録している。特に、学校生活や日常生活に役立つ資料として、テーマ別に収録しているコンテンツが用意されている(P98～P99「防災フェスタを開こう」)。また、パワーポイントでの紙面づくりの色やフォント、配置の説明など生徒の目線での単元がある(P117)。
ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	巻頭に中学校3年間の目標を掲げるとともに、全教材に「目標」及び「振り返ろう」を明示し、知識・技能の定着や自己の変容を確かめられる構成としている。生徒が見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができるようにしており、各教材は、1考えよう(原理・原則の発見)→2確かめよう(書いて原理・原則を確かめる)→3生かそう(日常の文字に生かす・振り返り)という展開が、ひと目で分かる構成になっている。巻頭(P34～P35)では、学習の進め方を写真で分かりやすく示している。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	「行書を活用しよう」(P80～P81)や「防災フェスタを開こう」(P98～P99)では、豊富な作例を掲載し、書写で習得した知識・技能を、国語や他教科、日常生活に役立てる方法をイメージできるよう工夫している。教材冒頭には、文字の原理・原則を考えたり話し合ったりする活動を設定している(P54～P55)。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	教科書に登場する生徒の写真・イラストについて、「新しい生活様式」を考慮した内容を設けている。教科書全体を通してSDGsの達成に向けて教材化に取り組んでいる。随所にミニコーナー「SDGs×書写」(P33他)を設けている。地域ゆかりの活字を扱ったコラムなどがあり、文字や文字文化への理解、関心を高める教材を随所に位置づけている(P48～P49、P82～P83、P96～P97、P104～P105)。
③他教科との連携の工夫	各学年に国語との関連教材を設け、言語活動を通して、日常生活に生きて働く書写の知識・技能を習得できるよう工夫されている。豊富な作例を掲載し、書写で習得した知識・技能を、国語や他教科、日常生活に役立てる方法をイメージできるよう工夫されている(P80～P81「行書を活用しよう、P98～P98「防災フェスタを開こう」)。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	写真よりもイラストを多く使っている。マンガを通して手書きの良さを考えさせるページもある(P88、P89)。メリハリのある紙面構成で、大切なことが一目でわかるようになっている。配色への配慮もされている。学習のポイントを示す「学びのカギ」や課題解決のヒントを与えるキャラクターなど、紙面を構成する要素の役割を明確にし、主体的学習の助けとなるよう工夫されている(P58)。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	単元名や目次にUD書体を使用しており、発達段階に応じたわかりやすい文章表記となっている。発達段階に応じてわかりやすい文章で表現している。表記や用語は学年で段階を設け統一されている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	発達段階に即して系統的・段階的に配列されており、効率よく、生徒が見通しを持って学習できるようになっている。国語教科書と連動した教材を全学年に設定されている。別冊書写ブックで描き込み練習ができるようになっている。国語教科書と連動した教材を、全学年に設定しており、生徒の理解が深まるよう工夫されている(P44～P45、P84～P85)。
⑦判・ページ数	B5変型判 166(切り取り式別冊書写ブックもページ数に含む)

3 調査報告「社会・地理的」[16人]

観点	2 東 書 「新編 新しい社会 地理」 発行者・教科書名	17 教 出 「中学社会 地理 地域にまなぶ」	46 帝 国 「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	単元を貫く問い「探究課題」を設定し、それを解決するために必要な学習プロセス(導入・展開・まとめ)になるように単元を構成し、生徒が無理なく課題解決的な学習ができるように構成されている。また、地理学習で大切な視点を「地理的ミカタ」(地理的な見方・考え方)として「位置や分布」「人と自然のかかわり」「場所」「結び付き」「地域」の5つで示し、単元のまとまりを意識しながら学習プロセスの中で深い学びにつなげることができるよう、生徒の資質・能力を育てる工夫がされている。	単元(章・節)を通して課題解決的に学習を進められるようにして、主権者・市民として必要な課題を捉え、見通しを立て、主体的に解決していく力の育成が図られるようにするとともに、「社会的な見方・考え方」を働かせた学習が促されるように編纂されている。章とびらに中単元の学習の課題と見通しを明示し、節(小単元)の導入ページでは、新鮮な驚きを覚えるような写真や地域の特徴を示した図や表から生徒の興味・関心を喚起しつつ、問題意識を醸成し、節を貫く課題を提案させるようにしている。章・節の最後に設けられる学習のまとめでは、学習内容を振り返り、基礎・基本の定着を図り、「学習したことを活用してまとめよう」では、社会的課題について考え表現する活動を促している。	章・節・各本文ページの冒頭では、「単元を貫く問い」「章・節の問い」「毎時の問い」が設定され、生徒自らが学習の見通しをたてられるようにしている。また、それらの問いの対となるように、章・節・各本文ページの末尾に課題「学習を振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」が設けられ、それらの問いと課題では、協働的に学習する場面を設定している。さらに、学習を終えて新たな疑問や探究したいこと、深めたいことを書き出す場面が設定されている。これらの構造化された単元構成と学習方法の工夫によって、「主体的・対話的で深い学び」が実現できる構造になっている。
②主体的・対話的で深い学びに	主体的・対話的な学びから生徒自身が課題をつかめるよう、導入時の課題設定の場面や本文、単元のまとめに対話の例を示している。まとめの部分では、小集団での参加型学習「みんなでチャレンジ」(P75)(例:グループ活動～個人活動、またグループ活動に戻る)を設定し、本文での学習内容の理解を確実にし、多様な意見に触れながら学習を深め、自分の考えを調整したりまとめたりすることで、思考・判断したことを説明できるように工夫している。	各章の「学習のまとめと表現」にグループでの対話的な活動を想定した多様な問いが示されており、課題解決に向けた取り組みに対して対話的に学習が進められるように工夫されている(P61)。また、終章「地域のあり方」(P278～)では、地理の学習を通して身につけた力を総動員して取り組む、地域の問題解決に向けた提案活動の例が紹介されている。	各本文ページの中に、重要事項を確認できる「確認しよう」(P55日本と韓国の文化の共通点等)、言語活動で学習内容を振り返る「説明しよう」(P55韓国の産業の発展等)、また地図帳と関連した「地図帳活用」(P55韓国と日本のつながり等)を設定し、生徒自らが説明することで言語活動が充実するように工夫されている。
③単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	導入・展開・まとめの学習段階に応じて、QRコードからアクセスできるQRコンテンツを用意している。各単元導入では、小学校の学習内容を振り返るなど単元の学習をイメージしやすいように「導入クリップ」が用意される。また、「白地図データ」「統計資料」「D-MOVE」として「NHK for School」などの動画等がある。また、学習の振り返りでは、端末を使って自らの考えを入力し、画像として保存することができる。	ICTを活用するための「まなびリンク」として、QRコードから動画やクイズ統計資料など学習に役立つさまざまな各種コンテンツにアクセスして活用することができるように工夫されている。たとえば、「中学生クイズ」では100問以上の問題数があり、生徒が自ら単元に関連する問題を繰り返し解くことができる。また、教科書内の「地理の技」コーナーの全てに動画があり、地図やグラフなどの扱い方を分かりやすく学習することができる。	QRコードからアクセスできるコンテンツが多数あり、学習内容の習得や生徒の調べ学習が支援できるように配慮されている。教科書の活用方法の動画解説や地理で習得したい技能を動画で解説する「図解アニメーション」、「学習を振り返ろう」「アクティブ地理」に対応したワークシート(P62、P63)などで、学習内容の定着を図る。また、統計データを地図上にグラフで表示する「地域見える化GISジオグラフィ」のほか、「NHK for School」のリンク集を単元ごとにまとめたコンテンツがある。
④単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	アジア州の学習では、探究課題を追究するきっかけとなる写真資料を大きく掲載し(P66観光客も多く訪れるシンガポール)、「経済成長」からアジア州の探究課題「アジア州の経済発展は、地域にどのような影響をあたえているののでしょうか。」を考えるように工夫されている。「まとめの活動」では、評価の観点に対応した学習のまとめができるように構成されており、思考ツールを使いながらまとめられるように工夫されている。	アジア州の学習では、地球的課題として「人口問題」を取り上げ、世界人口の半分以上がアジアで生活していることから、経済発展の影響で生じている課題について見通しを立て、解決していく力の育成が図られるように工夫されている(P45)。どの単元にもSDGsの観点を取り入れて、学習の見通しをたてやすくしている。振り返りでは、思考ツールを活用し、「社会的な見方・考え方」を働かせた学習が促されるように工夫されている。	巻頭7で地理的分野の学習の全体像を示し、単元を貫く問いで章・節の見通し(P47アジア州の学習を見通そう等)を図ることができる。単元のはじめに設定された「写真で眺める」(P46上海の高層ビル群等)では、大判な写真から地域を概観する学習活動を通して、単元の学習に対する興味・関心を高め、学習の見通しを立てることができる。単元のまとめとして設定された章・節の末尾の「学習を振り返ろう」では、「地理的な見方・考え方」(巻頭8)を働かせて、思考ツールを活用した「対話的な学び」を通して、「章・節の問い」に取り組み、単元の学習を振り返ることができる。
⑤単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	「まとめの活動」として小集団での参加型学習「みんなでチャレンジ」コーナーが設定され(P75)、グループ活動で探究課題の答えとなる資料をグループで発表し合い、その後個人活動で考えを深める工夫がされている。本文での学習内容の理解を確実にし、多様な意見に触れながら学習を深め、自分の考えを調整したりまとめたりすることで、思考・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりするように工夫されている。	各項目に設定されている「表現」や「THINK」によって、個人やグループでの活動を通じて、地理の学習で身につけたい技能や表現力を養えるように工夫されている(P59)。各章の「学習のまとめと表現」には、グループでの対話的な活動を想定した多様な問いが示されている(P60)。また、終章「地域のあり方」では、地理の学習を通して身につけた力を総動員して取り組む、地域の問題の解決に向けた提案活動の例が紹介されている(P278)。	地理的な見方・考え方を働かせて、自分の意見をまとめたり、他者と意見を交換しながら学びを深める「アクティブ地理」(P90、P91等)が設けてあり、正解のない課題解決型学習を通して、対話型で進める学習活動が数多く設定されている。また、「学習を振り返ろう」では、地域の主題や中核考察に沿った写真や資料を厳選し(P63アジア州の経済成長とそれによる地域への影響を表す写真、写真で眺めるアジア州等)、協働的な学習を通して地域の姿をまとめる活動を取り入れる等の対話を重視した活動が取り入れられている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	持続可能な社会の形成を常に意識できるように、現代的な諸課題を「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つの視点で捉え、さまざまな課題や克服のための取り組みを扱いながら課題解決のための意識と態度が養われるように工夫している。世界の諸地域単元の最後には、地球的課題を振り返り、また、各日本の諸地域学習の最後には「未来にアクセス」(P195)として、未来に向けて持続可能な社会の実現を考えるヒントが示されている。	各節を貫く課題やSDGsに示された目標を視点にして学習を広げたり、深めたりすることができる特設ページ「クロスロード」により、地球的課題の解決に向けた社会参画の意識が高められるように工夫されている。「世界の諸地域」の学習では、6つの州の各導入ページで、SDGsに示された目標に基づき、各節で考察する地球的課題が示されている。また、各項目の「地理の窓」では、各地域のより具体的な課題等が提示され、課題解決に向けて考えられるようになっている。	地球的・地域的課題の解決に向けて構想する「アクティブ地理」では、各種資料をもとにした生徒どうしの対話を通じて、主体的・対話的で深い学びを実現できるように設定されている。「未来に向けて」のコラム(P55平和への道を探る朝鮮半島等)や特設ページ「環境につかわれた産業の発展のために」(P216等)では、「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6テーマを地理・歴史・公民の3分野で扱い、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて主体的に取り組む態度を育成できるように設定されている。
⑦単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	小学校での学習を基にしながら、「地理のミカタ」(地理的な見方・考え方)を意識して働かせられる工夫がされている。国語、書写、数学など他教科でも扱う学習内容には、教科関連を示すリンクマークをつけ、教科を横断した学習の確認ができるようになっている。	地理・歴史・公民の学習のあらしと相互の関係を示したイメージ図が巻頭に掲載されており、小学校での学習をもとにしながら、3分野の連携を意識し学習を進めることができるように工夫されている。また、SDGsとの関連も随所に示されている。	小学校での学習や他分野・他教科と関連のある題材に「小・歴・公のアイコン」(P57東南アジアに進出した日本企業数の変化等)や「小学校・歴史・公民・他教科の関連」(P56日本町・太平洋戦争【小・歴】等)を示し、既習事項を踏まえて、物事を多面的・多角的に捉える足がかりとしている。
⑧表紙・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	本文を補完する学習効果の高い資料(世界や日本のさまざまな地域の写真等)を豊富に掲載し、特に単元の導入部分の写真資料は生徒の主体的な学びにつなげるため、大きく掲載している。資料に付した「区番号」を本文にも付すことで効果的に学習できるようにしている。全ての生徒の色覚特性に適合するカラーユニバーサルデザインになっている。	紙面が見開き単位とされており、本文と資料がフォントやポイントの違いにより明確に区分されている。パターン化されたレイアウトでデザインされていることで視認性がより高まるように配慮されている。色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインにもとづく配色で構成されている。	特別支援教育やカラーユニバーサルデザインの観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなるように工夫されている。また、図版に背景色や囲み線をつけるなどして、色以外からも情報を読み取れるようになっている。また、学習者用デジタル教科書では、ふりがなや音読、色の反転などの機能が付随している。
⑨単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	全ての生徒が使いやすい紙面への配慮として、資料の掲載部分を文字などの読み取りに支障のない地色を敷いて区別することで、紙面の構造を明確化し、特別支援教育の観点での学習のしやすさを向上させている。ユニバーサルデザインフォントを使用することで、文字の視認性を向上させている。ルビの見やすさにも工夫している。	本文や注など、教科書中の文章には、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントが使用されている。ルビのフォントにも工夫がある。教科書の本時ページには、写真や図版の資料部分の背景に色をつけ、本文と資料の区別が明確になるように工夫されている。	インクルーシブ教育へ配慮した編修を行い、文字は、読みやすいユニバーサルデザインフォントを採用している。重要語句を示すゴシック体の太さやルビの見やすさにも工夫している。
⑩単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	単元を貫く「探究課題」を解決するために、学習プロセスが配置され無理なく課題解決に取り組むことができるように配列されている。学習の流れがみえることで、学習に取り組むやすくなる。現代的な諸課題を解決するための意識と態度の関連づけがある。	小・中学校、他分野・他教科との接続・連携を意識した、カリキュラム・マネジメントにて配慮された配列がされている。巻頭の「地理の学習を始めるにあたって」では、中学校地理の「見方・考え方」を、効果的に進められるようにしている。	各単元地図帳との連携を図る配慮がされて、地図帳の活用を通して教科書の学びを深める工夫がされている。章・節を基本単元とし、学習の見通しと振り返りがしやすい単元の構成にされている。
⑪判・ページ数	AB判 294	AB判 310	AB判 310

3 調査報告「社会・地理的

116 目 文	
「中学社会 地理的分野」	
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	生徒が教科書全体での学習を通して「何ができるようになるか」を見通すことのできる構成にして、学びの成果や自己の成長を振り返ることができるように編修されている。「どのように学ぶのか」を明確にするため、単元を貫く問いである「編・章・節の問い」を構造的に配置する構成になっている。生徒が自ら「編・章・節の問い」を立て、単元の学習の見通しをもって各時間の「学習課題」に取り組めるようになっている。「まとめとふり回り」ページで「編・章・節の問い」を改めて考えとという構造にしており、地理的分野の資質・能力の育成に向けて、指導と評価の一体化の実現が図れるようになっている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	「資料活用」や「議論してみよう」などの学習活動のうち、生徒どうし話し合いなど対話的な活動が効果的に取り入れられるものについては「学び合い」マークを付している。「学び合い」マークの活用により、問いを充実させ「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような構成となっている。特に「アジア州」の「まとめとふり回り」では、アジアの地球的課題をグループで整理し、課題解決に向けた解決策を議論する中で、主体的・対話的で深い学びを実現する手立てが示されている(P61)。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	紙面上のQRコードからWebサイトにアクセスし利用する「教科書QRコンテンツ」がある。主なものとして「イントロダクションムービー」があり、学習を見通し、問いを立てる際に活用できる内容となっている。その他、単元のまとめで振り返りができる「ポートフォリオ」では、これまでの学習を振り返り、自己の学びを見通せるようになっている。また、本文ページの見開きごとの知識を整理する「確認小テスト」等があり、生徒の個別最適な学習に対応できるようになっている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 導入ページとまとめ・振り返りページの「教科書QRコンテンツ」から「ポートフォリオシート」をダウンロードし、入力することができる。生徒が学習の見通しを持ち、学習後に自身の考えがどのように変わったかが振り返られるように工夫されている。特に「アジア州」の学習では、節の問いとして「アジアの国々は、どのように経済発展しているのでしょうか」が設定されていることにより、経済発展を1つの軸として生徒が見通しを持って学習に打ち込めるようになっている(P51)。
エ. 自ら選んで他者と関わる力をつけるための工夫や体系的な活動を振り返るための工夫	地域調査の手法や地域の在り方を考察・構想する手法、調べたり考察したりしたことをまとめ、発信する方法を示すなど、地理的技能を系統立てて習得できるように解説した「スキルUP」を各所に設けている。さらに、収集した情報についてまとめたり、考察したりする際に活用できる多種多様な思考ツールが随所で示されている。特に「アジア州」の「まとめとふり回り」では、「思考・判断・表現」の中で思考ツール「フィッシュボーンチャート」が用いられている。「頭」の部分に結果に対して、「中骨」の部分に結果に影響を与える要因を書き込むことで思考の整理と可視化に役立てられるようになっている(P61)。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	地理的分野の学習の冒頭に、持続可能な開発目標(SDGs)、カーボンニュートラル、Society5.0の3つの視点が提示されている。これらの視点を常に意識しながら学習を進めることで、持続可能な社会の実現に取り組む力が身につけられるようになっている。また、世界の州や日本の地方などで象徴するトピックスを取り上げ、そこに住む人々や地域が抱える課題の解決のためどのような取り組みを進めているかを学習し、持続可能な地域づくりの実現に向けて取り組む力が身につけられるようになっている。
③他教科との連携の工夫	道徳の4つの視点のうち、Cの「主として集団や社会との関わりに関すること」のなかでも、特に「公正、公平、社会正義」「社会参画」に関する事項が取り上げられている(P89自立のための取り組みの優先順位をグループで話し合おう)(P292より良い地域の将来像を発信し、社会に参画しよう等)。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	特別支援教育やカラーユニバーサルデザインの観点から、グラフなどの情報を負担なく読み取ることができるように工夫されている。教科書全体を通して、地図やグラフの読み取りやすさに配慮したほか、地理的概念などを具体的にイメージできる仕組み図を豊富に掲載している。大判紙面を生かした、大きく多彩な図版によるわかりやすい学びで知識を定着させられるように配慮されている。
⑤表紙・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	誰にでも見やすく読みやすいユニバーサルデザインフォントが使用されている。本文以外の箇所にも、適切なユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、小学校6年生以上で学習する漢字の初出箇所とすべての重要語句にはルビが付される工夫がある。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	見通しをもって学習に取り組める単元構成の配列がされている。SDGsを含めた現代的な諸課題への対応を考える工夫がされている。学習全体を通して「見方・考え方」を働かせることを促し、地理的事象の理解を深められるような配列がされている。
⑦判・ページ数	AB判 318

3 調査報告「社会・歴史的」[16人]

発行者・教科書名	2 東 書	17 教 出	46 帝 国
<p>観点</p> <p>①教科目標から見た編集の適切さ 「習得」能力の3つの柱の育成に向けた工夫</p>	<p>「新編 新しい社会 歴史」</p> <p>単元を貫く研究課題を設定している。学習課題と研究課題をつなぐ踊り場の問い「探求のステップ」を設けることで、段階を踏んでスムーズに研究課題を解決できるようになっている。主体的な学びにつなげるために、個人活動とグループ活動の相互作用で学びを深める「みんなでチャレンジ」を設け、小集団の協働的な活動を取り入れている。</p>	<p>「中学社会 歴史 未来をひらく」</p> <p>各単元の冒頭において「章の問い」が設けられ、自らの学習課題を明確にして、能力向上と主体的な学習態度を養うことができる。また「学習の見通し」が単元ごとに設けられ、節ごとのキーワードが示されている。単元の終わりには、内容に応じた調べ学習が設定されており、学習を深める活動ができるようになっている。</p>	<p>「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」</p> <p>単元でつづいた力を冒頭で示し、各単元において「見通し、学習活動、振り返り」の流れの中で自らの学習課題を明確にして、能力向上と主体的な学習態度を養うことができる。巻頭の「歴史的分野の学習の全体像」では、1年間の学習を一覧で示し、見通しをもって学習することができる。単元ごとに問いを明確化して最初に示し、イラストや図解を取り入れて視覚的にも理解しやすい工夫をしている。巻末の「これからの社会を構想しよう」では、学習した内容のつながりを振り返ることができる。</p>
<p>②主体的・対話的で深い学びについて</p> <p>ア、言語活動を充実するための工夫</p>	<p>個人活動とグループ活動の相互作用で学びを深める「みんなでチャレンジ」を導入し、小集団の協働的な活動を行うことで、深い学びを実現している(P98近世の社会の様子をとらえよう)。</p>	<p>本時のページの「確認/表現」や、章末の「学習のまとめと表現」に、グループによる学習活動がバランスよく設置されており、教え合いや学び合いによる協働学習をもとに、多角的に理解したり考察を深めたりすることができる。(例:P54「東北の歴史を調べよう」など)</p>	<p>単元末に「「まかのひと話し合って」章の問い」を考察しよう。」の項目が設定され、グループでの話し合い活動ができるような工夫がされており、言語活動の充実を図っている(P159武家政権の展開と世界の動き)。また、各ページに「説明しよう」という問いが設定されており、生徒の言語活動を充実させる工夫がされている(P87東アジアの交易と倭寇)。</p>
<p>イ、ICTを活用した学習活動の工夫</p>	<p>導入・展開・まとめの学習段階に応じて、QRコンテンツが設けられている。「導入クリップ」「思考ツール」を活用することで、個別最適な学びや協働的な学びを実現することができる。「比べてみよう!地図」では、前の時代の地図と比較して考えることができる(P144近代化とはどのようなことか考えよう)。</p>	<p>図表などで思考を整理するために「まなびリンク」が用意されており、タブレット端末を活用して考えを視覚的にまとめることができる。教科書内のコーナー「歴史の技」を補足する動画があり、授業内だけでなく家庭でも学習することができる。全単元の終わりでは知識の確認ができる三択クイズや、省庁や自治体など公的機関への外部リンク集が設けられており、関心意欲を高めたり、情報集めたりすることができるよう配慮されている。</p>	<p>巻頭に二次元コードが用意されており、本書に関するコンテンツ(①教科書の資料や絵を拡大して使用することができる。②学習を振り返ることができるワークシートをダウンロードできる。③思考ツールのダウンロード、など)を利用することができ、授業だけでなく家庭でもICTを活用した学習ができるよう配慮されている。</p>
<p>ウ、学習を見通したり振り返りするための工夫</p>	<p>導入で課題をつかみ、展開で追究し、まとめで解決する流れを確立しており、スムーズに学習を進めることができる。学びの入り口のページでは、探究課題の設定につながる資料が提示されており、前の時代と比較しながら、見通しが立てやすいように工夫している。また各章のまとめとして、年表や資料を使いながら振り返りが取り組めるように設定されている。</p>	<p>章ごとの「内容のまとめり」をふまえ、各章の導入「学習のはじめに」のページでは、資料を活用しながら、これから学習する章全体の内容を見通せるように配慮されている(P59第3章のとびら)。</p>	<p>各単元において「見通す、学習事項の確認、章の振り返り、これからの社会の構想」という学習の流れが一貫している。学習の進め方については、簡易的な図表を教材の始めに、具体的な図表を教材の終わりに配置して分かりやすく示している。「章の振り返り」では、ふり返りの観点を焦点化し、ポイントを示すことで知識、思考・判断・表現の定着を図っている。単元のはじめはその単元を象徴する資料を掲載し、新しい学習への期待を胸を膨らますことができるよう工夫している。</p>
<p>エ、自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫</p>	<p>「みんなでチャレンジ」コーナーが設けられており、活動を通して他者の考えを尊重しながらグループで対話したり、協力しながら活動したりする場面を示すことで、自他の敬愛と協力を重んじる態度を育成できるよう工夫されている。(P229日本が戦争に突入した背景を考えよう)。</p>	<p>授業の始めに位置づけた「学習課題」を受け、資料の読み解きのために適宜設けられている「THINK!」などのコーナーや1時間の学習の最後に位置づけている「確認/表現」のコーナーにある「問い」に取り組むことで、生徒が自ら学び、自ら考える学習が展開できるように配慮している。</p>	<p>「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」や章の振り返りで、他者とのやりとりを通じて思考を広げる機会を持てるように配慮している。また「アクティブ歴史」では、具体的にテーマを設定して自分の意見をまとめたり、他者と意見を交換したりして学びを深めることができるように工夫されている。</p>
<p>オ、問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫</p>	<p>「探究課題」を解決する「まとめの活動」の形で問いを軸にして単元を構造化し、課題解決的な学習を進めやすくしている。また、節ごとに設けた「探求のステップ」に取り組むことで、「探究課題」をスムーズに解決できる工夫がなされている(P96武士が生まれ、その支配が広がった中世の日本で、社会はどのように変化したのでしょうか)。</p>	<p>本時ページのタイトルには、学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題を置き、あわせて「学習課題」を明示することで生徒が課題意識を明確にすることができるよう配慮している。</p>	<p>各章の振り返りににおいて、現在とのつながりやSDGsとのつながりを考え、「これからの社会を構想しよう」で様々な角度から課題解決をを模索できるようにする工夫がなされている。</p>
<p>③他教科との連携の工夫</p>	<p>本文ページのリンクマークで歴史的分野の学習内容と他教科との関連を示唆している(P51国語「古事記」「万葉集」)(P211英語「ガンディー」)。</p>	<p>国旗や国歌の由来、ドイツ語とドイツの統一など他教科でも扱われる内容の視点を取り入れるなど関連を示唆している(P156、P157国民国家の成立)。</p>	<p>ページ下部に他教科との関連がある内容を列記している。また、「未来に向けて」や「歴史プラス」などで、人権や道徳など他教科・領域で取り扱われることのある内容について触れるなどの工夫が見られる(P206「歴史プラス」エルトワールル号の遭難)。</p>
<p>④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ、大きさ、カラーユニバーサルデザインなど</p>	<p>カラーユニバーサルデザインに配慮してデザインされている。また、資料の掲載部分に薄い色を付けることで、本文との区別を視覚的に分かりやすくしている。見開きページの右端には、年表スケールインデックスが導入され、歴史全体の中での位置づけが把握しやすくなっている。</p>	<p>個々の特性があることに留意して、全ての生徒にとって見やすいカラーユニバーサルデザインにもとづく紙面づくりが行われている。図版資料については、配色とともに形や模様、吹き出しなどの表示にも工夫することで、判読しやすくように配慮している。</p>	<p>カラーユニバーサルデザインに配慮してデザインされている。図版に背景色や囲み線をつけるなどして本文と区別しやすくなるように工夫されている。各章の「タイムトラベル」では、それぞれの時代の人々の生活をイラストで示しており、イメージを膨らませたり時代の変遷を捉えたりすることができるような工夫もみられる。</p>
<p>⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)</p>	<p>全ての文字にユニバーサルデザインフォントを採用し、字形を判別しやすく、読み間違えにくくなっている。ふりがなは、教育漢字外の漢字や固有名詞などの必要な箇所に適宜つけられている。</p>	<p>文字については、読みやすくするためにユニバーサルデザインによる黒文字を基本としており、白抜き文字や色文字は、十分な大きさが確保されている。</p>	<p>文字はユニバーサルデザインフォントを採用し、重要語句を文字の太いゴシック体で表記して判別しやすく工夫している。ふりがなは重要語句のほか、多くの漢字にゴシック体でつけられており、判読しやすくように配慮されている。</p>
<p>⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時間など)</p>	<p>単元を貫く「探究課題」を解決するために、「探求のステップ」を設け、無理なく課題解決に取り組むことができるようにしている。小・中の学習を円滑に接続できるように、QRコンテンツでふり返りやすくされている。高等学校の必修科目「歴史総合」につながる資料を読解する力を養える取り組みがされている。</p>	<p>単元(章)を通して「問い」を軸に課題解決的に追究していく構成となっている。課題を捉え、見通しを立て、解決していく力の育成が図られるようにするとともに、「歴史的な見方・考え方」を働かせる学習が促されるようにしている。</p>	<p>章を基本単元とし、学習の見通しと振り返りがしやすい単元の配列にされている。単元のはじめの「章扉」では、小学校の学習事項や前の単元で学習したことを踏まえ、単元の学びを見通せるようにしている。各時代のはじめに置かれた「タイムトラベル」では、イラストを通じて当時の社会に対する興味・関心を高めやすくしている。</p>
<p>⑦判・ページ数</p>	<p>AB判 300</p>	<p>AB判 317</p>	<p>AB判 334</p>

3 調査報告「社会・歴史」

発行者・教科書名	81 山川	116 日 文	225 自由社
観点	「中学歴史 日本と世界 改訂版」	「中学社会 歴史的分野」	「新しい歴史教科書」
①教科目標から見た編集の適切さ、資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	各章の冒頭部分には日本と世界のできごとを上下に分けて示す帯年表を配置し、視覚的に流れをつかむことができるようにしている。単元ごとに育成する資質・能力を明確化して最初に示し、イラストや図解を取り入れて視覚的にも理解しやすい工夫をしている。また、因果関係を重視した詳しい記述がされており、意味をとらえにくい用語や高等学校での学習でも求められる概念を「用語解説」で解説し、深い理解を促せる構成となっている。	単元を貫く問いを立て、学習の見直しをもてるように導入で工夫をしている。本文は十分な文字量を確認して、わかりやすい表現で歴史の流れや因果関係を丁寧に記述している。各時代に設置された「チャレンジ歴史」では、資料の読み取りから、生徒に選択・判断するまで発達段階に応じた内容となっており、主体的・対話的で深い学びにつなげ振り返ることができる。	導入部分で対話による「謎解き」を出題し、学習活動への意識づけを工夫している(P19平城京跡と唐の長安とそっくり。重要な違いが一つある。)。各単元において、まとめと振り返りでは「調べ学習」「復習」「特徴」「対話とまとめ図」を用いて、習得した力を活用して時代の特色をとらえる学習を行い、主体的な学習態度を養うことができる(P64「修学旅行で行く 奈良と京都」)。
ア、言語活動を充実するための工夫	各見開きページの最後に、その時間の学習内容をふまえて取り組む「ステップアップ」の項目が設けられており、グループでの話し合い活動ができるような工夫がされており、言語活動の充実が図られている。多様な種類の発問が設けられており、深い学びへとつなげることができるように工夫している。	「確認・表現コーナー」では、基礎的・基本的な知識及び技能の定着をねらった学習活動や、自分の考えを説明させる問いを提示し、習得した知識や技能を用いて文章化、言語化できるように学習活動の充実を図っている。「スキルUP」によって、社会的現象等について情報収集、読み取り、まとめる技能を身につけられるように工夫している(P3)。	歴史の大きな流れをつかむ中で、「謎解き」などで課題を、学習を終えるごとに「チャレンジ」があり、基礎的・基本的な知識及び技能の定着をねらった学習活動や自分の考えを説明させる問いを提示している。習得した知識や技能を用いて課題を文章化・言語化できるように学習活動の充実を図っている(P71「院政と摂関政治の違いを説明しよう。」P147「江戸時代は「〇〇」の時代だった。」)。
イ、ICTを活用した学習活動の工夫	図表などで思考を整理するために「二次元コード」が掲載されており、本書に掲載されている資料や絵を拡大して活用することができる。また、博物館や資料館のウェブページへつながるものや動画コンテンツもあり、生徒用タブレットを活用して、より主体的な学習が進められるように工夫されている。	図表などで思考を整理するために「二次元コード」を掲載し、発行者Webサイトで動画や資料、ワークシート等の教科書QRコンテンツにアクセスできる。導入ページの「イントロダクションムービー」では、問いを解決する見通しをもてる。「確認小テスト」では予習復習に利用でき、「ポートフォリオ」では、学習履歴を記録する。	図や表などで思考を整理するために「修学旅行で行く 奈良と京都」(P64)を設定している。「奈良の大仏は、いつ、なんのために造ったのだろうか」などの疑問を提示することにより、ICTを活用しての調べ学習など進めていくことが想定される。「ミニ事典」の作成や、「時代比較」「人物比較」の問題なども提示されている(P147「キリスト教を優遇した織田信長と鎖国政策を実施した徳川家光の違いをまとめてみよう」)。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	見開き冒頭には、その時間の学習内容を理解するための学習課題を設け、見直しを持って学習に取り組むことができるように工夫されている。また、「まとめ」では、ふり返りの視点を焦点化し、ポイントを示すことで知識及び技能、思考力・判断力・表現力の定着を図っている。また、多面的・多角的な思考を促す問いが設けられており、単元全体を通してつけた力を振り返ることができる構成になっている。	学習の進め方については、「学習課題」を明確にし、「見方・考え方」でつながりを意識し、具体的な図表を多く配置して分かりやすく示している。「確認」「表現」では、ふり返りの視点を焦点化し、ポイントを示すことで学習課題とつながりをもって知識の定着を図っている。単元の扉は見開き1ページで構成し、新しい学習への期待に胸を膨らますことができるよう工夫している。	「時代の特徴を考えるページ」(800字で人物伝記を書いてみよう)として、歴史上の人物を学習した事項を活用してまとめる活動が掲載され、小学校で学んだ人物を中心に42名が紹介されている。「復習問題」では、歴史的事項に関する一問一答や、振り返りの視点を焦点化し、ポイントを示すことで学習課題とつながりをもって知識の定着を図っている。
エ、自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	単元末では、自己の学びを言語化して表出する場が設定され、他者と学びを共有することで、歴史について自分で考え、対話を通して歴史を学ぶことへの意欲を高める工夫がされている。他者と関わる必然性のある教材を設定し、身に着けた力を使う場面を設けている(P251「地域からのアプローチ」など)。	「チャレンジ歴史」では、資料をもとに歴史について自分で考えたり、対話したりして歴史を学ぶことへの興味を高め、学習段階に応じた多様な資質・能力へ対応している。「学び合い」マークを設け、対話的な学びの場面を多く設定し、協働的な学びにつなげるように工夫している(P55「資料活用」藤原道長)など)。	「対話とまとめ図」では、まとめ図をみながら、対話例が掲載されており、資料をもとに歴史について自分で考えたり、対話したりして学ぶことへの興味を高め、学習段階に応じた多様な資質・能力へ対応している(P148「戦国時代について兄弟の対話」など)。
オ、問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	「歴史を考えよう」では、様々なテーマが設定され、地図や写真、史料などから考察することで問題解決的な学習に発展させることができるように工夫されている。また、各章のまとめを通して、さらなる課題の発見につなげられるような工夫もみられる。	時代の特色を考える「まとめと振り返り」では、生徒が主体的に課題解決・探究学習を行うための図表や段階的な解説が掲載されている。情報を整理し比較などをするための「思考ツール」を取り上げ、その活用の仕方をQRコンテンツに解説している(P152、P153「戦乱のない安定した時代は、どのように続いたのでしょうか」など)。	「もっと知りたいコラム」や「人物クローズアップ」「外の目から見た日本」では、時代の特色を考え、生徒が主体的に課題解決・探究学習を行うための内容が掲載されている(P117「秀吉はなぜバテレン追放令を出したのだろうか。」)。
③他教科との連携の工夫	「歴史を考えよう」では、美術作品や文学作品を通して、歴史について考察できるように工夫されている。	本文ページ脚注の「連携コーナー」において、歴史的分野の学習内容と他教科との関連を示唆している。(道徳P245「日本までつながれた『命のビザ』」、美術P183「近代社会に日本を見つめ直す」)。	「もっと知りたいコラム」において、歴史的分野の学習内容と他教科との関連を示唆している(道徳P204「日本の実業家の伝統をつつた渋沢栄一」、国語P209「時代の特徴を考える」の「意見交換会」)。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインに配慮してデザインされている。各章の冒頭に日本と世界のできごとを上下に分けて示す帯年表を付しており、視覚的に流れをつかむことができるように工夫されている。また、時代ごとに地図とイラストを用いて世界の状況を通観できるような工夫もみられる。	カラーユニバーサルデザインに配慮してデザインされている。また、すべての生徒に見分けやすい配色になっている。	すべての生徒に見分けやすいカラーユニバーサルデザインが取り入れられており、資料なども鮮明な色づけが施され工夫が見られる。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	文字はユニバーサルデザインフォントを採用し、重要語句を文字の太いゴシック体で表記して判別しやすく工夫している。ふりがなは重要語句や固有名詞を中心につけられており、判読しやすく配慮がなされている。文章は常体を用い、端的に理解しやすく記述されている。	文字は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。ふりがなは、大きめのゴシック体を使用している。時代区分や年代のあらわし方を説明する各時代の色が示され、時代の色を統一している。	文字や図は、色分けを工夫してわかりやすく掲載している。本文は、ふりがなを大きめの文字で表記されている。時代区分や年代のあらわし方を説明する各時代の色が示され、時代の色を統一している。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時間など)	日本と世界のできごとを上下に分けて示す帯年表を付し、視覚的に流れをつかむことができるような工夫がされている。小学校学習指導要領に取り上げられている人物を第1章1節で取り上げ、円滑に中学校での学習を始めることができるようにしている。世界の歴史も含めた歴史全体の流れをつかむことができるように配列されている。	「どのように学ぶのか」を明確にするため、章・節の単元を貫く問いを構造的に配置されている。第1編で「歴史的な見方・考え方」を学び、第2～6編で各時代の特色をとらえ、巻末の「歴史との対話を未来に活かす」で、生徒が歴史をふまえて未来に何が大切かを構想することができるように配列されている。	単元の末尾には「チャレンジ」という記事を置き、単元ごとに簡単な知識の整理が出来るようにしている。欄外に年表を置き、単元で学ぶことが、モノサシ年表でどこに位置するかを明確に意識できるようにされている。各章の章末には、調べ学習復習問題、時代の特徴を考える、対話とまとめ図のページが配列されている。
⑦判・ページ数	AB判 296	AB判 324	AB変型判 312

3 調査報告「社会・歴史」

発行元・教科書名	227 育鵬社	229 学び舎	236 令書
観点	「新しい日本の歴史」	「ともに学ぶ人間の歴史」	「国史教科書 第7版」
①教科目標から見た編集の適切さ・着目・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	各章冒頭に「歴史を体感する」活動を取り入れ、歴史学習への関心を深めることができる。各単元において「課題をつかむ、課題について調べる、課題についてまとめる・表現する」の流れの中で自らの学習課題を明確にして、能力向上と主体的な学習態度を養うことができる。単元の展開では歴史上の人物に関する説明文が設定され、その時代に生きた人物の人間的魅力なども学べるようになっている。巻末の「日本の歴史を大観する」では、学習した内容のつながりを振り返ることができる。	各単元の初めに「章の扉ページ」が設定されており、そこに学習課題が書かれている。その課題について探究するための工夫として地図やグラフ、側注などが数多くあり、多面的・多角的に考えられるようになっている。また、「歴史を体感する」では、インターネットや博物館などを利用した調べ学習や体験者からの聞き取り、討論の方法などを学べるページがある。そして、各単元の最後には、「学習のまとめ」があり、時代を大観したり、テーマに応じて学習したことを比較したり関連させたりすることで意見を交換して考えを深める工夫が見られる。	古代・中世・近世・近代・現代という大単元において「政治・外交・文化・産業」の категорияでそれぞれ探究課題が立てられており、それらを基に、各小単元で「考えよう」という形で課題が設定されている。これにより学習課題を明確にして、能力向上と主体的な学習態度を養うことができる。また大単元ごとの章末には、「政治・外交・文化・産業」の категорияに分けられたまとめの問題が設定されており、取り組みを振り返ることができるようになっているほか、「展覧会に行こう」(P261)や「ディベートをしてみよう」(P404)のように、単元の内容にあったまとめ活動や振り返りが設定されている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	単元末の「学習のまとめ」において、「○○はどのような時代だったといえるのかを考え、その理由と合わせてまとめよう。また、それぞれの考えをみんなで話し合ってみよう。」とあるように言語活動をするための工夫がなされている。また、各ページに「探究」として、説明を行うようにすることで、生徒の言語活動を充実させる工夫がなされている(P143新しい学問と教育の普及)。	各単元末の学習のまとめにおいて、テーマに応じて学習したことを比較したり関連させたり、意見を交換して考えを深めるための工夫が見られる(P134「桃山文化、元禄文化、化政文化」で関心をもった作品などをあげて、どんな作品か説明してみよう)。また、自分の言葉で時代の特色を表現するために時代を大観させている。	大単元ごとに「まとめ学習」が設定され、表をまとめたり、各時代の特色を自分でまとめたりすることができるように、使用する言葉を例示して、言語活動を促している(P115「時代ごとの特色をとらえよう」)。各単元ごとに「課題」「考えよう」と、話し合う場面が設定され、それぞれの学習課題を設定している。本文では、重要な語句を、太字ではっきりと示しており、生徒自ら課題解決を行うことができる。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	二次元コードが掲載されており、学習に対する様々な情報(NHK for School)を閲覧することができ、ネット上の情報にアクセスできる資料である。	各単元末の学習のまとめにおいて、「次の遺跡や遺跡から出てきたものから、印象に残ったものや行ってみたいと思ったところを3つ選び、選んだ理由を書きまよう」などの課題を提示することで、ICTを活用しての調べ学習を進めることができる(P52)。また、「インターネットで洛中洛外図屏風を見る」という個所もあり、ICTを活用することが想定される(P105)。	「ディスカッションしよう(P455)」では、ディスカッションの事前準備として資料を準備することが設定され、その際には視点が偏らないように、多様な視点で構成し収集するよう明記されているため、インターネットを利用した資料集めにつなげられる。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	各単元において、「鳥の目で見える○○」「虫の目で見える○○」、学習事項の確認、「学習のまとめ」の4つの流れで構成され、見通しをもって学習に臨めるようになっている。単元の導入部分である「鳥の目で見える○○」「虫の目で見える○○」では、単元の概要や学習の見通しが明示されている。「学習のまとめ」では年表を用いるなど、学習内容を整理して振り返ることができるようにしている。	各単元の初めのページを「扉ページ」とし、地図を活用し、この単元で学ぶことについて記されている(P54「第3章武士の世」)。また、各単元の最後には、「学習のまとめ」のページがあり、そこで年表や地図を活用し、できごとを関連させて振り返る工夫をしている。	各単元でグループでの調べ学習が設定されており「テーマを決める」「疑問を持つ」「調べる」「まとめる」「発表する」「振り返る」の手順で進められるようになっている。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	「歴史ズームイン」では、グループで調べたり話し合ったりして取り組む活動を行う「TRY!コーナー」が設定され、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う意欲を高める工夫がされている(P140「浮世絵の影響ージャポニズム」など)。	各単元の最後の「学習のまとめ」のページには、多面的・多角的に考え、話し合うために工夫している(P84)。また、体験活動として、人類が火を手に入れたことから、どのようにして火おこしをしたのか実験を行っている(P35「火おこしに挑戦する」)。	歴史を調べる活動において、教科書内に「field work」というコーナーが設定されており、具体的な課題が出され、取り組めるように工夫されている(P261「展覧会に行こう」)。「新聞にまとめてみよう」では、近世についてさらに調べて、教科書に書かれていない知識を吸収したうえで、新聞にまとめることにより、学びをさらに深めようとする工夫がされている(P263)。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	学習内容を深める「歴史ズームイン」や多角的な視点を紹介する「歴史ビュー」では、学習した内容について、より深めるための解説を行っている。さらに、歴史にかかわる出来事の意味や伝統と文化の特色などについて、多角的な視点から詳しく紹介しながら歴史学習への興味・関心を引き出し、課題発見へとつなげることができるよう工夫がされている(P128「江戸時代探検!」)。	大きく鮮明な図版を使用し、一人ひとりの発見や疑問が生まれた状態で、授業をスタートさせようとする工夫が見られる。また、文章が読みやすく、歴史の現場に引き込まれ「なぜだろう」という疑問が生まれ、それを深めていく工夫が見られる。	「四 歴史的な見方・考え方(P15)」において、生徒たちが見方や考え方を身に付けていくために、年代と時系列をつかむことや推移の読み取り、事象の比較、関連性への着目、現在とのつながりなどが明記されており、生徒たちの理解が深められるように工夫されている。
③他教科との連携の工夫	巻頭「日本の美の形」で、絵巻物や掛け軸、彫刻作品を紹介することで、日本の文化や美術分野への興味関心を高める工夫がされている。	「源氏物語」や「枕草子」などの書物を通して、当時の人々の信仰、物の見方や感じ方に気づき、文化への関心を深められるよう工夫がされている。	「歴史小説・歴史漫画を読むときの注意(P460)」として、小説におけるフィクションの在り方や、作家が史実のどの部分をフューチャーするかで描き方が変わることなど、具体的な作品を例示しながら注意点を述べた上で、小説や漫画を資料として扱えるように工夫するよう促している。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	色覚特性に配慮したカラーユニバーサルデザインが取り入れられている。折れ線グラフでは、凡例を使用しないで図中に直接示すようにしたり線種を変えたりしている(P224「主な国の失業率の移り変わり」)。また、地図では色分けだけではなく地紋を入れるなど、色以外の情報からも読み取れる工夫がされている(P39「3世紀ごろの東アジア」)。	カラーユニバーサルデザインに配慮し、色、線、マークなど見やすい工夫がされている。また、鮮明な写真が掲載され、見やすくなっている。	巻末に設けられた資料すべてに、カラーユニバーサルデザインに配慮されたものが利用されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	文字は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。また、ふりがなにはゴシック体を用いており、文字の視認性を向上させている。	文章表現や漢字の使用・ルビなどを、想定される学習学年に即して行っている。また、主体的な学習を妨げることを理由に文字の太さをそろえている。	縦書きで書かれており、行間を横書きの教科書よりも広めに設定することで、ルビふりが見えやすくなっている。フォントの使い分けが見やすくなっており、重要語句である太字もはっきりとわかりやすく書かれている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時間など)	各章で学習する時代について、日本の歴史の背景となる世界史の扱いを充実させ、世界史の視点からも日本の歴史を考察できるように配列されている。各章の導入に「歴史絵巻」を設け、学習する歴史的出来事や人物など小学校で学習した内容を振り返りながら、歴史の大きな流れを理解できるようにしている。	章の冒頭に「章の扉」、章末に「章をふりかえる」、部末に「学習のまとめ」があり、7箇所の特設ページ「歴史を体感する」がある。年表、索引、歴史地図など、歴史のできごとの相互の関連をつかんで、多面的・多角的な思考を深められるように配列されている。	歴史の真実を探究する自主性を促し、答えではなく問いを提起することを重視して構成されている。従来の歴史区分を用いつつも、我が国の歴史の特色に従って、歴史の転換点を独自に設定されている。
⑦判・ページ数	A4判 308	A4判 308	A5判 520

3 調査報告「社会・公民」16人	2 東 書	17 教 出	46 帝 国
<p>観点</p> <p>①教科目標から見た編纂の適切さ ②資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫</p>	<p>「新編 新しい社会 公民」</p> <p>学習のはじまりに生徒が興味を持ち、関心を抱く導入部があり、学習内容を理解するための手がかりが提供されている。見開き2ページで1単元の学習を構造化しており、学習内容を理解しやすとしている。歌体を用い、平易で具体的な表現で書かれている。また、難解な用語には解説を設け、生徒が理解しやすいうように配慮されている。内容を補完する学習効果の高い資料を大きく掲載し、番号を本文と資料に付し、わかりやすく校正されている。インデックスが教科書の右端に配置されており、各編・章の構成が一目でわかるようにしている。各単元は生徒が探究心を育むことができるように「学習」興味・関心を持たせる導入部、学習を進める展開部、学習をまとめる終結部」の形で構造化されている。</p>	<p>「中学社会 公民 ともに生きる」</p> <p>1単位時間を見開き2ページとし、文章や資料の読解を通して基礎的・基本的な知識・技能の習得を図れるようにしている。また、習得した知識・技能を活用して自分の考えを表現する活動が促されるように配慮して紙面が構成されている。「ウォーミングアップ!公民」(P85等)に取り組みながら、問題意識を醸成しつつ、単元を貫く課題を捉えることができる。「確認!」表現!コーナー(P63等)で学習したことを確認・整理したり、言葉で表現したりできるよう、章・節の最後に設けられている。そのことにより、学習内容を振り返り、基礎・基本の定着を図ることができる。また、自分の言葉で表現する活動や、意見を交換して考えを深める活動が行えるような工夫がなされている。</p>	<p>「社会科 中学生の公民 大きい社会を目指して」</p> <p>1つの授業時間の学習内容が見開き2ページに構造化され、学習課題が明確に設定されている。単元構成と学習内容、各種コーナーの意図や役割が一望でき、学習の位置づけや見通しをつかみやすくなっている。本文は平易な表現にすぎず、中学生の発達段階が考慮されている。「技能をみがく」コーナーが設けられ、学習の上で必要な基礎的な技能が習得されるよう配慮されている(P23)「ロールプレイング(役割演技)をやってみよう」等。見開き右下には「確認しよう」「説明しよう」が設置され、言語活動を毎時間繰り返す行い、思考力・判断力・表現力を育成できるように配置されている。学習した知識をもとに主体的・対話的に「章の問い」を振り返ることで、「深い学び」につなげられるように工夫されている。</p>
<p>②</p> <p>③</p>	<p>⑦ 学習活動を充実するための工夫</p> <p>各章や節において課題が設定されていたり、1時間単位の授業でも学習課題を設定されたり、振り返り場面では「チェック」「トライ」(P94等)により視点を明確にした言語活動が行えるよう、構成されている。また「もつと解説」(P107「検察審査会」等)では、理解させたい語句に対してより詳しい解説を、「もつと知りたい」(P97「憲法審査会と憲法の改正」等)では、学習内容をより多様な視点で考えさせ、言語活動が充実するような工夫が図られている。</p>	<p>各章の導入には、単元のポイントとなる数字が明示され、数字を意識しながら学習を進めることができる。各節においては、問いが設定されていたり、1時間単位の授業でも学習課題を設定し、振り返り場面では「確認しよう」「説明しよう」(P67、P69等)により獲得した知識を活用し、言語活動が行えるよう構成されている。また「THINK」(P83「視覚障がい者誘導ブロック(点字ブロック)」等)では、資料をより深く読み取ることで、学習内容をより多様な視点で考えさせ、言語活動が充実するような工夫が図られている。</p>	<p>各章の導入にはイラストが描かれ、「TRY」(P22)を進めていくことで学習に取り組みやすとしている。各節においては、問いが設定されており、1時間単位の授業でも学習課題が設定されている。振り返り場面では「確認しよう」「説明しよう」(P67、P69等)により獲得した知識を活用し、言語活動が行えるよう構成されている。また「公民プラス」(P79「フェイクニュースにご用心」等)では、学習内容をより多様な視点で考えさせ、言語活動が充実するような工夫が図られている。</p>
<p>④</p> <p>⑤</p>	<p>⑧ ICTを活用した学習活動の工夫</p> <p>各章の導入や1時間単位の授業に関連するQRコードが設定されている。また、1時間授業単元やそれらに関連する資料など、様々な場面でデジタルコンテンツの紹介が行われており、生徒自身が学習しやすくなるような工夫がされている。他にも、「なるほど!スキルアップ」(P45「法律用語の読み方」等)「D-MOVIE」(P51「アイヌ文化」等)といった解説動画やインターネット映像を視聴したり、端末操作を通して理解を促す「シミュレーション」(P83「選挙シミュレーション」等)、振り返りや学習を深める場面で思考整理する「思考ツール」(P72、P73)など、ICTを活用したりして、より学習活動が深まるような工夫が図られている。</p>	<p>各章の導入や1時間単位の授業に関連する「まなびリンク」(P83等)のQRコードが設定されている。また、1時間授業単元やそれらに関連する資料など、様々な場面でデジタルコンテンツの紹介が行われており、生徒自身が学習しやすくなるような工夫がされている。特に「リンク」動画を通って、思考を深めることができる。また「ワーク」「クイズ」では、振り返りや学習を深める場面で、思考を整理する場面が設定されるなど、ICTの活用により学習活動が深まるような工夫が図られている。</p>	<p>各章や各節の導入、1時間単位の授業に関連するQRコード(P74等)が設定されている。また、「図解アニメーション」「用語解説」「統計資料」など、1時間授業単元やそれらに関連する資料が、様々な場面でデジタルコンテンツとして紹介されており、生徒自身が予習や復習を行いやすくなるような工夫がされている。他にも、「NHK for School」や「他分野教科書リンク」といった理解を促すリンク集も収録されている。振り返りや学習を深める場面での思考整理する「思考ツール」など、ICTの活用により学習活動が深まるような工夫が図られている。</p>
<p>⑥</p> <p>⑦</p>	<p>⑨ 学習を見通しやすく振り返り促すための工夫</p> <p>各章では、小学校での学習内容をふまえながら、導入場面に単元を貫く問いとなる「探求課題」(P130)が設定されており、章のまとめの場面では、探求課題を解決するためのまとめができるようになっている。各節では、「探求課題」を解決するための「探求のステップ」(P132)が設定されており、1時間単位の授業では、学習課題を解決していくための本文と資料が配置されている。各章での単元を貫く問いを柱として、1単位時間の学習課題を解決したり、各節の探求のステップについて考えをまとめることで、生徒自身が学習の見通しを持ち、振り返りながら学習を深めるための工夫が図られている。</p>	<p>各章では、小学校での学習内容をふまえながら、導入場面に学習する内容の視点が明示され、「問い」が設定されている。章のまとめの場面では、「問い」を解決するためのまとめが「HOP」「STEP」①」「STEP」②」「JUMP」(P80～82等)と段階的に設定されている。各節では、「問い」を解決するためのこの問いが見通しやすく設定されており、1時間単位の授業では、学習課題を解決していくための本文と資料が配置されている。各章での「問い」を柱として、1単位時間の学習課題を解決したり、各節の「問い」について思考ツールを用いて考えをまとめていくことで、生徒自身が学習の見通しを持ちやすくなるよう、そして、振り返りながら、より学習を深めるための工夫が図られている。</p>	<p>各章では、小学校での学習内容をふまえながら、導入場面に学習する内容のイラストがあり、そのイラストからつながる「問い」が設定されている。章のまとめの場面では、「問い」を解決するため、「節の振り返り」や「章の振り返り」が表や導入のイラストを通してまとめられるようになっている。各節でも「問い」が設定されており、1時間単位の授業では、学習課題を解決していくための本文と資料が配置されている。各章での「問い」を柱として、各節の「問い」や1単位時間の学習課題を解決したり、考えをまとめていくことで、生徒自身が学習の見通しを持ちやすくなっている。そして、振り返りながらより学習を深めるための工夫が図られている。</p>
<p>⑧</p> <p>⑨</p>	<p>⑩ 自ら進んで他者と関わり合う力を育むための工夫や多面的・多角的な活動を導入するための工夫</p> <p>各章の導入では「みんなでチャレンジ」(P78「だれを市長に選ぶ?」等)が設定されており、全ての生徒が小集団を中心として、他者と関わり合えるような課題が設定されている。「みんなでチャレンジ」では、より具体的な課題が設定され、小集団で他者と関わりながら、多面的・多角的な視点を取り入れ解決に向かうことで、自ら進んで他者と関わり合う力をつけるための工夫が行われている。また、「活動コーナー」では、現代社会において、社会全体の課題から各個人の課題まで、現実社会に即した課題設定が行われている。この課題を解決していく過程で、様々な体験活動を取り入れることができるような工夫が図られている。</p>	<p>各章の導入では「学習のはじめに」で小集団で考えやすいようなイラストや資料が配置され、「ウォーミングアップ!公民」では、全ての生徒が小集団を中心として、他者と関わり合えるような課題が設定されている。また、「公民の技」(P89「選挙のしくみについて考えよう」等)では、現代社会において、社会全体の課題から各個人の課題まで、現実社会に即した課題設定が行われている。この課題を解決していく過程で、様々な体験活動や小集団で他者との関わり合いを深め、多面的・多角的な視点を取り入れ解決に向かうことで、生徒自身が自ら進んで他者と関わり合う力をつけるための工夫が図られている。</p>	<p>各章の導入では「学習の前に」(P116等)でイラストを用いて視覚的にわかりやすく、小集団で考え、話し合いがしやすくなるように配置されている。「アクティブ公民」(P119「アリアとキリギリスから選択を考える」等)では、全ての生徒が小集団を中心として、他者と関わり合えるような課題が設定されている。また、「アクティブ公民AI」(P120「もしも無人島に漂着したら?」)では、現代社会において、社会全体の課題から各個人の課題まで、現実社会に即した課題設定が行われている。課題を解決していく過程で、様々な体験活動や小集団で他者との関わり合いを深め、多面的・多角的な視点を取り入れ解決に向かうことで、生徒自身が自ら進んで他者と関わり合う力をつけるための工夫が図られている。</p>
<p>⑩</p> <p>⑪</p>	<p>⑫ 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫</p> <p>「もつと知りたい」(P97「憲法審査会と憲法の改正」等)では、1時間単位の授業において、学習内容をより深めるための工夫が行われている。章のまとめの場面において「確かめよう」(P70等)では、獲得した知識を「ワードチェック」で確認し、その内容を使い図式化を行うことで、ワードを知識として活用できる。「ふり返ろう」(P71等)では節の問いを解決し、各節で学習した内容を図式でまとめ、学習した内容を関連づけることができる。さらに、「深めよう」(P72等)では、思考ツール等を使用し、課題を解決するとともに、学習した内容をもとに、新たな課題を発見しやすくなるような問いが設定されており、問題解決的な学習や課題発見ができるような工夫が図られている。</p>	<p>「公民の窓」(P91「広がる期日前投票制度」等)では、1時間単位の授業において、学習内容をより深めるための工夫が行われている。章のまとめの場面において「学習のまとめと表現」では、獲得した知識を「HOP」で確認し、その内容を使って知識・技能の観点で振り返ることができる。「STEP」では、単元の導入で考えた内容を学習後に改めて考えることで、学習の深まりを確認することができる。さらに、「JUMP」では、グラフや資料等を使用し、課題を解決するとともに、学習した内容をもとに、新たな課題を発見しやすくなるような問いが設定されている。また、SDGsの観点も含め、問題解決的な学習や課題発見ができるような工夫が図られている。</p>	<p>「公民プラス」(P79「フェイクニュースにご用心」等)では、1時間単位の授業において、学習内容をより深めるための工夫が、「未来に向けて」では、明示されている視点から、将来の社会の様子について考えられるような工夫が行われている。章のまとめの場面において「節の振り返り」では、獲得した語句を確認し、振り返ることができる。「章の振り返り」では、「学習の前に」や単元の導入で考えた内容を学習後に改めて考えることで、学習の深まりを確認することができる。さらに、「探求学習への準備」(P112等)では、学習した内容をもとに問題解決的な学習や新たな課題が発見できるような工夫が図られている。</p>
<p>⑬</p>	<p>⑬ 他教科との連携の工夫</p> <p>理科、道徳、家庭科など他教科でも扱う学習内容には、教科関連を示すリンクマークを付し、QRコード(P20等)を読み取って当該教科の教科書を参照することで、教科を横断して多面的に学習を深められる。</p>	<p>学習内容と関わりのある、小学校の他分野・他教科の学習内容を示して、接続・連携を図りやすくしている。P229からの終章には、SDGsの視点から「社会科のまとめ」として作成した作品をもとに、主権者としての意識を高めながら、高校の「公共」の学習へとつながるようにしている。</p>	<p>小学校での学習や他分野・他教科と関連のある題材に「小学校・地理・歴史・他教科の関連」や「小・地・歴の関連アイコン」を示しており、既習事項を踏まえ、物事を多面的・多角的に捉える足がかりを設けている。また、分野間・教科間でのカリキュラムマネジメントを実施する指標となるようにしている。</p>
<p>⑭</p>	<p>⑭ 色覚・種別・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザイン等)</p> <p>カラーユニバーサルデザインに配慮してデザインされている。特別支援教育の観点から、立体感や陰影のある表現を省いたフラットデザインを採用し、学習者が学習に必要な情報に集中できるように工夫している。色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用するとともに、グラフや地図などでは、凡例を使用せずに図中に直接示すようにしたり、読み取りづらい破線や点線を極力減らしている。</p>	<p>カラーユニバーサルデザインに基づく紙面作りがされ、第三者機関CUDOの認証も受けている。社会科学習に不可欠な写真・イラスト・地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され、典拠とともに視覚的にとらえやすく配置されている。本時ページの各資料には、指示しやすいうように通し番号を付され、本文中の資料との関連がわかるように資料番号が挿入されている。</p>	<p>カラーユニバーサルデザインに配慮してデザインされている。また、すべての生徒に見分けやすい配色になっている。図版に背景色や囲み線をつけるなどして、図版と本文を区別しやすくしている。配色は、色覚特性に配慮した識別しやすい色使いとなるように工夫されている。また図版に横線や縦線、記号などを使用することによって、色以外からも情報を読み取れるようにしている。</p>
<p>⑮</p>	<p>⑮ 色覚・表現のわかりやすさ(字種、文字の大きさなど)</p> <p>ユニバーサルデザインフォントを使用している。地名・人名など固有名詞や社会科特有の用語などにはルビをつけ、文字の視認性を向上させている。資料の掲載部分を、文字などの読み取りに支障のない地色を敷いて区別することで、紙面の構造を明確化し、特別支援教育の観点で学習のしやすさを向上させている。</p>	<p>ユニバーサルデザインフォントを使用している。地名・人名など固有名詞や社会科特有の用語などには、見開きごとにルビをつけることと、主要な文字には教育的配慮を施した書体を用いている。文章は平易な表記・表現で読解に負担がかからないように配慮されている。</p>	<p>ユニバーサルデザインフォントを使用している。重要語句を示すゴシック体の太さやルビの見やすさにも工夫している。図版に背景色や囲み線をつけるなどして図版と本文を区別しやすくするなど、インクルーシブ教育へ配慮した編修を行っている。</p>
<p>⑯</p>	<p>⑯ 単元(教材の配列)の適宜(関連付け、時節など)</p> <p>単元を貫く「探求課題」を解決するために、「探求のステップ」を設け、無理なく課題解決に取り組むことができるようにしている。単元の学習をイメージしやすいコンテンツが用意され、小・中の学習を円滑に接続できるようにしている。3年間の社会科学習を貫く五つのテーマ(「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」)について、三分野共通の題材や、分野をまたがる共通の資料が扱われている。</p>	<p>巻頭で小学校の学習、他分野・他教科との学習の関連や、「18歳」へつながっていく「公民学習の全体像」を示され、学びの接続・意識をすることができ、単元を通して課題解決的に学習を進められるようにして、主権者・市民として必要な、課題を捉え、見通しを立て、主体的に解決していく力の育成が図られるようにしている</p>	<p>イラストから探す・読み解く学習活動を通して、単元の学習内容と生活経験・小学校での既習事項との結びつけや、興味・関心を高められるよう配列されている。「小学校・地理・歴史・他教科の関連」にはアイコンが示され、既習事項を踏まえ物事を多面的・多角的に捉えやすくしている。分野間・教科間でのカリキュラムマネジメントを実施している。</p>
<p>⑰</p>	<p>AB判 246</p>	<p>AB判 269</p>	<p>AB判 262</p>

3 調査報告「社会・公民科」	116 日 文	225 自由社	227 育蘭社
<p>①教科目標から見た編纂の適正性・習得・能力の3つの柱の育成に向けた工夫</p>	<p>「中学社会 公民的分野」</p> <p>1つの授業時間の学習内容が見開き2ページで構成され、学習課題が明確に提示されている。基礎的で基本的な知識や技能の習得を促すために、確認・表現コーナーが設けられている。また、単元を貫く問いが設定されており(P40)、生徒が学習の見通しを持ちやすい構成となっている。さらに、まとめと振り返りのページでは、習得した知識や技能を活用する機会が提供され、基礎的な知識を確実に身につけるよう工夫されている。社会的現象の特徴や意味を考察する問題も設けられており、対話的な問いかけにより生徒が自分の考えを言語化する機会が提供されている。さらに、単元の導入で課題が提示され、主体的に学ぶという意欲を促す工夫がされている。また、現代社会との関連を意識させる教材も用意されている。</p>	<p>「新しい公民教科書」</p> <p>重要な言葉については、「ミニ知識」(P146等)のコラムを設けて解説し、生徒が公民にかかわる重要な言葉を正確に理解できる。発展的に学習して理解を深めることが必要などでは、単元に準じた「もっと知りたい」(P20「宗教とは何だろう」等)が設けられ、自主的に学習する態度を育てようとしている。各章の最後の「学習のまとめと発展」(P22等)や終章のレポート、卒業論文、ディベート等を通して、公民として必要な主体的、実践的な資質・能力を伸ばしていくことができるようになっている。生徒の発達段階をもとに基礎的事項が厳選され、教えるべき教材を体系化し再構成し公民学習に重要なことを複数の単元に学習できるようにしている。</p>	<p>「新しいみんなの公民」</p> <p>単元の目標と学習課題が明確に設定されており、1単元につき1つの領域で指導事項を焦点化している。知識及び技能の獲得に関しては、確認問題などを通じて基礎・基本を確実に身につけられるよう工夫されている(P15)。思考力・判断力・表現力の育成に関しては、資料を活用したり対話を促したりする活動が多く設けられている。また、学びに向かう力や人間性の育成にも配慮されており、主体的な学びを促す振り返りの機会や他教科との関連を示すコラムなどが用意されている。その他、分かりやすい構成やレイアウト、ユニバーサルデザインへの配慮、視覚的に魅力的な写真や図表の掲載など、興味を持って学習できる工夫がなされている。</p>
<p>②</p> <p>⑦、学習活動を充実するための工夫</p>	<p>各章の導入にはマンガが描かれ、「トライ」(P38等)を進めていくことで学習に取り組みやすくなる。各節においては、問いが設定されており、1時間単位の授業でも学習課題を設定したりして、振り返り場面では「確認」「表現」(P43等)により獲得した知識を活用し、言語活動が行えるよう構成されている。また「アクティビティ」(P63「ビッグデータと防犯カメラ」等)では、学習内容をより多様な視点で考えさせ、話し合うような課題が設定されるなど、言語活動が充実するよう工夫が図られている。</p>	<p>各章の導入には大きな問いが設定されている。この問いは、深く考えることのできる問いとなっており、答えを導き出す時に生徒自らの力で深く考えることができる。1時間単位の授業では学習課題を設定し、振り返り場面では「ここがポイント」(P39等)により獲得した知識を活用し、言語活動が行えるように構成されている。また、「アクティブに深めよう」(P40「魅力あるまちづくりを考えよう」等)では、話し合いにより解決を図る課題が設定されるなど、言語活動が充実するよう工夫がなされている。</p>	<p>各章の導入には写真があり、章の「入り口」(P38「憲法の入り口」等)が設定されている。「入り口」を進めていくことで、話し合う場面が設定され、学習に取り組みやすくなる。各章や1時間単位の授業では学習課題を設定されている。振り返り場面では「確認」「探究」(P45等)により獲得した知識を活用し、言語活動が行えるよう構成されている。また、「学習を深めよう」(P72、P73「世界の人権問題」等)では、学習内容をより多様な視点で考えさせ、言語活動が充実するよう工夫が図られている。</p>
<p>⑧、ICTを活用した学習活動の工夫</p>	<p>各章や各節の導入、1時間単位の授業に関連するQRコード(P112等)が設定されている。各節での導入にインテロダクションムービーや「ポートフォリオ」があり、学習の流れを理解しやすくなっている。1時間授業単位やそれらに関連する「確認小テスト」「関連資料」「リンク」「動画」「スライドショー」など、様々な場面でデジタルコンテンツが紹介されており、生徒自身が予習や復習を行いやすくなるような工夫がされている。導入場面から1時間単位の授業まで、ICTの活用によって、より学習活動が深まるような工夫が図られている。</p>	<p>QRコードやリンク等が設置されていない。</p>	<p>各章の導入ページには、QRコードが設定されている(P77等)。1か所のQRコードより、章全てのデジタル資料にリンクすることができる。リンクする先として、全ての章で複数の「NHK for School」や、各章共通のリンク先として「衆議院」「参議院キッズページ」「国立国会図書館」「首相官邸」「金融庁 中学生・高校生のみなさんへ」「総務省統計局 なるほど統計学園」などが紹介されており、生徒自身が予習や復習を行いやすくなるよう工夫されている。ICTの活用によって、より学習活動が深まるような工夫が図られている。</p>
<p>⑨、自ら進んで他者と関わり力をつけるための工夫や積極的な活動を導入するための工夫</p>	<p>各章では、小学校での学習内容をふまえながら、導入場面に学習する内容のマンガがあり(P128、P129等)、そのマンガからつながるように学習内容の概要や「問い」が設定されている。章のまとめの場面では、「問い」を解決するため、「語句の意味を確認しよう」(P168等)で確認した知識を、「章の問いに答えよう」(P169)で表や学び合いの活動を通してまとめができるようになっている。各節でも「問い」が設定されており、1時間単位の授業では、学習課題を解決していくための本文や資料が配置されている。各章で「問い」を柱として、各節の「問い」や1単位時間の学習課題を解決したり、考えをまとめたりしていくことで、生徒自身が学習の見通しが持ち、より学習を深めるための工夫が図られている。</p>	<p>各章では、小学校での学習内容をふまえながら、導入場面に大きな問いが設定されており、各節の学習内容が設定されている。章のまとめの場面では「学習のまとめ」(P42)として、学習内容をともに「最重要語句」で知識の整理と定着が図れるように設定されている。「学習の発展」(P42)では生徒自らが問いを選択し、文章で解答するような課題設定がなされている。これにより、社会科の学習内容を知識の獲得のみで終わらせることなく工が見られる。各章で大きな問いから「学習のまとめ」学習の発展」まで、生徒自身が多様な視点で学習の見通しを持ち、より深めるための工夫が図られている。</p>	<p>各章では、小学校での学習内容をふまえながら、導入場面に「入り口」(P38「憲法の入り口」等)として学習する内容に関連したイラストがあり、そのイラストからつながるように学習内容の概要や各節の学習課題が設定されている。章のまとめの場面「これから」(P74「憲法のこれから」等)では、学習内容をともに写真や思考ツール等を用い、いくつかの問いについて考える場面が設定されている。また、「学習のまとめ」(P76等)として「重要語句の確認」や教員問題の問題により知識の定着を図るよう工夫されている。各章で「入り口」から「これから」までを学習をもとに、生徒自身が学習の見通しを持ち、学習を深めるための工夫が図られている。</p>
<p>⑩、自ら進んで他者と関わり力をつけるための工夫や積極的な活動を導入するための工夫</p>	<p>各章の導入では「学習のはじめに」(P38等)でマンガを用いて視覚的にわかりやすく、小グループで考え、話し合いがしやすいような「学び合い」の場面が配置されている。「アクティブ」(P119「地方交付税交付金」等)では、全ての生徒が小グループを中心として、他者と関わり合えるよう課題設定がされている。また、「チャレンジ公民」(P124「自分たちのまちの首長を選ぼう」等)では、現代社会において、社会全体の課題から各個人の課題まで、社会に即した課題設定が行われている。この課題を解決していく過程で、様々な体験活動や小グループで他者との関わり合いを深め、多面的・多角的な視点を取り入れ解決に向かうことで、生徒自身が自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫が図られている。</p>	<p>各章の導入では多様な視点による話し合いができるように、大きな問いが設定されている。「ミニ知識」(P50「古代ギリシャの政治」等)では、より学習が深まるような内容が掲載されている。「もっと知りたい」(P68「天皇のお仕事」)では、1時間単位の授業で設定されている学習課題を解決することの積み重ねにより、考えが深まるような内容となっている。「アクティブに深めよう」(P94「新聞を読み比べてみよう」等)では、既習知識を活用し、話し合いがしやすいような構成がなされている。話し合いによる課題解決を進めていく中で、自ら進んで新たな知識を得ることができたり、新たな知識を活用して、より考えを深めたりすることができるような工夫が図られている。</p>	<p>各章の導入では、「入り口」(P38「憲法の入り口」等)でイラストを用いて視覚的にわかりやすく、小グループで考え、話し合いがしやすいような場面が配置されている。「学習を深めよう」(P16「防災・減災と情報通信技術(ICT)」等)に設けられている「TRY」では、より発展的な内容を話し合いながら取り組んだり、「やってみよう」(P30「部活動の平日のグラウンド割り」を考えよう(1)等)では、全ての生徒が小グループを中心として、他者と関わり合ったりできるような課題が設定されている。また、「学習を深めよう」(P81「世論調査」等)では、社会全体の課題から各個人の課題までの課題設定が行われている。多面的・多角的な視点を取り入れ解決に向かうことで、生徒自身が自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫が図られている。</p>
<p>⑪、問題解決的な学習や課題発見が期待される資料の工夫</p>	<p>「公民+α」(P121「NPOと行政の協働」等)では、1時間単位の授業において、学習内容をより深めるための工夫が、「情報スキルアップ」(P92「新聞の読み方と伝え方を学ぼう」等)や「明日に向かって」(P102「災害に強くなる力を身につけよう」等)では、明示されている視点から、将来の社会の様子について考えられるような工夫が行われている。章のまとめの場面において「語句の意味を確認しよう」(P126等)では、獲得した語句を確認し、振り返ることができる。「章の問いに答えよう」(P127等)では、思考ツールを使用して各節の問いを横断的に考えることができ、学習の深まりを確認することができる。さらに「章の学習を振り返ろう」(P127等)では、新たな課題が発見できるような工夫が図られている。</p>	<p>1時間単位の授業では、設定された学習課題を解決するため、「ミニ知識」(P50「古代ギリシャの政治」等)「やってみよう」(P83)といった、考えを深めるヒントとなる内容が掲載されている。「もっと知りたい」(P68「天皇のお仕事」)では、学習内容をさらに深めることで理解の充実が図られている。学習内容の充実により、深い課題発見につなげることができるよう、工夫が図られている。また、章のまとめの場面では「学習の発展」(P42)により、学習内容をさらに深められるような問いが設定されている。この問いを解決していく中で、新たな課題を発見することができるようになっており、学習内容をより深め、問題解決的な学習や課題発見ができるような工夫が図られている。</p>	<p>「学習を深めよう」(P81「世論調査」等)では、1時間単位の授業において、学習内容をより詳しく説明したり、関連情報を紹介したりするなど、「見方・考え方」(P66等)では、身近なできごとや生活に影響があるような内容を扱い、学習を深めるための工夫が図られている。「やってみよう」(P121「物々交換ゲーム」等)では、本文の学習に関連して、個人や班で取り組める作業や活動を行うような課題が設定されており、多面的・多角的な視点で考えることができる。章のまとめの場面では、学習内容をより深め、現代社会の課題の即した新たな課題を発見しやすくなるような問いが設定されており、問題解決的な学習や課題発見ができるような工夫が図られている。</p>
<p>⑫他教科との連携の工夫</p>	<p>地理や歴史、小学校社会科で学習した知識を生かすことができるように、脚注に連携コーナーを設ける工夫がされている(P41)。巻末「公民+α他教科とのつながり」のコーナーが設けられ、公民的分野の学習内容と他教科との関連を示している。</p>	<p>歴史的、文化的背景や社会の仕組みについて興味をもって学ぶこと(P21)によって、これらの分野で育成された資質・能力が、更に高まり発展するよう工夫されている。</p>	<p>小学校社会科で学習した関連内容については各章扉で、地理的分野・歴史的分野で学習した関連内容については該当する見開きで紹介することにより、小・中の系統性と3分野の関連性を高め、スムーズに学習に向かえるようにしている。</p>
<p>⑬写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザイン)</p>	<p>グラフなどの情報を負担なく読み取ることができるように工夫されている。地図などの図版は、色覚に特性のある生徒も読み取りが可能になるようカラーユニバーサルデザインに配慮した配色や処理をしている。写真等の図版を大きくして、生徒の興味・関心をひきやすくし、広くなる左右のスペースにグラフや各種資料を掲載している。</p>	<p>インクルーシブ教育の観点から、カラーユニバーサルデザインに配慮してデザインされており、すべての生徒に見分けやすい配色となっている。グラフなどの情報を負担なく読み取ることができるように工夫され、色覚特性のある生徒でも識別しやすい色を使用している。</p>	<p>カラーユニバーサルデザインに配慮してデザインされている。グラフや地図などの資料については、色覚特性のある生徒でも識別しやすい色を使用している。折れ線グラフでは、凡例を使用せず図中に直接示すようにしたり線種を変えたり、地図では色分けだけでなく地紋を入れたりするなど、色以外の情報からも読み取れるように工夫している。</p>
<p>⑭表記・表現のわかりやすさ(字種、文字の大きさなど)</p>	<p>見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用している。小学校6年生以上で学習する漢字の初出箇所すべての重要語句に、ルビをつけている。本文以外の箇所にも、適切なユニバーサルデザインフォントを使用している。</p>	<p>ユニバーサルデザインフォントを使用し、ルビをふることで、文字の視認性を向上させている。資料の掲載部分で、文字などの読み取りに支障のない地色を敷いて区別することで、特別支援教育の観点で学習のしやすさを向上させている。</p>	<p>ユニバーサルデザインフォントを使用し、ルビには読み取りやすいゴシック体を用い、文字の視認性を向上させている。小さい文字が読み取りにくい生徒も読みやすいように配慮されている。</p>
<p>⑮單元(教材の配列)の適正性(関連付け、時順など)</p>	<p>公民的分野の学習のなかで、地理的分野や歴史的分野や小学校社会科で学習した知識を生かすことができるように、脚注に連携コーナーを設けるなどの工夫がされている。持続可能な社会の形成に向け、社会の課題を自分ごととして捉え、解決する態度を培えるよう配列されている。</p>	<p>公民学習において重要な内容は、複数の単元で重ねて学習すること理解を段階的に発展させながら、より深く学ぶことができるように配列されている。公民にとって重要な言葉については、適宜、「ミニ知識」のコラムを設けて、重要な言葉を正しく理解できるように工夫されている。</p>	<p>公民的分野の学習内容と自分の人生や社会とのつながりを感じることができるようにしている。「現代社会をとらえる見方や考え方」について、「対立と合意、効率と公正」という現代社会の見方や考え方の基礎を習得できるようにしている。</p>
<p>⑯判ページ数</p>	<p>AB判 274</p>	<p>AB変型判 270</p>	<p>AB判 262</p>

3 調査報告「地図」 [16人]		2 東 書	46 帝 国
観点	発行者・教科書名	「新編 新しい社会 地図」	「中学校社会科地図」
	①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫		学習指導要領に示された内容をもとに、社会科学習内容に沿った資料が選定され、教科書と併せて活用することで学習効果が高まるように構成されている。また、SDGsをテーマとした特集ページや、SDGsなどの現代的な諸課題に関連する資料を掲載し、様々な諸課題についての理解を促せるようになっている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	ア. 言語活動を充実するための工夫	地図を深く読み取るためのヒントとなる問いが「Bee's eye」として随所に設けられ、様々なことを調べたり考えたりすることができる。3種のキャラクターを使い分け、1枚の図を見て取り組む問いや2枚以上の図を組み合わせると取り組む問い、図をもとに調べたり考えたりする問いという質の異なる問いを提示し、思考・判断できるように工夫している(P23、P24中国の資料等)。	「地図で発見!」の問いに答えることで、地図の読み取りなどの地図活用の技能が身に付くことができる。また、同じ縮尺の主題図を並べ、変化や関係性などを追究できるようにしている(P31、P32中国の資料等)。「見方・考え方」を働かせながら、学びを深められるように工夫している。
	イ. ICTを活用した学習活動の工夫	デジタル地球儀「My Globe」では、地球儀と平面地図との切り替えが可能で、地球を色々な表現方法で見ることができる。また、「社会科デジタルマップ」では、地図上のアイコンをクリックすると、その場所の説明や写真を閲覧できるようになっている。「世界の気候景観」では、世界の植生を360度のVR画像で見ることができる。「Bee's eye」の解答例も収録している。	QRコンテンツ「地図帳主題図一覧」には、主題図を項目別に収録している。歴史・公民アイコンの一覧表もあり、歴史や公民的分野の学習で使える地図や資料を活用できる仕組みがある。また、「地図で発見!」の解答・解説も収録され、学習内容の習得や生徒の調べ学習を支援するコンテンツが多くあり、「個別最適な学び」に繋がる構造である。
	ウ. 学習を見通したり振り返りするための工夫	地理的分野の学習との連携を図るとともに、歴史的分野、公民的分野の学習とも連携した資料も掲載されている(P93、P137等)。社会的事象を多面的・多角的に考察しながら中学校社会科の各分野の学習に活用できるようになっている。	世界の各州には、自然環境や生活・文化、産業などのイラストを配した鳥瞰図(P29、P30中国とそのまわりをながめてみよう等)があり、地域の特色が視覚的に捉えられ、大観できるように工夫がなされている。
	エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」(P135地形と自然災害等)を設け、複数の資料を関連させて見ることを促し、学習をより広げることができる工夫がされている。	「地図で発見」では、生徒が一人でも主体的に取り組めるようになっており、中には、生徒同士の対話を意識した問いも入っている(P39インドネシアの島々で畑が広がっているのはなぜか説明しよう等)。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	「Bee's eye」を新設し、地図キャラクター「ミツバチーズ」による、地図の活用や学習を深めるためのヒントとなる問いや、1枚の図を見て取り組む問い、2枚以上の図を組み合わせると取り組む問い、図をもとに調べたり考えたりする問いという質の異なる問いを提示している。複数の資料を組み合わせることで、深い学びを実現できるように工夫している。	SDGsに関連するテーマを地図化することで、考察しやすい資料になっている。環境をテーマに「大気汚染」と「電力」には相関関係があることを、地図の比較から読み取ることができる(P32)。	
③他教科との連携の工夫	社会科の課題解決的な学習を深められるように、地図をはじめ、グラフ・写真などの資料をバランスよく掲載している。アジア、ヨーロッパ、北アメリカなど、授業で時間をかけて扱われる地域は、より多くの資料が取り上げられている。地理的分野だけでなく、歴史的分野や公民的分野の教科書の学習内容を補完する資料を掲載している(P93神戸・奈良・京都市内の地図等)。	歴史的分野・公民的分野の学習と関係が深いページや、地図・資料図のタイトル横に、「歴史アイコン」「公民アイコン」が記されている。また、修学旅行・平和学習などで訪れる場所を一望できるように地図の範囲を工夫されていて、多く訪れる史跡や名勝や寺院、おもな施設、交通機関をイラストで掲載することで、事前・事後学習などに活用できる(P109近畿地方の歴史・文化・観光等)。	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	判型をAB判からA4判に拡大し、地図を大きく見やすく、一般図の掲載範囲を広くするとともに、掲載する情報を充実させている。カラーユニバーサルデザインに対応し、色覚特性がある生徒が容易に見分けられる色の組み合わせにしている。また、不要な陰影や立体感のあるデザインをなくし、シンプルで学習内容に集中できるフラットデザインとなっている(P153等)。	全編にわたってカラーユニバーサルデザインとなっている。色や文字の書体・大きさに加えて、絵記号のデザインやレイアウトの統一(タイトル位置を紙面の左上に固定するなど)されるなど配慮されている。また、農水産物や伝統的工芸品などの絵記号は、わかりやすいデザインで、大きく示されており、(P29、P30世界遺産、小麦等)。「地名を手話で表す」コーナーでは、聴覚障がいの子やインクルーシブ教育などに配慮されている(P196)。	
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	ユニバーサルデザインフォントを使用することで、文字の視認性を向上させている。また、小さな文字が読み取りにくい生徒に配慮し、ふりがなには読み取りやすいゴシック体を採用することで、読み取りやすくなっている。	文字は、ユニバーサルデザインフォントを使用し、縮尺に応じて見やすく提示されている。地図中の国名、都道府県名の赤字には、白色で縁取りをしている。また、カラーユニバーサルデザインに配慮し、立体感のある識別しやすい色づかいにしている。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	社会科の課題解決的な学習を深められるように、地図・グラフ・写真など資料がバランスよく掲載されている。地理的分野の学習の流れに沿って、「世界全体、日本全体の資料」「世界の各州、日本の各地方の一般図と資料」「統計と索引」のまとまりで構成されている。学習効果が高まるように、地理的分野だけでなく、歴史的分野や公民的分野の教科書の内容を補完する資料を掲載されている。	世界は州ごと、日本は地方ごとに地図・資料が構成されている。資料は地域の特色が偏らずに理解できるよう、多角的に題材が選定されている。世界の州、日本の地方はいずれも、それぞれの地域の特色を具体的に読み取れるよう「一般図」→「主題図」という配列で構成されている。	
⑦判・ページ数	A4判 176	A4判 198	

発行名・教科書名	2 東 書	4 大日本	11 学 園
観点	「新編 新しい数学 ～MATH CONNECT 数学のつながり～」	「数学の世界」	「中学校 数学」
①教科目標から見た編集の適切さ ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・節の導入では問題Qと問題①②を手掛かりに、生徒が問題解決の過程を通して知識・技能を身につけることができる。 ・「章とびら」では生徒の関心意欲を高めるために日常生活の1コマと問いかけを提示することで生活と結びついた題材を用い、疑問をもとに学習への動機付けを明確にし、数学を学ぶ意義が実感できるなど、主体的に取り組める工夫がある。 ・内容のまとまりごとに学習課題や問題Qがあり「めあて」「課題」を明確にした学習ができる。 ・「クイックチェック」で、より細かな期間で理解を確認し、生徒自身がつまづきを早期に見てできる(1年P53など)。 ・「深い学びのページ」では、問題発見・解決の過程を重視した内容になっており、思考力・判断力・表現力等の向上が期待できる(2年P27～P28など)。 ・「章の問題A」では、章で学んだ見方や考え方をレポートにまとめてふり返る場面が設定されており、学びを深めるのに適している。「章の問題B」では、全国学力・学習状況調査や他教科・現代社会が抱える問題等に触れるなど、知識・技能を活用する力を問う問題を取り上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したこと「たしかめ」や適用練習「Q」を補充する「プラス・ワン」「たしかめよう」、章末の「○章をふり返ろう」、巻末の「補充問題」など、繰り返し練習できるよう問題を構成している。 ・基礎的な知識や技能を習得するために例や例題を活用することを明確にしている。加えて問題発見・問題解決の流れが示されており、思考力等が育成できる。 ・「活動」「例」「例題」が適切に配置されている。学習の流れがわかりやすい。そのため数量や図形などの基礎的な概念や原理・法則について理解しやすい。 ・利用の節に数学的活動を設定し、問題発見・解決の流れを意識した活動に取り組むことができる。 ・「思考力」を高める問題として、章ごとに「活用・探究」が設けられている。 ・巻頭の「数学の世界へようこそ」では、数学の学習の進め方において、学びに向かう力や人間性等を養うことができよう、授業への取り組み方、ノートの取り方などの記載がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誤答問題として、「正しいかな？」が設定されており、誤りやすい箇所を明確にしている(2年P16など)。 ・節末に「確かめよう」を設定し、基礎的・基本的な知識や技能の習得を確認できる(2年P22など)。 ・「Q」に数学的な見方・考え方の例を示し、問題解決の見通しを立てることにより、筋道を立てて論理的に考察できるようになっている(2年P12など)。 ・章末問題のページには、「応用」「活用」「深めよう」の項目が設定されており、その章で学習した知識を使って思考力・判断力・表現力を高めることができる。 ・章末に「さらに学んでみたいこと」を自分の言葉で記入し、意欲の向上が期待できる(2年P33など)。 ・「おしえて！」で疑問に思ったことを「Tea Break」のコラムで確認し、意欲の向上が期待できる(3年P180など)。 ・章の導入で関心を高め、「次の課題へ」と提示することで、自ら取り組もうとする力を高めている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の数学マイノートでは自分の考えだけでなく、他者の考え、問題解決の過程での気づきや振り返りを書く習慣を身につけることができる。 ・QRコンテンツに对话シートがあり、生徒同士の対話を通した学習を促す工夫がある。 ・巻末には「レポートにまとめてスライドで発表しよう」というページがあり、スライドの作り方や発表のポイントがまとめられ、言語活動の充実のために工夫がなされている(3年P262など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の「活用・探究」において式や表、グラフなどを利用して調べたり、説明したりする工夫がある。 ・問題発見・問題解決の流れを示した活動が設定されている。主体的で深い学びにつなげていけるよう工夫がなされている(1年P256～P257など)。 ・数学のことばや図などを使って、まわりの人に考えを伝える問い「伝えよう」が設定されている(2年P133)。 ・「ノートの作り方」(3年P11)、「レポートを書こう」(3年P100)では、具体例をあげながら説明されており自分の考えを数学的言語で記述する力を養うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学習内容の導入として、「Q」で考えてみよう、話し合ってみようとの質問があり、自分の考えを他者に伝える機会を設定している(2年P110など)。 ・巻末には、レポートの作成(2年P224など)、発表のしかた(2年P225など)、レポート例(2年P226など)が紹介されており、取り組みやすい。また、グループ内で発表するよう、提案もされている。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年併せて1752カ所のQRコンテンツが配置されており、ほぼ全ページに二次元コードがあり、そのページの学習内容に関わる既習事項の確認や学びを深め、広げる資料が簡単に視聴できる。 ・「節の導入」や「深い学びのページ」では、導入動画が用意されており、導入の時間を短縮し、活動に多くの時間をかけられるように工夫されている。 ・47都道府県ごとのデジタル紙面で、身の回りの数学に興味を持つ工夫がある(1年P157、P192)。 ・理解を助けるシミュレーションやフラッシュカード、実験や線香の燃え方の解説動画(2年P61)、実生活に即した動画やダイアグラムのインタビュー(2年P89)、ドローンのインタビュー(2年P94)など、多様なコンテンツが掲載され、様々な学習場面で活用できるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコンテンツは「数学の世界Webプラス」として全273箇所(1年102箇所・2年73箇所・3年98箇所)シミュレーションや動画、資料などが多く用意され、二次元コードで読み取ることによって生徒が思考ツールとして活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年併せて326個のデジタルコンテンツがあり、生徒が思考する上で役に立つ。 ・情報処理を行う場面では、コンピュータの効率的な活用ができるようにその使い方が明記されている。巻末折込でプログラミングでグラフをかき活動を扱っている(2年巻末、3年巻末)。 ・データの活用の単元では、様々な統計データ資料のリンクが紹介されており、データ分析に役立てられる。 ・各単元でアニメーションの機能が多用されており、自ら分析・検証ができる。 ・教科書アドバイザー「マスマス！」では、チャット形式で生徒の質問に端的に答えている。教科書の該当ページがわかり、内容を確認することができる。 ・ヒストグラム、箱ひげ図の描画がしやすいSGRAPAと提携したコンテンツがある。
②主体的・対話的で深い学びについて	<ul style="list-style-type: none"> ・章のタイトルは、めあてに適した文章で表現され、見通しをもって学習に取り組むことができる。 ・「学びをふり返ろう」では生徒自らが働かせた見方・考え方を振り返って意識し、そのよさを実感するとともに、今後の学習においても同じ見方・考え方を働かせられる場面が示されている(1年P67など)。 ・「数学の目でふり返ろう」や「学びのペース」では、小学校までの算数とのつながりやまとめを確認することができ、復習したり見通しを持つことに適している(1年P249)。 ・「章とびら」では、身近な1コマの場面を提示して、章の学習を通して身につけたい力、解決すべき生徒の疑問を引き出せるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項との関連を重視した導入課題「考えよう」により、新たな学習へ興味・関心をもって取り組むことができる(2年P139など)。 ・巻末の付録の「まとめ」を切り取ってミニ冊子が作れる。付録には「学年のまとめ」があり、習得すべき技能や知識などが簡潔にまとめられている。 ・「学びにプラス」で学習を振り返り、それらを活用できる問題を提示している。章末に「○章をふり返ろう」を設け、評価の際に活用できるように工夫されている(2年P163～P164など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・節の導入で、新しい学習内容への興味・関心が得られるよう、身近な題材を扱い、自然に出される疑問を発見することができる。 ・「Q」として数学の問題におきかえ、話し合いをする中で、これからどんな学習をしていくのかという「目標」を、自分たちの言葉で表し、学習を進めていくことができる。 ・学習をする中で発見した疑問から、「次の課題へ！」とつなげていくことができるように工夫されている(2年P70～P73など)。 ・章の学習の最後に、「できるようになったこと」として、これまでの学習からどんなことができるようになったのか、自分で判断できるようになっている。また、「さらに学んでみたいこと」を自分のことばで記入することで、もっと学んでみたいという意欲をもたせられるように工夫されている(2年P33など)。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見が出やすい場面には「対話シート」が用意されている。主体的に自分の考えを表したり、共有したりしやすいように、大きな図が配置されており、ペア学習やグループ学習、教室全体での意見の共有などの協働的な学びの場面で1人1台端末を効果的に活用できるようになっている(2年P174など)。 ・巻末に付録があり、観察、操作などの体験的な活動が行えるよう工夫されている。特に正多面体だけではなく、錐体の体積を学ぶときにも実際に立体模型を作り、理解の定着を図ることができる(1年P313)。 ・MATH CONNECTでは社会と関連した題材があり、他者と関わるができる(1年P112～P113など)。 ・黒板の両端が入る位置を端末のカメラを用いて調べる活動で、日常とつながりを経験できる(3年P168)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時に「活動」を取り入れ、興味付けを図り、「めあて」を明示している。そして課題解決に向かう中で主体的な活動を促している。 ・「活用・探究」を含め、身近なことを問題として取り扱っている。「数学に生かして考えよう」では体験的な活動が提示されている(2年P202など)。 ・巻頭で問題の解決過程や研究のしかた、ノートの作り方などが紹介され、主体的に活動できるように工夫されている。 ・数学的活動に主体的に取り組む、対話的に学びを深めていく工夫がなされている(3年P78～P79など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明する力を身につけようでは、自分の考えを人に伝え、人の話を聞くことで他者の考えを説明できる場面を設定している(1年P228～P229、3年P127など)。 ・登場人物の対話を視覚化することで、どのような視点で対話をしていけばよいかが分かりやすく、話し合い活動の活性化につながりやすくなっている(1年P158～P159など)。 ・巻末の付録に正負の数のカードゲームや立体模型があり、実際に活動しながら学べる。 ・数学的活動のページでは、日常生活や社会の事象を数理的にとらえ、数学的に考える資質・能力を育成することができるようになっている。また、話し合いをベースに、生徒が主体的に問題発見から課題解決、さらに新たな問題を発見する過程を協働的に進めるように工夫されている(2年P27～P28など)。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭「大切にしたい数学の学び方」では、問題解決の授業の流れに沿って各場面での重点を整理し、後の学習でも意識して取り組めるよう工夫されている。 ・巻末の立体模型をつくる付録では、体積についての課題発見が実感しやすい教材となっている(1年P313)。 ・算数と数学の学びをつなぐ「0章 算数から数学へ」が設けられており、オープンエンドの問題を扱うことで、授業開きに数学的活動の楽しさを味わいながら「学び方」が学べるようになっている(1年P11)。 ・「数学の自由研究」を活用することで、日常とも関連した課題解決学習に取り組める(3年P261など)。 ・「深い学び」では、問題を解決するための順序が細かく示されており、生徒自身が問題解決の進め方を意識しながら取り組むことができる。「深める」では、問題の条件を変えるところなるかなど、今までの学習を発展的に考えるきっかけを示し、生徒がより深い学びができるように工夫されている(3年P63～P65など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の世界へようこそ」では、「問題発見・解決の流れ」を掲載し、生徒が意識できるよう工夫されている(1年P7)。 ・巻頭の「見方・考え方」のまとめで「見方・考え方」について知る機会を設けている(3年P9など)。 ・様々な問題の考え方が提示されており、それらをどのように考えたのかを問う問題が多く設けられている(1年P120など)。 ・問題発見・問題解決の流れを意識しながら取り組めるよう工夫されている。特に統計的な問題解決を身につけさせるため、PPDACサイクルによる数学的活動が示されている(2年P176)。 ・生徒が主体的に問題を見出し、解決することができるよう問題発見・問題解決の流れを示した活動が設定されている(3年P36～P37、P69～P70など)。 ・「発見！仕事のなかの数学」などで、社会にリンクという形式で、興味を持って学習を促す内容が挙げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわり生活から、自ら問題を見出し、数学的な問題に焦点化化する中で必要な知識や教養が身につくように工夫されている。実際に「問題発見」→「問題を考える」→「まとめる」→「次の問題発見」→「協働的な数学的活動」→「ふり返り」→「自分を直見しまとめる」といった過程になっている。 ・「さらなる数学へ」や「数学へのいざない」では、章の内容を深めたり広げたりする事象を提示し、数学のおもしろさを実感しながら解決できるようになっている。 ・巻末に震源地や因数分解の課題シートが用意されており、様々な方法で問題解決に取り組むことができるよう工夫されている(3年)。
③他教科との連携の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との関連が強い内容には「教科関連マーク」をつけ、教科横断的に取り組める(2年P56、P237など)。 ・2年章末では二酸化炭素の排出量を削減する問題など、環境保全の意識が高まる問題を扱っており、家庭科との連携の工夫がされている(2年P56)。 ・巻末の【MATH CONNECT】にアメリカのホームステイを題材にして摂氏と華氏の扱いや靴のサイズの表記の違いに触れ、英語科との連携が工夫されている(2年P234)。 ・「食品ロスの未来を予測しよう」では、9年間の食品ロスの量から将来の食品ロスの量を予想する活動を通して、食品ロスについて考えられるようになっている(2年P233)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物のページ「MATHFUL(マスマフル)」を設け、数学を学ぶことの面白さや考えることの楽しさを味わうことができる。 ・2年6章のデータ分析では理科に関連する岐阜の気温の比較を取り上げている。 ・文字式ではグラウンドのトラックを扱い、1次関数では標高と気温など、保健体育や理科、社会科等に関連する題材を取り入れている。また、他教科と関連する内容にはマークをつけ見やすくしている(2年P63)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を意識した「数学の力」(2年裏見返し)や章末に「数学へのいざない」が掲載しており、数学が身の回りの様々な場面に関連していることを実感できる。 ・「今の自分を知ろう」では、持続可能な開発目標について記載されており、世界や環境問題に目を向けるような工夫がなされている(1年P278～281)。 ・様々な地域の降水量の違いを扱い、考察でき、社会科との連携がされている(2年P202～P203)。 ・メルボルンと東京の日ごとの最高気温を比較し、社会科との連携の工夫ある(2年P210～P212)。 ・日本の年平均気温の推移について取り上げ、気温上昇を通して理科や社会科と連携されている(2年P228～P229)。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・「Q」の問題を囲んだり、「例」「問」の範囲のまとまりがひと目で分かる罫線をひいたり、間隔を十分にとるなど、内容が分かりやすいレイアウトを工夫している。 ・必ず身につけてほしい基礎的な問題を「♥マーク」で示したり、補充問題で少し難しい問題を「★マーク」で示すなど、個に応じて指導が行えるように工夫している。 ・ポイントは水色、問いかけはうすだいだい色など、対照的な色を使うことでとも見やすく工夫している。 ・吹き出しが多く、生徒が自分で考えを進める手立てとなっている。 ・生徒の活動を促す場面では身近な写真を多く用いることで親近感や臨場感がある(3年P114など)。 ・色覚等にも配慮し、カラーユニバーサルデザインを採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの項目で、□…1時間、□□…2時間のようにその項目での目安の指導時数が分かりやすく示されている。 ・色覚等にも配慮し、カラーユニバーサルデザインを採用している。 ・キャラクターに外国にルーツを持つ生徒を設定したり、写真やイラストにも外国人などを掲載したりするなど、多文化共生の視点を意識づけさせるような工夫がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実写よりもイラストを多用することで親しみやすい。 ・立体図形には、濃淡をつけた色が塗られていて、わかりやすく示されている(1年P203～)。 ・目標が四角囲みで色付けされており、わかりやすい。 ・「Q」が大きく表記され、色付けもされているので、何について考えればよいか分かりやすい。 ・生徒の吹き出し部分と説明部分を分けるために、吹き出し部分には色をつけるなど工夫している。 ・数学者の紹介にはイラストでなく、写真を用いている。 ・色覚等にも配慮し、カラーユニバーサルデザインを採用している。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・文節改行を取り入れていること、例や問いに罫線を入れてまとまりのある表現がされていることで内容が把握しやすい読みやすい。 ・節毎の見出しが非常に大きく、どの内容を学習しているのかがわかりやすい。 ・文字の大きさが適切でゆとりのある紙面である。側注にマーク等が配置されており読みやすい工夫がなされている。 ・ルビなどの小さい文字には、見やすく読みまちがえないユニバーサルデザインフォントを採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「発問」「ヒント」「活動」ごとに言葉の使い方を換え、なじみやすい。 ・文字の読みやすさに配慮したUDフォントが使用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が大きく、文字間や行間にゆとりがあり、見やすく、理解しやすい。 ・文章が文節改行になっており、読み取りやすい。 ・吹き出しを多く活用するなどの工夫が見られる。このことで、問題解決における見方・考え方の活用法が分かりやすく、自己の学びの振り返りを助ける効果がある。 ・文字の読みやすさに配慮したUDフォントが使用されている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちよつと確認」として、関連する既習事項を確認できるようにしている(2年P60など)。 ・正の数、負の数の学習の前に「整数の性質」として、素数や素因数分解を扱っている(1年)。 ・二次方程式の解法について、平方根の考えにもとづく解法、解の公式による解法、因数分解による解法の順で取り扱っている(3年)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思い出そう」として、関連する既習事項を確認できるようにしている(2年P69など)。 ・正の数、負の数の学習の前に「数の見方」として、素数や素因数分解を扱っている(1年)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ領域にある章を示している(2年P8など)。 ・同じ領域にある章の初め(3年P140など)や余白(3年P225など)に「ふりかえり」として、関連する既習事項をまとめている。
⑦判・ページ数	B5判 1年324 2年260 3年292	B5判 1年324 2年250 3年302	B5判 1年328 2年270 3年330

発行年・教科書名	17 教 出	61 啓林館	104 数 研
観点	<p>「中学数学」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各章の最初には「〇〇を学習する前に」があり、既習事項の確認、節末の「基本の問題」で基本的な知識・技能を習得し、各章の「学習のまとめ」で用語など基礎知識を確認でき、学習の定着を促す工夫がされている。 「数学的活動」を複数の章に設置し、問題発見・解決の過程を意識して取り組めるようレイアウトされている。 章末の「学んだことを活用しよう」、巻末の「学んだことを活用しよう+」では、思考力が必要とされる問題が用意されている。 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、「学びのプロセス」のページが設けられており、思考力・判断力・表現力を伸ばせるように工夫されている(2年P59など)。 「章のとびら」では、実社会や先端テクノロジー等に関する話題が取り上げられていて、数学と社会とのつながりについて考えを深めることができる。 章末の「学習のまとめ」では、学習感想を書かせる場面が設けられており、学習を振り返って評価・改善しようとする態度が養えるようになっている。 「数学のごと人」では、仕事に数学を活用している人へのインタビュー内容を掲載し、将来の職業を考えるきっかけになっている(2年P146、147など)。 	<p>「未来へひろがる数学」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「問」と同じ種類の問題をQRコンテンツの「補充問題」で用意しており、知識・技能が定着できる。 章末「学びをたしかめよう」を充実させ、基本的な知識・技能の定着を確認できる。 説明し伝え合う活動の充実のために「説明しよう」、「話し合おう」が設定されており、表現する力を育成するために「まとめよう」が設定されている(2年P17、P23、P78など)。 思考力・判断力が学習で培われ、さらに創造力が養われるように章末問題「学びを身につけよう」で多種多様な問題が設けられている。 誤答の誤りを指摘する課題やことがらが成り立つ理由を説明する課題など、思考力・判断力・表現力が一体的に養えるようになっている(2年P23など)。 「数学ライブラリー」が多数用意されており、数学の歴史や発展的な事柄を自ら学ぶのに適している。 「〇〇の利用」の節では、ステップ3の「深める例」で、主体的に取り組む課題がある(2年P24、25、26など)。 「学びをいかそう」では、日常生活に置き換え問題解決を図り学びに向かう力が養われる(2年P212など)。 導入の「学習のとびら」では、数学と日常との関わりを実感できる場面が設定されており、生徒が興味・関心を持って学習に向かうことができる。 	<p>「これからの 数学」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各章に入る前に、その章に必要な知識や関連する既習事項について確認できる。 基礎的な問題を繰り返し練習できるようになっている。 巻頭の「学習の進め方」「ノートのつくり方」など学習内容の習得と合わせて学び方が身につけられる。 補充問題が用意しており、「力をのばそう」では難易度の高い問題に取り組むことができる。 キャラクターの吹き出しが多用されており、様々な見方・考え方に触れることで、思考力・判断力・表現力を育成することが期待できる(2年P29など)。 「TRY」で「方法の説明」や「理由の説明」をする場面を作り、表現力を高めることができる。 生徒と先生のキャラクターの対話が数学的な見方や考え方を具体的な形で示す目的で設けられているので、自然と学び方が身につくようになっている。 学び方についてのチェックシートが用意されており、学び方に対する意識が高まる(後見返し)。 「考えよう」、「調べよう」など、活動的な話題が各所にあり、興味・関心に応じた学びができる。 巻末に図形を切り取り、組み合わせて考えを深めることができる資料が用意されている(3年P25)。
①教科目標から見た編集の適切さ ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなに説明しよう」や「話し合ってみよう」、「学びの広場+」において、自分の考えを説明したり、解法を話し合ったりする課題が設けられており、数学的な表現力を高めることができる。 キャラクターによる問いかけが多くあり、言語活動を行いやすい。 「〇〇を学習する前に」(2年P106など)で関連する既習事項を確認し、導入の「Let's Try」(2年P108など)で新しく学ぶ内容に主体的に考えて交流するつくりになっている。 「レポートを書こう」では、書き方が示されていて、生徒の助けとなる(3年P231など)。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くのページに「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」との項目があり、自分の考えを整理して伝えたり、他者と自分の考えを比較したりして考える機会が設定されている。 巻頭ではノートの工夫として、他者の意見をノートに残す例(2年P9)など、対話的な活動の記録を記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラクターの吹き出しを利用することで、話し合いが円滑に進むように工夫されている。 「Q」や「TRY」では、自分の考えを他者と交流したり、数学的用語を用いて説明したりできるようにしている。 対話場面が示されていることで、生徒の思考活動の手助けとなるように工夫されている(1年P16)。 各章の終わりに「学んだことを活用しよう」(2年P70など)で発展的な内容について考え、自分の考えを伝えて交流することができる内容がある。 巻頭の「ノートのつくり方」(2年P10など)では、他の人の考えを書くように対話的な活動を例示している。 「レポートを書こう」(3年P104など)で、自ら発見したテーマで考えをまとめることができるようになっている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツが全学年で575箇所あり、効果的に学習できるよう「まなびリンク」があり、動画、資料、統計ツールなどのコンテンツを視聴する形式になっている。また、コンテンツを活用して生徒の自学をサポートするための教材もある。 立体的な表現や実験映像を見ることができるアニメーションや映像、思考錯誤的な操作が可能なシミュレーションなどのコンテンツも多数ある。 統計ツールや学習に必要なデータが多数用意されており、ヒストグラムや度数折れ線などが簡単に作成することができるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年でコンテンツの数が1384(現在準備中も多い)あり、例題の解説動画、思考のための補助資料、外部サイトへのリンク、節の導入「学習のとびら」の場面理解など、数学的活動をサポートするコンテンツも設けられている。 各問題に二次元コードが配置されており、それぞれにマークと言葉が添えられ、内容がわかるようになっている。 「ふりかえりCBT」が準備されており、全国学力・学習状況調査への対応が考えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの数は、1年生114、2年生94、3年生105、全部で313である。「補充」「イメージ」「資料」「考察」「探究」の5種類のコンテンツがある。 全国学力・学習状況調査の過去の問題にリンクする二次元コードが、該当する内容のページに記載されている(2年P138など)。 動きを伴う教材などは、アニメーションや動画のコンテンツが適宜用意されており、学習内容が理解しやすい。 変化のきまりを調べたり、分類の基準を考えたりする活動場面には、生徒が自由に操作できるコンテンツが用意されており、いろいろな角度から考えることができるようにしている。 インターネットリテラシーについて書かれたページがあり、ICT活用の参考にできる(1年P256)。
③他教科との連携の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 章の最後に「学習のまとめ」があり、各章の基礎・基本の習得事項を確認することができる。 章の導入課題「Let's Try」では、日常の事象の考察から数学的活動を行ったり、生徒の疑問を引き出し、学習のめあてを設定したりすることができる。 巻末では、算数の内容をいつでも振り返ることができ、「学びのマップ」として系統性が把握できる(1年P288～P296)。 知識・技能を活用する場面で「学びのプロセス」ページを設け、問題発見・解決の過程を生徒に意識づけられるようになっている(2年P199～P200など)。 「学びのマップ」では、どの学年での学習内容と関連しているのかがわかり、復習しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての節の先頭には「学習のとびら」(導入課題)が設定されており、その節の学習を進めれば解決できる身のまわりの問題などを取り上げているため、学ぶ楽しさや意義を実感できる。また、解決の見通しを話しあうなどの活動も取り入れ、主体的・対話的で深い学びが展開できるように構成されている。(2年P36～P37など) 「〇〇の利用」の節には「ステップ方式」の問題発見・解決を導入し、「問題を設定する、解決する、解決の過程をふり返って改善を図ったり新たな問題を設定したりする」といった数学的な問題発見・解決の過程を意識できるように工夫されている。(2年P24～P25など) 単元末に「〇章のあしあと」を設定し、章を終えてわかったこと、さらに学びたいことなどを振り返り、次の学びに進めるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各章で「ふりかえり」という形で既習事項の振り返りが用意されている。 見返しとして巻末に学び方についてのチェックシートが用意されており、自立的な学び、協働的な学びそれぞれについて、学び方に対する意識が高まるように工夫されている。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを説明したり、他者に伝え合ったりする活動を充実させる場面が設定されている(2年P28、P31など)。 巻末では点字を取り上げ、そのしくみを知ることを通して、自他の敬愛と協力を重んじる態度や、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるように工夫されている(2年P230)。 巻末の付録に立体模型や、データの分析で活用する紙コプターがあり、実際に活動しながら学ぶことができる(1年)。 「学びのプロセス」のページで問題発見・解決する活動を通して、自立的・協働的な学びを行い、自他を尊重する態度を養うことができる(3年P38など)。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習のとびら」(導入課題)や利用課題では、生徒どうしが一緒に考える場面を多く取り上げ、協働的に学習を進めていくことができるように構成されている(2年P24など)。 多様な考え方を引き出したい場面には「話しあおう」を置き、みんなで出した考えのよさを認め合いながら問題解決などを進めていくことができるようになっている(2年P36など)。 	<ul style="list-style-type: none"> 「方法の説明」や「理由の説明」を各所に設け、伝え合う力が高まる構成である(2年P122、P168など)。 「学習の進め方」では、グループ学習を行ったり、発表したりする際の注意点がある(2年P8など)。 「考えよう」「調べよう」など、活動的な話題を各所に設け、興味・関心に応じた取り扱いができるように工夫されている(3年P230～P231など)。 「TRY」という学習場面では、吹き出しを多用し、対話的な学びの参考になるようにしている。 データ活用の章末に、PPDACサイクルのページが設けられており、調べ学習に活用できる(1年P256)。 図形の移動や作図、立体模型を切り取って実際に活動することで、視覚的に理解がしやすい。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	<ul style="list-style-type: none"> 問題構成が、「学習過程で生じる生徒の疑問」→「学習してわかったこと・解決のしかた」→「新たな疑問」へつながる構成になっており、問題解決学習が行いやすい。 「学びのプロセス」ページでは過程を細かく明示、問題発見・解決の過程がわかるようにしている(2年P30～P31など)。 吹き出しの「?はてな」では問いを、「!なるほど」では分かったことや解決の仕方が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップ方式」が採用されているページでは、問題解決だけでなく、更に深める場面があり、課題発見につなげられる(3年P155など)。 全ての単元に「〇〇の利用」の節が配置されており、その中の節にはスモールステップで問題を発見し、解決するための工夫がされている(2年P24、P25、P26など)。 「学びを生かそう」では章の内容を深めたり広げたりする事象を提示し、数学のおもしろさを実感しながら解決できるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「TRY」の問題が問題解決的な問いになっており、キャラクターのコメントなどをもとに手順を踏んで解決できるようになっている。 章末の「学んだことを活用しよう」では、その章で学んだことをもとに日常の事象と関連させ、発展的な課題に取り組めるようになっている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	<ul style="list-style-type: none"> 時差、ドレッシング作り、地震の波などの題材を取り上げ、教科横断的に取り組める。 「数学の広場」では、数学に関連する知識、数学の歴史的・文化的な話題などを掲載し、他教科との関連についても興味を持てるような工夫がされている(3年P101など)。 「数学しごと人」では、社会で活躍している人へのインタビュー内容が掲載しており、キャリア教育としても活用できるようになっている(3年P180など)。 冬目の日数の経年変化、食塩水の濃度、エッシャーのしきつめ絵などを題材として取り上げ、教科横断的に取り組めるようになっている(2年P208、2年P231、2年P273)。 【さくいん】では英語の表記を併記し、数学の国際性を感じられるようになっている(2年P271など)。 「ひろがる数学」や「数学の広場+」では、社会科や理科、美術科との関連がある題材がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科との関連として雷の音の伝わり方やばね、食塩水の濃度、保健体育科との関連としてAEDの重要性に関する内容や運動場のトラックのレーンに関する内容、身体活動量に関する内容を取り上げている(2年P64、P74など)。 道徳科との関連として、自分と異なる意見や立場を尊重することなどに配慮し、互いに協力しながら活動できるようにしている(2年P49など)。 紙パックのリサイクルなどSDGsを意識した題材が複数扱われている(1年P139～P141)。 	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの習熟に課題がある生徒のために、コンテンツで一覧を参照できるようになっている。また、数学でよく使われるアルファベットについての説明もあり、わかりやすい。 水圧の話題を取り上げ、理科で学ぶ内容と数学との関連が理解できるようになっている(1年P263)。 章末の「学んだことを活用しよう」では、時差やランドルト環など社会科にもつながる(1年P60、P156)。 巻末の「チャレンジ編」では食塩水の問題を取り上げ、理科と関連している(2年P227)。 6章では中学生の体力の変化に関する話題を通して、健やかな身体を養う意識が養われるようになっており、保健体育科との関連が見られる(2年P178)。
⑦判・ページ数	B5判 1年346 2年278 3年314	B5判 1年302 2年238 3年282	B5判 1年320 2年270 3年328

3 調査報告「数学学」[10人]

発行巻・教科書名	116 日 文
①教科目標から見た編集の適切さ ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	「中学数学」 ・「基本の問題」で基礎・基本の理解を確認し、章末は「○章の問題」と「とりくんでみよう」で標準的な問題、応用的な問題に取り組めるようになっている。 ・各章に入る前に、既習事項を確認する「次の章を学ぶ前に」が設定されており、スムーズに課題に取り組むことができる(2年P11など)。 ・すべての章に「説明できるかな」として、事柄や事実、方法や手順理由を説明する記述式問題が用意されており、数学的な表現力を高める手立てがうたれている(2年P36など)。 ・「主体的に学習に取り組む態度」を評価するための課題として「学びに向かう力を育てよう」が各章に設定されている(2年P23など)。
ア. 言語活動を充実するための工夫	・話し合いを通して解決し、よりよい考えに高める活動として「話し合おう」がある(1年P81)。 ・「説明できるかな」というマークの付いた問題を設け、理由や方法・手順などを数学的用語を用いて説明できる力が養えるよう工夫されている(1年P243など)。 ・キャラクターの吹き出しのコメントをもとに、言語活動が行いやすくなっている。 ・巻末に切り取れるふり返しシート(2年P245など)がついており、学習を振り返って作文をする形式になっている。 ・「数学研究室」(2年P206～)では発展的な内容について考え、交流して問題を解決する機会が持てる。 ・連続する整数の和を例に、数学レポートの作り方(2年P216)の説明がある。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	・コンテンツの数は1年生165、2年生116、3年生110全部で391。 ・「見る」「ためす」「身につける」「ためす」「図形のまとめ」「調べる」「統計ツール」のコンテンツが用意されている。各ページにコンテンツの二次元コードが載っていて活用しやすい。また、二次元コードから各章に設けられたコンテンツ一覧が確認できる(1年P10など)。 ・ヒストグラム、箱ひげ図の描画がしやすいSGRAPAと提携したコンテンツがある。 ・「データの活用」領域では、ヒストグラムの階級の幅を自由に変えたり、度数と相対度数、ヒストグラムと度数分布多角形を切り替えたりできる統計ツールが用意されており、視覚的に様々な事象が理解しやすい。 ・「プログラムと数学」では、Scratchのソフトを取り上げ、素因数分解をプログラミング的思考を使いながら学べるページが設けられている(1年P260～P261)。
ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	・「ノートのくふう」に記述例が示されており、次の学習に生かすことができる。また、数学レポートの記述例もあり、既習の知識が振り返れる(1年P262～P263)。 ・各章に、数学のよさについて考える活動や数学の生活や学習に生かす活動、解決の過程を振り返って評価・改善する活動、多様な考えを認め、よりよく解決する活動が適宜ある(2年P6など)。 ・新しい章に入る直前には、既習事項を確認する「次の章を学ぶ前に」という項目が設けられ、新しい章の学習をスムーズに行えるような工夫がされている(2年P37など)。 ・「学び合おう」や「ふり返しシート」には、その学習の場面における振り返りの観点が明示されている(2年P110)。 ・「大切な見方・考え方」が書かれており、知っていることを使えるようにしたり、同じように考えることを明示したり、学習のステップを明確にしたりしている(1年P31など)。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	・「話し合おう」や「説明できるかな」のマークがついた、問が設けられており、数学的な活動を通して他者との関わり合いの中で思考を深めていけるように工夫されている(1年P88など)。 ・身近な事象を数学の問題にする過程や、学んだ数学から新しい数学の問題を見いだしていく過程を丁寧に扱っている(2年P92、P157など)。 ・各章の「数学のたんけん」や巻末の「SDGsと数学」「数学を仕事に生かす」「数学研究室」「プログラムと数学」では、様々な場面で数学が活用されていることを知ることができる(2年P94、P201～など)。 ・「学び合おう」では問題解決型の授業展開を明示し、生徒が対話しながら問題解決を行う「対話シート」(3年P283など)が用意されており、学びを深めるのに活用できる。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	・巻頭で数学的な見方・考え方を分類して掲載し、側注にも「大切な見方・考え方」を提示することで、生徒が見方・考え方を意識できるように工夫されている。 ・「誤答に注意！」とかかれた吹き出しを使って、まちがいがやすい箇所を考え、問題解決が図れる(3年P15など)。 ・小節末に「次の課題」が適宜示しており、新たな課題に気づき、次の学習への課題意識を高める(3年P151など)。 ・「7章データの活用」では、目的に合わせてデータを収集、整理し、その傾向を捉える手順の書かれたページが設けられており、問題解決的な学習の参考になっている(1年P234、P235)。 ・「学び合おう」では問題解決型の授業展開がはっきりと示されている。自分の考えを持って話し合いを行い、問題解決までの過程が分かりやすく記載されている(1年P52～P53、2年P92～P93など)。
③他教科との連携の工夫	・保健体育科(巻頭見返し、2年P32～P33)、理科(2年P86～P87、P96、P209)、国語科(2年P101)、英語科(2年P243)など、他教科と関わりのある内容を取り上げている。 ・防災教育や環境教育との繋がり、数学を活かし働く人のコラムなどで、社会参画を意識している。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	・巻頭見返しや章の扉では、生徒に疑問を抱かせ、どうすれば疑問を解消できるのかと興味を引くようなことがらを写真やイラストを使い、示されている。 ・全ての生徒が等しく学べるように、カラーユニバーサルデザインを採用している。 ・イラストが性別による役割の固定化がないように配慮されている。 ・キャラクターに外国にルーツをもつ生徒を登場させたり、制服姿で登場する女子中学生にスラックスやスカート履かせるなど、多様性を認めるように表現されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	・UDフォントの使用や文章を読みとりやすい位置で改行したり、図中の文字を大きくしたりしてあり、読みやすい。 ・各小節の横欄(大切な見方・考え方)には、生徒がどのような見方や考え方を働かせれば良いのかがわかりやすい表記されている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	・各章の初めに「次の章を学ぶ前に」として、関連する既習事項を演習問題で確認できるようにしている。 ・導入の問題に「Q」(確かめよう)や横欄に「確かめ」を設けている(3年P130など)。
⑦判・ページ数	B5判 1年326 2年266 3年304

学習者	17 歳 出	61 森林林
<p>探究する力、確かな学力、デジタルの学びの3つの特色をもたせた編集となっている。巻頭に探究の進め方についての記載があり、章内に同じ記号を用いて記すことで、疑問から課題を設定し結論にいたるまでの科学的に探究する力を育みやすいよう工夫されている。「学習前の私、学習後の私」として、学習前の素朴な疑問と、学習後に考える投げかけを示している箇所があり、生徒が自分の成長を実感できる工夫がなされている。</p>	<p>「自然の探究 中学理科」</p>	<p>「未来へひろがるサイエンス」</p> <p>丁寧な本文の記述、探究を通して学ぶ構成、1人1台端末の有効活用の3点を重視した編集となっている。巻頭に探究の進め方についての記載があり、学習課題から目的、方法、結果、観察の流れで学びを深められるよう設定されている。単元のはじめに「単元を貫く問い」が掲載され、何ができるようになるかなどの見通しをもつことができるよう工夫されている。探究の過程を通じた学習過程が組まれており、科学的に探究するための資質・能力が育まれるよう工夫されている。特に各単元に設置されている「探Q実験」「探Qシート」は生徒が主体的に探究できる適切な題材が配置されている。</p>
<p>生徒キャラクターが探究の過程ごとに意見交換したり、議論したりと考えを整理する場面が掲載されており、生徒が対話的に学び合う活動へとつながられるように配慮されている。活動場を「話し合おう」や「発表しよう」などで明確に設定している。身近な生物の体の特徴と見られる場所を調べる(1年P15)では、観察してまとめた結果を学級で発表する活動を取り上げている。また、実験ごとにその実験方法や仮説について話し合う場面を設定している。</p>	<p>「探Q実験」では、理科の見方・考え方を働かせたキャラクターの対話例が示されており、対話が豊かになるよう配慮されている。サイエンス資料では、「理科における話し合い」「探究の成果を発表してみよう」が取り上げられており、言語活動の要点が示され、発表活動の方法や進め方が紹介されている。「考えてみよう」や「発表してみよう」では、自然事象を考察して表現する場面が設定されている。物質Xの正体を調べる(1年P14)や化学変化の前後の物質全体の質量を調べる(2年P193)などでは、班で考えた仮説や結果を他の班と発表し合う活動を取り上げている。</p>	<p>「探Q実験」では、理科の見方・考え方を働かせたキャラクターの対話例が示されており、対話が豊かになるよう配慮されている。サイエンス資料では、「理科における話し合い」「探究の成果を発表してみよう」が取り上げられており、言語活動の要点が示され、発表活動の方法や進め方が紹介されている。「考えてみよう」や「発表してみよう」では、自然事象を考察して表現する場面が設定されている。物質Xの正体を調べる(1年P14)や化学変化の前後の物質全体の質量を調べる(2年P193)などでは、班で考えた仮説や結果を他の班と発表し合う活動を取り上げている。</p>
<p>教科書の下部に、要点をチェックしたり、モデルや参考リンクを見たりするためのQRコードが記載されている。また、上空の風の流れを調べる(2年P183)や、遺伝子やDNAに関する研究成果が利用されている例を調べる(3年P98)など、インターネットを用いて調べる活動が取り上げられている。教科書に掲載されているQRコードからアクセスできる「まなびリンク」が350箇所近く用意されている。資料動画だけでなく、学習のおさらいや要点チェックができる仕様になっている。</p>	<p>各章のふり返しシートや解説動画、その単元内容の問題などがQRコードで記載されている。また、分子モデルや化学反応式をつくるためのQRコンテンツ(2年P173)や金星の見え方のシミュレーションでタブレットを使用する方法(3年P88)など、ICTを利用して学習する手段も掲載されている。QRコードからアクセスできるコンテンツが500箇所配置されている。1人1台端末での学びをサポートするため、ICTの有効な活用例が紹介されている。「ICTでトライ」のマークも掲載されている。探究の表現場面で発表に適したポスター・スライドのひな形もパワーポイントファイル等で配布される。CBT形式の問題も用意されており、動画や音声より情報を読みとる情報活用能力が育成されるよう工夫されている。</p>	<p>各章のふり返しシートや解説動画、その単元内容の問題などがQRコードで記載されている。また、分子モデルや化学反応式をつくるためのQRコンテンツ(2年P173)や金星の見え方のシミュレーションでタブレットを使用する方法(3年P88)など、ICTを利用して学習する手段も掲載されている。QRコードからアクセスできるコンテンツが500箇所配置されている。1人1台端末での学びをサポートするため、ICTの有効な活用例が紹介されている。「ICTでトライ」のマークも掲載されている。探究の表現場面で発表に適したポスター・スライドのひな形もパワーポイントファイル等で配布される。CBT形式の問題も用意されており、動画や音声より情報を読みとる情報活用能力が育成されるよう工夫されている。</p>
<p>教科書の構成が「疑問」「課題」「仮説」「計画」「観察・実験」「考察」「結論」になっており、見通しをもち、探究する力をつけることができるように工夫されている。「疑問」では、既習事項や身近な現象を取り上げ、そこから課題につなげていくようになっていたり、「計画」では仮説を確かめるためにはどのような手立てが有効かを考えるヒントが掲載されていたりするなど、上記の流れをサポートするような工夫がなされている。学習前と学習後と比較しながら単元・章の前後に学習内容の本質的な問いかけを設定し、生徒の考え方の変容を知ることができるように工夫がみられる。</p>	<p>各単元の初めに「学びの見通し」が設定され、各章で学習する内容が箇条書きで示されており、見通しをもって学習を始められるように工夫されている。また、各単元末には「Review(レビュー)」が設定されており、用語の確認や各章での大切な考え方を振り返ることができるように工夫されている(1年P83)。また、観察や実験では、目的・方法・結果の順で見通しをもって取り組めるように工夫されている。また、観察や実験のあとに、「探究のふり返し」が設定されており、明らかにしたいことを意識しながら取り組めたかどうかを振り返ることができるように工夫されている(1年P147)。教科書の構成が課題の把握(疑問・課題)課題の追求(仮説・計画・観察・実験・結果)課題解決(考察・表現)になっており見通しをもち、探究する力をつける構成に工夫されている。既習事項の確認、該当学年学習事項・高校学習事項の構成となり長期的な学習の見通しがわかり、個別最適な学習につながる工夫が見られる。</p>	<p>各単元の初めに「学びの見通し」が設定され、各章で学習する内容が箇条書きで示されており、見通しをもって学習を始められるように工夫されている。また、各単元末には「Review(レビュー)」が設定されており、用語の確認や各章での大切な考え方を振り返ることができるように工夫されている(1年P83)。また、観察や実験では、目的・方法・結果の順で見通しをもって取り組めるように工夫されている。また、観察や実験のあとに、「探究のふり返し」が設定されており、明らかにしたいことを意識しながら取り組めたかどうかを振り返ることができるように工夫されている(1年P147)。教科書の構成が課題の把握(疑問・課題)課題の追求(仮説・計画・観察・実験・結果)課題解決(考察・表現)になっており見通しをもち、探究する力をつける構成に工夫されている。既習事項の確認、該当学年学習事項・高校学習事項の構成となり長期的な学習の見通しがわかり、個別最適な学習につながる工夫が見られる。</p>
<p>探究的な学習を行う中で問題解決に向けて「話し合おう」の印を記載し、他人の意見を取り入れ他者と関わる場面を作れるような工夫がみられる。「ハローサイエンス」の中で、科学の原理や規則性が、私たちの生活において重要な役割を果たしていることに気づかせるよう工夫されている。また、「ハローサイエンス」には内容に関連するSDGsマークを載せ諸課題に向き合う工夫が見られる。SDGsに関しては「まなびリンク」の「SDGsずかん」で詳しく説明している。</p>	<p>理科における話し合いの機会を設定し、自分の結果と他者の結果を比べて発表することを通して、自ら進んで他者と関わる力を高められるように工夫されている。理科の有用性がわかるコラムが節末に書かれている。仕事、部活、防災減災、料理など身のまわりで理科が活用されている教材が豊富に記載されている。SDGsの諸課題に向き合い社会とのつながりを大切にすることが見られる。</p>	<p>理科における話し合いの機会を設定し、自分の結果と他者の結果を比べて発表することを通して、自ら進んで他者と関わる力を高められるように工夫されている。理科の有用性がわかるコラムが節末に書かれている。仕事、部活、防災減災、料理など身のまわりで理科が活用されている教材が豊富に記載されている。SDGsの諸課題に向き合い社会とのつながりを大切にすることが見られる。</p>
<p>「ハローサイエンス」や「活用しよう」により科学の話題が紹介されており、日常に潜む課題を発見できるように工夫されている。また、観察や実験に入る前に、疑問や課題を確認し、仮説を立て、計画を考えて問題解決的学習ができるように工夫されている。さらに、単元末には「広がる科学の世界」として、生徒の興味・関心を高め、新たな課題の発見につながるような工夫が見られる(1年P137)。</p>	<p>各単元に「探Q実験」が設定されており、課題から仮説を立て、実験方法を計画し、結果を予想して実験を行い、得られた結果から考察し、課題解決につなげられるように工夫されている。また、「探Q実験」の終わりに、「探究のふり返し」が設定されており、まだ疑問として残っていることや、もっと知りたいこと、新たな課題はあるか、ということ振り返り、課題発見ができるように工夫されている(1年P141)。各章のはじめには生徒にとって不思議な現象、興味深い現象から疑問を引き出し、自ら課題を発見し、解決できる工夫されている。学んだことを活用し、新たな課題へ取り組むことをサポートできるように「Action活用してみよう」を記載し新たな活用場面を提供している。</p>	<p>各単元に「探Q実験」が設定されており、課題から仮説を立て、実験方法を計画し、結果を予想して実験を行い、得られた結果から考察し、課題解決につなげられるように工夫されている。また、「探Q実験」の終わりに、「探究のふり返し」が設定されており、まだ疑問として残っていることや、もっと知りたいこと、新たな課題はあるか、ということ振り返り、課題発見ができるように工夫されている(1年P141)。各章のはじめには生徒にとって不思議な現象、興味深い現象から疑問を引き出し、自ら課題を発見し、解決できる工夫されている。学んだことを活用し、新たな課題へ取り組むことをサポートできるように「Action活用してみよう」を記載し新たな活用場面を提供している。</p>
<p>他教科と関連している学習内容には、その教科名を表示し、学びの広がりや深まりを実感するきっかけを与えている。「ブリッジ数学」では、小学校算数で学習する内容と関連があることが示されている。</p>	<p>他教科と関連している学習内容には、その教科名を表示し、学びの広がりや深まりを実感するきっかけを与えている。全学年に設けられたサイエンス資料「理科でよく使う数・数学」では、密度や質量パーセント濃度の計算など、生徒が苦手とする定量的な扱いを補助する数学の考え方が丁寧に紹介されている。</p>	<p>他教科と関連している学習内容には、その教科名を表示し、学びの広がりや深まりを実感するきっかけを与えている。全学年に設けられたサイエンス資料「理科でよく使う数・数学」では、密度や質量パーセント濃度の計算など、生徒が苦手とする定量的な扱いを補助する数学の考え方が丁寧に紹介されている。</p>
<p>観察・実験の「禁止マーク」等は、文字とアイコンを組み合わせて意図が確実に伝わるように配慮されている。色覚の個人差を問わず、すべての生徒が支障なく学習が進められるよう配色・デザインなどが工夫されている。</p>	<p>図や写真を紙面上部に集めることで、視覚的に対象物を認知しやすいう工夫されている。観察・実験の「安全マーク」は、文字とアイコンを組み合わせて意図が確実に伝わるように配慮されている。メディア・ユニバーサル・デザインの観点から、色覚の個人差を問わず、すべての生徒が支障なく学習が進められるよう配色・デザインなどが工夫されている。</p>	<p>図や写真を紙面上部に集めることで、視覚的に対象物を認知しやすいう工夫されている。観察・実験の「安全マーク」は、文字とアイコンを組み合わせて意図が確実に伝わるように配慮されている。メディア・ユニバーサル・デザインの観点から、色覚の個人差を問わず、すべての生徒が支障なく学習が進められるよう配色・デザインなどが工夫されている。</p>
<p>本文の幅が一定で、途中で図や写真を挟まないレイアウトのため、生徒が落ち着いて読み進められる紙面になっている。本文や見出しなどの文字に、UDフォントが採用されており、誰もが見やすく、読み間違えが少ないように配慮されている。</p>	<p>本文の幅が一定で、途中で図や写真を挟まないレイアウトのため、生徒が落ち着いて読み進められる紙面になっている。科学コラムが節末にまとめられ、学習展開が途切れないように配慮されている。本文や見出しなどの文字に、UDフォントが採用されており、誰もが見やすく、読み間違えが少ないように配慮されている。</p>	<p>本文の幅が一定で、途中で図や写真を挟まないレイアウトのため、生徒が落ち着いて読み進められる紙面になっている。科学コラムが節末にまとめられ、学習展開が途切れないように配慮されている。本文や見出しなどの文字に、UDフォントが採用されており、誰もが見やすく、読み間違えが少ないように配慮されている。</p>
<p>季節や気候の影響が大きい観察・実験の時期に配慮しながら、全体を適切に構成している。ゆとりをもって探究的な学習が進められるように、年間配当時数の9割程度の授業時数で指導できる内容で構成している。</p>	<p>どの単元から学習しても支障のないように構成し、地域の気候特性や各学校の履修形態に合わせて、同一学年内の単元順序の入れ替えが自由に行えるように配置している。生徒実験を中心に授業を組み立て、余裕をもって課題解決的な学習を行うのに適切な時数の配分となっている。</p>	<p>どの単元から学習しても支障のないように構成し、地域の気候特性や各学校の履修形態に合わせて、同一学年内の単元順序の入れ替えが自由に行えるように配置している。生徒実験を中心に授業を組み立て、余裕をもって課題解決的な学習を行うのに適切な時数の配分となっている。</p>
<p>AB変型判 1年291 2年315 3年347</p>	<p>AB判 1年300 2年324 3年356</p>	<p>AB判 1年300 2年324 3年356</p>

3 調査報告「音楽・一般」 [7人]		17 教 出	27 教 芸
観点	発行者・教科書名	「中学音楽 音楽のおくりもの」	「中学生の音楽」
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫		学習指導要領の目標や内容に対応した教材が系統性と発展性をもって組織されている。その題材を軸に教材が配置され各領域・分野がバランスよく取り上げられており、目次ページには関連する教材と照らし合わせ系統立てた指導ができるよう見開きで見やすく配置されている。また、「音楽を形づくっている要素」(1年P62)を手がかりに共通教材軸とした学習を進められるように示されている。	学習指導要領に示された三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材が分かりやすく示されており(1年P8～P9)身につけられる学力が一目でわかるようになっている。そして、それらの資質・能力を見通しをもって習得できるよう、各領域・分野がバランス良く取り上げられている。また、「音楽を形づくっている要素」(1年P92)では、各教材ごとに関連が一目でわかるよう記されている。さらには小学校既習内容(1年P93)が分かりやすく示されている。
ア. 言語活動を充実するための工夫		他者との学習を進展させるために、キャラクターによって具体的に活動内容が示されている。例としては、「Active!」(1年P47など)「話し合おう」(1年P60、2・3年上P63など)で考えたことや感じたことを交流することで、言語活動が充実するよう配慮されている。また、「日本の歌 みんなの歌」(2・3年上P16など)では、楽曲が生まれた背景や、作曲家からのメッセージにより、言語の大切さを深く感じ取る活動をしやすい工夫がなされている。	他者との学習を進展させるために吹き出しで疑問点やポイントを提示している。「学びのコンパス」(1年P32、P49など)では、生徒たちが聞き取ったこと、感じ取ったことをもとに音楽的な表現を考えさせる活動ができるよう配慮されている。学習活動の注目するポイントが表示されており、それらを活用することで、言語活動へ発展させやすく、学習活動の充実が期待できる。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫		「まなびリンク」の二次元コードで学習に対応した動画や資料がweb上で視聴、閲覧できるように用意されている。鑑賞教材においても主旋律を演奏している楽器ごとの部分演奏を聴くことができる。授業中での活用はもちろん、家庭でも学習を深められる。	二次元コードからアクセスし、譜例やカラピエノ、エピソードなどが視聴できることで学びの活動を深めることができる。また、表現を考える上でも個人・小グループが曲を視聴しながら話し合う授業展開がしやすい。家庭学習のしやすさにも配慮され、個別最適な学びに適している。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	「Active!」(2・3年上P23など)のページが配置されており、確かな学びが期待できる。「日本の歌 みんなの歌」(1年P18～21など)として示された歌唱教材には、学習を通して習得したい目標が明記されている。そして、歌詞から想像される季節感や情景を重視しながら授業で扱えるよう考えられており、そのことを通して世代を超えた音楽文化の共有が可能となっている。	教材が単元ごとにまとまっており、学習の手順などを番号で示し各段階で考えることがわかりやすい。共通歌唱教材では、「楽曲の紹介文」(2・3年上P18～21)が設けられ、どのような曲なのかを簡潔に示すことで、生徒が曲の概要を把握し、主体的に活動できるように配慮されている。また、教材ごとに「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」が記載されており、重点を置くべき活動のポイントを明確にしやすい。さらに、1年間を振り返るための活動(1年P91)を取り入れられている。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体系的な活動を取り入れるための工夫		鑑賞教材において、単元のねらいを個人で考え、その後全体で考える場面を設定して交流できるような工夫がされている。「話し合おう」(2・3年下P37など)の部分は、授業で自分の見方・考え方や感じ取ったことを交流する展開がしやすい。 「Let's try」では、指揮(1年P25)や声(2・3年上P51)を取り入れた体験活動で、積極的に他者と関わる授業展開を想定している。	曲想と音楽の構造等との関わりについて、気づきや理解を促すヒントがキャラクターの吹き出しに配置されている。そして、「学びのコンパス」(2・3年上P22など)では各自が思考内容を記述したり、他者と意見交流したりしやすい編集になっている。伝統音楽の単元(2・3年上P61など)では、鑑賞のみならず表現活動へも展開できるよう課題が示されている。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫		学習のめあてや教材、学習活動に即した助言、解説がなされており、写真・図等も学習内容に応じ興味・関心を引き出しやすいように配慮されている。「私たちのくらしと音楽」(2・3年上P64など)では、音楽と著作権について自分たちの日常生活と関連させ、身近にある課題としてとらえられるような工夫がなされている。	各曲に「考えたいポイント」(2・3年下P16右など)が設定されていることで、生徒が課題意識をもちやすく、主体的に学習に取り組める工夫が見られる。歌唱教材では、楽譜情報のみならず、パートの役割への理解(2・3年上P16など)や取り組み方のヒントなども記載されており、生徒が自ら問題を解決したり、課題を発見したりする活動につなげられるような工夫が見られる。
③他教科との連携の工夫		外国語の歌唱曲や、作曲家の生きた時代など、音楽科と各教科を横断する扱いに配慮されている。鑑賞教材において、作曲された時代を示す年表が、生徒にとって時代背景を理解しやすいものとなるような工夫がみられる。さらには、(1年P58)のようにSDGsマークを用いてSDGsとの関連がわかりやすい編集となっている。	「この頃、日本では…!」(1年P48)「耳でたどる音楽史」(2・3年下P90)「伝統芸能」(2・3年上P67)などのページ・単元では、作曲時期と日本との関係が図式化されていることで時代背景を比べられる。そして、他教科との関連が絵図や短い言葉でわかりやすく示されている。さらに、生活や社会の中の音や音楽について、音楽教育とSDGs、楽器とSDGs(2・3年下P66～P67)に関する内容にも触れられており、広い視野を持って学ぶことができる編集となっている。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)		歌唱曲では、情景を思い浮かべやすいように見開きページに大きな写真が組み込まれている。また、写真やイラストを適度な量にまとめ、視覚的にも大事なポイントが一目でわかるような工夫がなされている。	全般的に配色・図等が適切に使用されており、かつ、それらのレイアウトが分かりやすいものとなっている。歌詞や楽譜の近くにイラストや写真が配置されていることで必要な情報が得やすく、楽曲に対するイメージをふくらませやすい。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)		ユニバーサルデザインフォントを使用しており、文字の大きさ、行間などに配慮されている。また、楽譜や行間のバランスなども適切である。	ユニバーサルデザインフォントが使用されており、文章や楽譜が読みやすくなるよう配慮されている。楽譜や行間のバランスなども適切である。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)		3年間を見通した系統的な教材の配列になっており、器楽編との関連も見られる。精選された教材を適切に扱える分量で、「題材」「活動のポイント」と合わせて配列されている。	3年間を見通した系統的な教材の配列になっており、器楽編との関連も見られる。学習をスムーズに進められるよう学習目標及び教材を配列し、学習内容の分量も適切となるように配慮されている。
⑦判・ページ数		AB変型判 92 2・3年上92 下92	AB変型判 1年98 2・3年上98 下98

3 調査報告「音楽・器楽」 [7人]

観点	17 教 出	27 教 芸
	「中学器楽 音楽のおくりもの」	「中学生の器楽」
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	全学年の系統性に基づいて組み立てられた題材を軸に、各題材内の教材がその特性を生かして関連づけ、対照・対比されながら設定されている。また、「題材」(P8であれば左上ピンク部分)や「活動のポイント」(P8であれば右中あたり“各部の名称”など)が各教材に設定されており、学習者にとってわかりやすい。	「中学生の器楽」の学習内容(P8～P9)に学習指導要領に示された三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材が示され、身につけられる学力が一目でわかるようになっている。また三つの資質・能力を確実に育成できるように「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」などが各教材に設定されており、学習者にとってわかりやすい。
ア. 言語活動を充実するための工夫	キャラクターが吹き出しで具体的な学習内容を示したり(P27など)、考えたことを交流させたりする(P30)ことで、言語活動が充実するように配慮されており、他者と協働しながら表現を工夫したり演奏活動そのものの価値を考えたりしやすいものとなっている。	演奏を通して知覚・感受したことをもとに思考、判断、理解したことを言葉で表現しやすいようにキャラクターの吹き出し(P43など)を用いて例示されており、言語活動の充実を図ることができるよう工夫されている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	イ. ICTを活用した学習活動の工夫 二次元コードで生徒の使用する学習端末からインターネットを使って動画・音声・参考資料を容易に閲覧できるようにしている。また、「まなびリンク」の活用により、高い意欲で主体的に学習できる。	二次元コードを読み取ることで、学習に役立つコンテンツへアクセスして閲覧、視聴できるようにしている。また、模範演奏や正しい奏法を容易に確認することができる。そのことにより、個別最適な学びや協働的な学びを実現しやすいものとなっている。
ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	各楽器に適した学習の進め方が示されており、主体的、協働的な学びに導くことができるよう工夫されている。また、学習指導要領に示された知識や技能を確実に習得出来る構成や配列になっている。	教材ごとに、「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」「考えたいポイント」などが設定されており、学習に見通しをもって取り組むことができるように工夫されている。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	教科書P75以降のLet's Tryでは、多様な楽器の組み合わせによるアンサンブル活動が掲載されている。基本的な奏法を生かして他者と協働して表現することを通して、主体的・対話的な学びが展開できるように配慮されている。また、イメージや感情の羽ばたきを促すように各専門家からのメッセージがあり(P48右上“心に響く音”など)、音楽的な見方・考え方を働かせることができる。	生徒たちが互いに意見を交換し学びを深めることができるよう、“Q&A”(P107)、“キャラクターの吹き出し”(P43など)でヒントが示されている。巻頭などに配置されている、専門家や各方面で活躍する人からのメッセージ(P34 遠藤千晶さんからのメッセージなど)を読むことによる、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように配慮されている。グループ活動の中で、協働的な学習を進められるよう、コツ(P15など)として記載されている。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	「表現の仕方を調べてみよう」(P30、P55)では、生徒が主体的、協働的に学習を進めるための活動が示され、音楽的な見方・考え方を働かせることができる。	「学びのコンパス」では、吹き出し(P55など)などで生徒の思考や判断を例示することによって、「どんなことを考えたら良いのか」や「新たなひらめき」のヒントにもなるように考えられている。
③他教科との連携の工夫	器楽の教科書ではあるが、英語歌詞で歌唱できる教材(P37)を扱ったり、歴史的・地理的事象との関連を図ったりする(P56～P57)ことで、他教科の学習を併行できるように配慮されている。	楽曲説明やアーティスト紹介の中で、歴史的・地理的事象と関連に加え、道徳的な学習ができるような工夫(P69アーティスト紹介など)がみられる。また生徒が自分自身のよさや可能性を認識して個性を生かしながら、多様な他者を価値ある存在として尊重し、協働していくこと(P50上写真内アーティストメッセージなど)ができるように配慮されている。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	紙面全体、文字や図版については色の組み合わせや濃淡が工夫されている。罫線や記号、番号、文字により補助が施されていて、色覚の多様性にも対応している。多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮されている。	楽譜を含めユニバーサルデザインフォントが使用されており、文章や楽譜が読みやすいものとなるように配慮されている。ギターダイアグラム(P102～P103)では奏者側から見た運指の模式図を併用している。楽器の図鑑(P104)では各ジャンルで使用される主要な楽器が一目でわかるように工夫されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	わかりやすく整理され、表現活動への意欲を高めやすい工夫がなされている。文字は見やすく、字体・字間・行間に配慮されている。	全体的に区別しやすい配色を用いながら、学習上の必要に応じて形状や濃度を違えるなど、視覚的に理解しやすいように配慮されている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	リコーダーを中心に、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓が編集されている。習得を目指す知識・技能と教材の難易度が適合するように配慮されている。箏では表現活動から創作につながる教材“音のスケッチ”(P46など)が示されている。	リコーダー、ギターを中心に、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器が編集されている。各学校における楽器の整備状況や各楽器を扱う時数等を考慮して、掲載する順序や分量が設定されている。各楽器の特徴を理解し、その表現活動に必要な奏法(P41など)、身体の使い方(P29など)の技能を習得できるように内容が精選されている。
⑦判・ページ数	AB変型判 106	AB変型判 106

3 調査報告「美術」 [7人]		9 開隆堂 「美術」	38 光村 「美術」	116 日文 「美術」
①教科目標から見た編集の適切さ 「資質・能力」の3つの柱の育成に けた工夫		「美術1」の巻頭に「図画工作から美術へ」というページがあり、小中連携を意識したつくりとなっている。また、「美術1」「美術2・3」ともに「教科書の使い方」というページが設けられており、わかりやすい構成を意識したつくりとなっている。各題材には、資質・能力の3つの柱に基づいた「学習の目標」に加え、ページ上部に導入や技法の動画を視聴できるQRコンテンツや対応する「学びの資料」のページが示されており、主体的な学びをサポートする工夫が行われている。	「美術1」の巻頭に「教科書を活用しよう」というページがあり、本の構成がわかりやすく示されている。また、「資料」が別冊となっており、制作時に活用しやすいものとなっている。各題材には、資質・能力の3つの柱に基づいた「目標」と共に、数多くの「全国の生徒作品」や「技法の解説動画」等が視聴できるQRコンテンツが設けられており、学びが広がるよう工夫されている。「みんなの工夫」で中学生の作品の制作プロセスや意図を詳しく知ることができ、「体感ミュージアム」で紙面とQRコンテンツを活用しながら鑑賞活動の学びをさらに深めることができる。	発達段階に即した3分冊構成で、3年間の学習プロセスが重視されている。各題材の冒頭には資質・能力の3つの柱に基づいた「学びの目標」が示され、本文の横には2分程度の題材導入QRコンテンツがあり、生徒の基礎的な技能の定着に役立てることができるよう工夫されている。また、「鑑賞の入り口」の問いかけや「表現のヒント」「造形的な視点」作者の言葉が設定されており、生徒が鑑賞や表現の活動の中で自分の考えや学びを深めることができるようになっている。
②主体的、対話的で深い学びに つなげる工夫	「作者の言葉」として吹き出しを使用し、生徒作品や作者の言葉を掲載していることで実際に取り組む際の会話のきっかけになる。鑑賞の項目で見方や感じ方を広げ、深めるための活動が具体的に記されているため、話し合いの方向性が定めやすい。オリジナルキャラクターが登場し、先生は先生の目線からの発言、生徒キャラからは生徒からの目線の発言が掲載されているため発言を引き出せるよう工夫されている。	単元の最初に鑑賞作品を取り上げる授業の組み立てができるように掲載されており、鑑賞を補うよう作者の言葉も用意されている。また、オリジナルのキャラクターがそのヒントを与えたり、鑑賞を深めるポイントが吹き出しで掲載されていたりする。鑑賞の学習を大切にしている教科書の構成になっており、鑑賞後は、作品に取り組み、また鑑賞へと戻ってくる構成になっている。制作手順も具体的に、発想や発見、アイデア出しに必要な資料集めがわかりやすくなっている。表現発想の制作過程が見える「みんなの工夫」があり言語活動につなげられている。	画家ではなく、松任谷由実が紹介され「学びの言葉」が目を引き話が膨らむようにしている(1年P5)。作家作品や生徒作品について作者の思いを掲載している。鑑賞の入り口という形で掲載されている作品から、その作品の良さや美しさを感じ取るために、気づいてもらいたいことを疑問形で示している。作品が完成するまでの手立てが掲載されているので、様々な発想や工夫を引き出しやすい。造形的な視点鑑賞の入り口で問いかけに対する見方のヒントを示している。	
③他教科との連携の工夫	デジタルコンテンツでは3人のキャラクターが題材の内容を説明し、学習内容をわかりやすく確認できるようにしている。各単元にある「はじめに」では、掲載されている写真の実際の動画やアイデアスケッチなどを見せながら課題の内容や手順が分かりやすく説明されている。「生徒作品」では、約5点ずつ程参考作品の写真が掲載されている。さらに、用具や技法などの解説動画も見られるようになっている。はじめに33本、用具や技法26本、生徒作品125本、360度見られる作品8本、ワークシート85ページのデジタルコンテンツが用意されている。	デジタルコンテンツは生徒が書き込みできる画像が7本、360度鑑賞できる写真8本、美術史用語などの解説動画13本、技法動画44本、全国の生徒作品400点、教科書に掲載された作品の作者インタビュー動画7本、色の資料5本、現代作家・作品関連動画14本、美術史用語解説24、その他接着力の説明等が12本と幅広く網羅された内容になっている。「書き込みツール」では、高精密度画像を拡大したり、吹き出しをつけ加えたり、上から書き込みたり、今までになかったICTの活用が期待できる。	全題材の本文とセットで導入動画のデジタルコンテンツが用意されている。基本的なことが2分程度にまとめられているので、授業で使いやすい。NHKが制作した映像も多く含まれており、より分かりやすく生徒の興味関心をひくよう工夫されている。デジタルコンテンツは資料動画が22本、導入動画が50本、技法動画が44本、タッチ操作で360度鑑賞できるようなコンテンツが5本、その他鑑賞を深める動画や、著名人や作家のインタビュー動画、生徒作品を鑑賞できるギャラリーなどのコンテンツも用意されている。	
④単元(教科の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	多くのページにQRコードがあり、読み込むことで生徒作品や制作過程などをみることができる。それらから作品のアイデアや制作の見通しを持つことが期待できる。アイデアシートや振り返りシートも用意され、学習の目標に基づいて活動を振り返ることができるようにしている。	「みんなの工夫」(2・3年P72～P73他)という記載や生徒作品があることで、同年代の考えや制作過程をみることができ、発想や構想、見通しをもった作業を行いやすい。副教材の資料集がなども細かみどころまで補足することができる。また表現と鑑賞の相互の関連を意識し、一つの題材の中で一体的に学ぶことができ見通しをもって学習できるようにしている。	発想・構想の手立て(1年P58～P61)や思考のプロセス、アイデアスケッチがあることで、考えることが苦手な生徒も見通しを立てて取り組みやすくなるようにしている。また、タブレットを使って構想を練る(2・3年上P19)では3Dモデリングソフトで立体を把握するといった、ICTを活用した見通しの持たせ方なども紹介されている。	
⑤印刷ページ数	共に学ぶ美術」(2・3年P110～P111)では、地域の商店街から依頼を受けて、シャッターに共同制作で絵を描く様子や、「持続可能な未来へ」(P112～P115)では、SDGsをテーマに、国内外で地域に貢献する美術活動が紹介されている。美術を通して地域の人達と友達と交流したり協力したりしながら活動することが、社会貢献に繋がっていることが紹介されている。	「メッセージを伝える」(2・3年P72～P77)、「地域の魅力を表すパッケージ」(2・3年P88～P91)では、地域の課題と向き合ったり、地域の魅力を伝えたりする題材では、生徒同士のみならず、地域との協働的な活動を促すような工夫をし、よい社会の担い手となる資質・能力が育まれるように配慮されている。また、動画の中には他者と対話しながら制作を進める様子も掲載されている。	掲載されている生徒作品には、それぞれの作者の言葉やアイデアスケッチが掲載されている。アーティスト作品では、最近注目されている作家をたくさん取り上げ中学生の興味を高めようとしている。また、制作過程や中学生でも活用できる手立てが紹介されている。2・3年生の教科書では特にデザインや工芸で地域に貢献できる活動が紹介されている。	
⑥単元(教科の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	マークに込められた意味からその効果やねらいを知ることができる(1年P40～P43)。ポスターや動画などを通して伝えたいメッセージを発信する方法を学ぶことができる(2年P60～P75)。持続可能な開発目標をもとに、地球全体の将来を課題として考え、美術の力で解決紹介を促している(2年P112～P115)。	1年では多角的な視点を促し(1年P14～P15)生活をより良くするアイデアや普段使っているものがいかに誤用錯誤してつくられているかなどを学ぶことができる。2年でもデザインの力についてわかりやすく身近に感じられるよう扱われている(2・3年P68～P69)。また、自分を見つめ、自分を知ること(2・3年P54～P55)で自身の課題や社会の問題を解決(2・3年P82～P83)する力につながっていくよう工夫されている。「私たちに問いかける美術」(2・3年P4～P6)ではSDGsと関連させながら美術作品に込められたメッセージを考えるページが設けられている。	現代的な諸問題に配慮した題材からデザイン力の力を伝えている(2・3年上P46～P49)。「制約があるからこそ楽しい」というアートディレクターの言葉とともに問題解決のおもしろさや醍醐味を伝えている(2・3年下P7)。ユーザーの視点を大切にすることで、生活や社会と結びついた美術を学ぶことができる(1年P46～P47、2・3年下P40～P41)。「問題を提起する」(2・3年下P4)と題し、オラファー・エリアソンの作品を通して環境問題をとりあげ、SDGsの目標などと結びつけられている。	
⑦単元(教科の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	カリキュラム・マネジメントの推進に役立てるように、他教科との関係を意識した題材を用意している。例えば「仏像が表す世界」(2・3年P56～P59)は、社会科とつながりがあるなど、様々な教科と関連づけられている。	教科横断的に資質・能力を伸ばすために、特に他教科との関わりが深い題材には、「他教科とのつながり」を示すコラムを設けている。「地域の魅力を表すパッケージ」(2・3年P91)では、数学科で学んだ空間図形と関連づけながら、パッケージの構造を考える学習活動の例を示されている。	カリキュラム・マネジメントの充実が図れるように、生徒の学びの広がりや知識のつながりにも配慮しながら、教科等を横断した活用がしやすい事例や題材を取り上げている。例えば「日本の伝統色」(2・3年上P62)では、国語科の古文の学習で参考になる伝統色を多数掲載されている。	
⑧単元(教科の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	制作の手順、材料、用具の使い方、技法の手立てなどは生徒が理解しやすい視点から撮影し、鮮明で、かつ意図が明確なものが掲載されている。原寸がついた図版では、実物を目の前にしたような大きさで作家作品の一部を鑑賞できるようになっている。小さい図版では気づきにくい細かい表現まで見て取ることができる。また、学習をサポートする親しみやすい先生と生徒のキャラクターを登場させている。各学習段階におけるアドバイスや、深い学びへと導く発想、発想や構想を広げる発言などが的確な短文の吹き出しで提示されている。	鑑賞図版を大きくダイナミックに掲載し、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。教科書に使用されているマークは、誰もが識別しやすい形や色で示されている。全学年全ページにわたり、専門家の校閲を受け、色覚特性によって学習に支障をきたすことがないように配慮されている。「風神・雷神像」(1年P36)では、現行版の紙面の写真を変更し、より鑑賞に適した下界を見下ろしている陰影のあるドマチックな写真を採用している。	授業の見通しが持てる題材紙面構成に入っている。作品が大きく掲載されていることはもちろん、活動の情景が多く掲載され、活動の入り口から出口まで、全ての場面が等しく学びであることを示すようなレイアウトになっている。色覚特性の有無に関わらず、全ての生徒が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色等、カラーユニバーサルデザインに配慮して編集されている。作品図版においても、生徒の発想や構想、工夫が読み取りやすいように、一部を拡大して掲載する等、活動の際に参考になるように工夫されている。	
⑨単元(教科の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	ユニバーサルデザインフォントが使用されており、中学校以降に習う漢字や美術の専門用語については総ルビになっている。題材の最初に提示する本文は三文程度にまとめられ、一読してその意味が読み取れる提示の文章量になっている。	全学年を通して、文字がやや小さくなる場合は、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントが使用されている。図版や写真のキャプションに簡潔な解説文が添えられており、学習を進める上で有効な情報となる。	見えやすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用している。題材の領域や分野を示すアイコンは、誰もが見やすく見分けやすい配色によるデザインで作成されている。	
⑩単元(教科の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	教科書の巻頭部分で、小学校図画工作科と中学校美術の違いを示し、第1学年から第2学年及び第3学年へ、さらには中学校の学習をもとに高等学校芸術科美術・工芸等への学習の発展を考え、系統的学習を意識した構成となっている。また、表現と鑑賞の関連と題材の系統性を重視した構成にもなっている。	「表現」と「鑑賞」の相互関連を意識し、一つの題材の中で、「表現」と「鑑賞」を一体的に学べるような構成にしてある。また、題材の内容に応じて「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」と明記してある。また、資料を別冊にすることで、いつでも参照できるようにしている。	授業と学びのポイントが見えるようにし、指導と評価の一体化を図るようになっている。学びと生活や社会との関連を意識できるような題材を取り入れ、生活や社会に活かせる学びに配慮している。また、2・3年を上下に分け、学年ごとの学習を明確にしている。	

3 調査報告「保健体育」 [7人]		2 東 書	4 大日本	50 大修館
発行者・教科書名		「新編 新しい保健体育」	「中学校保健体育」	「最新 中学校保健体育」
観点		各単元が「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の4ステップで構成されている。それぞれのステップに応じて思考力、判断力、表現力を育成することができる発問が設定されており、課題の解決に向けて思考判断するとともに、それを表現することができるように配慮されている。また、各章末には、章末問題のQRコンテンツが2種類用意されており、生徒が自主的に繰り返して習得状況を確認することができるよう配慮されている。	各小単元の「つかもう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」では、生徒の身近な題材や自分の生活について取り上げることで、保健体育の「見方・考え方」を働かせて思考を深めたり、ノートに書き出すことで表現力を高めたりできるように配慮されている。また、「学習のねらい」が絞りがやすく、理解度をあげることができるレイアウトとなっている。	全ての章で、「課題をつかむ」「学習のまとめ」が設けられており、導入からまとめまでスムーズに学習に取り組むことができる。学習過程の適所では、体育と保健の見方・考え方を働かせた思考や表現の例をキャラクターのコメントで示すことで、深い学びを実現できるように工夫されている。学んだ知識が実生活に生きて働くよう、生活に関連した情報を提供する読みもの教材が豊富に掲載され、興味を引くように工夫されている。
①教科目標から見た編集の適切さ 「質・能力」の3つの柱の育成に向けた工夫	ア. 言語活動を充実するための工夫	日常経験などから自他の課題発見につながる発問が設定され、学習課題を自分のものとして、主体的に課題解決に取り組むことができるように配慮されている。また、「活用する」では他者に説明したり他者と話し合ったりする活動が設けられており、協働的な学習を行うことができるように、話し合いの場面が多く設定されている。	教科書全体で、思考したことを記述し、対話や発表をして他者に伝える活動を通して、コミュニケーション能力や論理的思考力が育成できるように配慮されている。さらに、友達と話し合うなど、対話を通して思考を広げて深めていく活動などを通して、深い学びが実現できるように工夫されている。	各学習項目の最後の「学習のまとめ」では、多様な表現活動を提示し、言語活動やグループなどで対話する場面を多く設けて、対話的・協働的に学ぶことができるように工夫されている。
	イ. ICTを活用した学習活動の工夫	学習課題の共有や実感を伴った理解などを目的として、動画やシミュレーション、思考ツール、章末問題など、さまざまな学習場面で活用できるQRコンテンツが用意されている。また、随所にDマークが表記され、デジタルコンテンツにより深い学びやオンライン学習にも対応できるようになっている。特に、巻末スキルブックでは、Dマークコンテンツを活用しながら、健康安全に関するスキルがまとめられている。	学習をより理解したり広げたりできるようWEBコンテンツ「中学校保健体育WEB」を用意し、対応するページにマークと二次元コードを付けている。また、学習支援のための新たなコンテンツ集「中学校保健体育WEBプラス」を設置し、確認問題やシミュレーション、動画、読み物、外部リンクなどが豊富に準備されている。	学びをサポートするデジタル教材が充実しており、「動画コンテンツ」「Web保体情報館」「Webワークシート」「保体クイズにトライ!」の4つのデジタル教材が用意され、タブレット等を活用した授業が展開できるように工夫されている。また、各ページに分かりやすく、マークやQRコードが明記されている。
	②主体的・対話的で深い学びについて	授業の流れに沿えるよう各単元が主体的・対話的な学びを実現することができるよう工夫されている。本文には必要な資料が掲載され、さらに各章の終わりには章末資料があり、単元内容を発展させた情報・知識が組み込まれている。また、各章の学習のまとめには、確認の問題だけでなく、活用の問題などもあり、学んだ内容を多角的に振り返ることができるように工夫されている。巻末スキルブックの内容もイラストや写真を交えながら手法などを確認することができるよう工夫されている。	各小単元の冒頭「学習のねらい」では、1時間の学習を通して解決したい学習課題(保健体育の見方、考え方をはたらかせて解決すべき課題)を明確に示している。各章末の「学びを活かそう」(P13、P27、P52、P69、P87、P116、P147、P165)では、学習を深め、生活に活かすため思考力・判断力・表現力等が育成されるように工夫されている。また、各小単元においてキーワードで学習内容の振り返りをし、重要語句の再確認ができるように工夫されている。	学びを生活や社会につながる口絵が多数掲載されており、学習への興味・関心が高まるように構成されている。各項目の「学習のまとめ」で学習内容を振り返ることができ、「章のまとめ」で確認の問題に取り組めるよう構成されている。「学習のまとめ」では、問題に取り組むことで、現代社会についても繋げられるよう工夫がされている。
	ウ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	各ページの「活用する」では、他者に説明したり他者と話し合ったりする活動が設けられており、協働的な学習が行えるよう、話し合いの場面が多く設定されている。また、QRコンテンツを用いて、実験や実習の様子やアニメーション、資料映像など多様な動画等で示されていることで、手順や方法を整理して、全体像を把握できるようになっている。	各小単元に「話し合ってみよう」などのグループで行う活動が多く設置されており、友だちの意見を聞いたり、認め合ったりすることができるようになっている。また、P47、P52、P106～113、P151、P153などでは、実験や実習が数多く取り入れられている。	各学習項目の最後の「学習のまとめ」では、多様な表現活動が提示され、言語活動やグループ活動などで対話する場面が多く設定されている。また、P56、P116、P117などには、実習のページがあり、イラストや鮮明な写真でわかりやすく、確実に技能が表現できるように表示されている。
③他教科との連携の工夫	各単元が「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の構成で統一されており、流れに沿って学習を進めることで主体的・対話的で深い学びを実現することができるように工夫されている。また、質の高い動画やシミュレーション、思考ツール、章末問題など、授業で利用できるQRコンテンツが豊富に用意され、学習課題を共有したり学びを広げたりすることができるように配慮されている。	各小単元の課題を発見するために、「つかもう」では、身の回りのこと、自分や友達の経験など、身近な疑問から活動をスタートさせ、課題を解決する活動「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」、学習したことを活かす活動「活用して深めよう」などの様々な活動により、学びを広げることができるように配慮されている。	各章・各学習項目をつかむ一身につける・考える→まとめる・振り返るのシンプルな3ステップで構成されており、課題解決的な学習課題を通じて思考力・判断力・表現力等が育成されるように工夫されている。また、各章末では、これまで学習したことをもとに筋道を立てて説明する表現活動ができるように設定されている。	
④写真・挿絵・図・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインの観点から、全ページにわたって配色およびデザインが工夫されており、色覚の多様性に配慮されている。また、紙面の色数を限定し、誰もが見やすく、落ち着いたレイアウトで挿絵も優しいタッチで描かれている。	カラーユニバーサルデザインをふまえた配色を工夫している。本文と資料が明確に区別されており、単語の途中で改行せず、読みやすい位置での改行がされている。図やイラストが多く、視覚的な情報が得られやすい(P93～P95など)。	色覚の個人差にかかわらず、すべての生徒が支障なく学習できるよう、カラーユニバーサルデザインの実現に配慮されている。識別が難しい色同士が隣りあうことのないように配慮されている。	
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさなど)	UDフォントを使用し、本文は明朝体、本文中のキーワードはゴシック体として区別をしている。	UDフォントを使用し、本文と重要語句の区別がはっきりしていて識別しやすい。本文の文字の大きさは小さめに設定されている。	UDフォントを使用し、視認性と可読性を高めるように設定されている。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	体育分野、保健分野でひとまとまりとして、学年ごとに学習する順番で配列している。また、各学年、保健分野を先に配列している。また、各学年保健分野を先に配列し、「心肺蘇生法」の学習を1学期に行うことで水泳の授業と関連づけたり、「熱中症」の学習を気温の上がり始める夏前に学習できたりすることができるように配置されている。	体育分野、保健分野でひとまとまりとして学年毎に学習する順番で配列されている。また、各学年、体育分野を先に配列している。	体育分野、保健分野でひとまとまりとして学年毎に学習する順番で配列されている。また、各学年、体育分野を先に配列している。	
⑦判・ページ数	AB判 198	B5判 196	AB判 206	

3 調査報告「保健体育」	
発行者・教科書名	224 学 研
観点	「新・中学保健体育」
①教科目標から見た編集の適切さ （資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫）	各時間の冒頭に「ウォームアップ」が設けられ、興味関心を高め、学習課題を自ら発見できる工夫がなされている。そこから、「エクササイズ」、「学びを生かす」を基本の流れとし、各時間に正解が一つに定まらないような課題設定により話し合いを促し、主体的・対話的かつ協働的な学習活動ができるように工夫されている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	コミュニケーションや論理的な思考を促す言語活動を随所に設け、学びたいことや学んだことなどを記入するスペースも設けている。また、二次元コードから参照できる「章デジ」で考えや学んだこと、他者の意見などを記述しながら学べるようにしている。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	動画やデジタル教材、資料、ワークシート、参考になるリンクなどが、二次元コードから参照して利用できるようにしている。また、自ら教材を選び、組み合わせながら学習できるように、二次元コードから参照できる「章デジ」がある。章ごとのまとまりで表示されるとともに、適切なリンクを探すための時間を省けるように工夫されている。
②主体的・対話的で深い学びについて	ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 「さまざまな学習方法」を設け、学習内容や課題に応じて、工夫しながら学習が進められるように事例とともに学習方法を紹介している。1時間を「ウォームアップ」「学習の課題・キーワード」「エクササイズ」「学びを生かす」の基本の流れで構成し、見通しを立てて学習しやすいようにしている。各章末には章のまとめ問題などがあり、学習者が自身の興味・関心や取組み度合いなどを確かめることができるように工夫がされている。
エ. 自ら選んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	各時間の最後に「学びを活かす」を設け、その時間に学んだ知識をまとめたり、深めたり、活用できるようにしている。また、身につけるべき技能については、「技能」のマークを付け、イラストや写真のほか二次元コードから参照できる動画を活用して、実習を通して学びやすくされている。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	各時間の冒頭に「ウォームアップ」が設けられており、興味・関心を高め、学習課題を自ら発見できるようにし、主体的な学びにつながるようになっている。また、1時間の基本構成の繰り返しにより、課題解決的な学習を身につけられるように工夫されている。
③他教科との連携の工夫	「関連」では他教科との関連が示されている。P190～P191には他教科と、より関連の深いものが掲載されている。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ （大きさ、カラーユニバーサルデザインなど）	カラーユニバーサルデザインの考えに基づいて配色や紙色、表現などが工夫されている。挿絵がとて多く、理解しやすい。資料は、科学的かつ最新で信頼性のある適切なものを取り上げ、見やすく、活用しやすいように工夫されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ （字体、文字の大きさなど）	見出しや本文に、判別しやすいUDフォントを使用し、本文は「UDデジタル教科書体」、本文中のキーワードをゴシック体として区別している。
⑥単元（教材の配列）の適切さ （関連付け、時期など）	体育分野、保健分野でひとまとまりとして学年毎に学習する順番で配列されている。また、各学年、体育分野を先に配列している。
⑦判・ページ数	AB判 206

3 調査報告「技術・家庭」 [7人]		2 東 書	6 教 団	9 開隆堂
観点	発行者・教科書名	「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る」	「新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」	「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」
①教科目標から見た編纂の適切さ ・履貫・能力の3つの柱の育成に向けた工夫		学習指導要領の内容項目はA「材料と加工の技術」、B「生物育成の技術」、C「エネルギー変換の技術」、D「情報」の技術であるが、そのA～Dの順番で1編から4編、さらに「統合的な問題解決」にまとめられており、各編が、第1章「生活や社会を支える〇〇技術」、第2章「〇〇技術による問題解決」、第3章「社会の発展と〇〇の技術」という章立てで、「生活や社会と技術」「技術による問題解決」「社会の発展と技術」という学習過程で統一されており、構成が分かりやすい。また、各節に「目標」「学習課題」が掲載されており、見直しをもって学習を進められる。	学習指導要領の内容項目はA「材料と加工の技術」、B「生物育成の技術」、C「エネルギー変換の技術」、D「情報の技術」であるが、そのA～Dの順番でA章～D章、加えてE章として「夢をかなえる技術」という章立てとなっており、それぞれ、第1章「技術を見つめよう」、第2章「技術をいかそう」、第3章「未来をつくろう」という章立てで、「生活や社会と技術」「技術による問題解決」「社会の発展と技術」という学習過程で統一されており、構成がわかりやすい。また、各節ごとに「めあて」が明記されており、さらに、「見つける」「学ぶ」「ふり返る」というステップがあり、見直しを持って学習を進められるようになっている。	学習指導要領の内容項目は、A「材料と加工の技術」、B「生物育成の技術」、C「エネルギー変換の技術」、D「情報の技術」であるが、同じ内容のA～Dの章立てに加えて「技術分野の出口」でまとめられており、それぞれ「1 生活や社会と〇〇の技術」「2 問題解決の手順」「3 これからの〇〇の技術」とし、「生活や社会と技術」「技術による問題解決」「社会の発展と技術」という学習過程で統一され構成が分かりやすい。また、各節ごとに「学習の目標」と「学習課題」が明記されており、見直しをもって学習できるようになっている。
	②言語活動を充実するための工夫	各節の最初には言語活動を促す「レッズスタート」という囲みがあり、学習のきっかけだけではなく、対話的に学習を進める一助になっている。また、デジタルコンテンツでもワークシートが用意されており(P31「調べてみよう」の表やP52「レッズスタート」、言葉や文章で表現する言語活動の助けとなっている。	「やってみよう」「考えてみよう」という囲みがあり、言語活動を促すようになっている。また、デジタルコンテンツとしてワークシートが提供されており(P33「やってみよう」、言葉や文章で表現する言語活動の助けとなっている。また、導入部分に「見つける」があり、学習意欲を喚起するとともに生徒の対話的な活動を促すようになっている。	デジタルコンテンツとして、ワークシートが提供されており(P61「製作の工程表」)、これを用いることで考えたことを言葉や文章で表現できるように工夫されている。また、導入部の「学習課題」は学習意欲を喚起するとともに生徒の対話的な活動を促すようになっている。
	③ICTを活用した学習活動の工夫	QRコードから参照できるコンテンツには動画や画像だけではなく、PDFファイルで提供されるワークシートなどがあり、利用しやすい。また、普段の生活において見えにくいようなポイントを映像や画像解説でわかりやすくまとめられている。その分量は330を超え、豊富である。	QRコードから参照することができるコンテンツは、動画や画像だけではなく、PDFファイルで提供されるワークシート(P53「設計・計画シート」)や実際にプログラミングできるアプリケーションコンテンツ(P199「デバッグする」)など、約200のコンテンツがある。	QRコードから参照することができるコンテンツは、動画や画像だけではなく、PDFファイルで提供されるワークシートなどがある。動画の一部は外部サイト(YouTube)にリンクされているもの(P26「姫路城について」)もあるため、授業で使用する場合は教育系ネットワークで視聴可能かどうかを調べておく必要がある。参照できるコンテンツ数は400以上もあり大変豊富である。
	④主体的・対話的で深い学びに関する工夫	「教科書の構成と使い方」で学習の流れが明示されており、学習を見通すことができるようにしている(P2)。各節にある「振り返ろう」「深めよう」で、その節で学習した内容についての問いかけがなされており、振り返りや学習の深化をしやすくする工夫がある。	「この教科書の使い方」(P10)が記載されており、大きく学習を見通すことができる。章ごとに「ふり返る」として学習内容の振り返りがしやすい工夫がみられる。また、各章の終わりには、小テスト風の「まとめ」が用意されていたり、めあてに沿ってうまくいったところやうまくいかなかったところをまとめたりする場面設定がされている。	節ごとに「学習の目標」や「学習課題」が具体的に明示されており、学習者が見直しをもって学習する助けとなる。また各節の最後のページの下に「CHECK」があり、学習者にとって振り返りがしやすい工夫といえる。
	⑤自ら進んで他者と関わる力を付けるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	「やってみよう」(P33)などで、体験的な活動を促す工夫が見られる。また、1編～3編には「TECH Lab」(1章P40～P51)という基礎技能の項目があり、技術分野における体験的活動(実習)時に、学習者にとって必要な部分を必要な時に参照しやすい工夫(本文中に関連する「TECH Lab」のページを明示)されている。	各節の最初に示される「見つける」(P124)では、他者との関わりの中で課題を見つけるような工夫が見られる(漫画で2人の会話が示されている)。また、技術分野における体験活動(実習)時に、役に立つ基礎技能は、「スキルアシスト」という別冊にまとめられている。	「実験」(P31)や「やってみよう」(P44)などの学習により、他者との関わり合いも持ちながら、体験的な活動を取り組めるよう工夫されている。また、課題を設定して解決を図る力を身につけられるように工夫されている(P50～P73)。
⑥問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	各編の2章には「問題の発見と課題の設定」という節が設けられ、いろいろな技術による問題解決に向けてのプロセスが学習しやすくなる。問題解決例は、具体的な問題設定から問題解決までのプロセスが示され、学習者はイメージしやすくなっている。	各編2章1「問題を解決する流れを考えよう」では、漫画を用いることで、各学習場面での問題解決の流れをわかりやすく提示しており、自然と問題解決的な学習を促すようになっている。(P138)	各項目の「実習例」に「問題発見」→「設計・制作」→「評価・改善」が落とし込まれており、問題解決的な学習がしやすくなっている。また、「問題解決の評価・改善」については「ふり返りシート」(P75)が用意され、問題解決的な学習の助けとなっている。	
⑦他教科との連携の工夫	本文中の図の近くにアイコンとともに教科名と学習学年、内容が示されている(例:P92「他教科理科2年光合成の仕組み」)	本文中、ページ下部にアイコンとともに「関連」として、関連する学校種(小学校、中学校)と教科(「理科」等)が記載されている。(P114)	単元(内容項目A～D)を初めのページに小学校や他教科のつながりが具体的に記載されている。(例:P107 小5理科「動物の誕生」等) また、本文中にアイコンとともに関連が示されているところもある。(例:P114「小学校5年理科「植物の発芽、成長、結実」)	
⑧写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインが考慮された紙面構成になっている。小口の色分けが非常に明瞭で、任意のページへのアクセスが大変しやすくなっている。図や写真は、光沢を抑えた落ち着いた色遣いで見やすい。	カラーユニバーサルデザインが考慮された紙面構成になっている。小口の色分けされているため、任意のページへのアクセスがしやすく、図や写真の彩度は高めで賑やかな感じがする。	カラーユニバーサルデザインが考慮された紙面構成になっている。図や写真は、光沢を抑えた落ち着いた色遣いで見やすい。	
⑨表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	書体はすべてUD書体が用いられている。文章表現は全体的にわかりやすく明瞭である。補足説明などは別のフォントで小さ目の文字で表記されているため、見やすい。	UD書体が使用されている。1ページにおける文字数が適切であり、また、メインの文章がどれであるかが分かりやすい。また、重要な用語は太字かつ着色されている。	UD書体が用いられている。1ページにおける文字数が適切であり、またメインの文章がどれであるかが分かりやすく、範読時などに生徒が目で見やすい。	
⑩単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	製作における基礎的な技能の記述は、「TECH Lab(テックラボ)」という項目にまとめられ、技能に応じて参照しやすくなっている。問題解決例の中に題材例があり、問題解決のための手順がわかりやすく示されている。	製作における基礎的な技能の記述は別冊の「スキルアシスト」にまとめられており、技能に応じて参照できるようになっている。問題解決のための題材例は具体的にわかりやすい。	製作における基礎的な技能については、別項目で項目立てされており、参照しやすいといえる。問題解決のための題材例ごとに「問題の発見と課題の設定」→「設計・製作」→「評価改善」が示されており、わかりやすく自らの問題解決に落とし込みやすい。	
⑪判・ページ数	AB判 298	A4変型判 262 別冊42	AB判 314	

3 調査報告「技術・家庭」 [7人]

発行年・教科書名	2 東 書	6 教 団	9 開隆堂
<p>観点</p> <p>①教科目標から見た編者の適切性・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫</p>	<p>「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」</p> <p>4つの見方・考え方をマークで表現されており、日々の生活を見方・考え方の観点から多面的に見つめることで自らの問題発見につながる工夫がされている。各編末の学習のまとめ「3生活に活かそう」では、生活の課題と実践につながる問題発見につなげやすくし、学びを生活に生かすことができるようになっている。思考ツールでより考えやすく、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫されている(P6、P7、P138)。</p>	<p>「新技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する」</p> <p>章末ごとの「学びを生かそう」で課題解決型学習の流れを把握することができ、それぞれの学習内容に関する“思考力、判断力、表現力”を養うことができる。</p>	<p>「技術・家庭 家庭分野 自立とともに支え合う生活へ」</p> <p>単元の終わりに「学習のまとめ」があり、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」「生活の課題と実践」に関する問いがある。問いに対する答えを出す中で、それぞれの資質を身につけることができる。</p>
<p>②主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>「言語活動を充実するための工夫」</p> <p>デジタルコンテンツ「統計資料を読み取ろう」では、グループで話し合いながら、気づきをペンを書き込めるものとなっている。相互に説明する時にも活用することができ、言語活動の充実をはかることができる(P210)。</p>	<p>「話し合ってみよう」「やってみよう」などのさまざまなワークで、主体的・対話的に取り組むことができる。具体例を示しながら自分の言葉で表現することをサポートする工夫が掲載されている。</p>	<p>話し合ってみよう(P107)では、生徒同士で統一をしたり意見を交換したりすることができるような学習活動(アクティブ・ラーニング)を多数取り入れられており、生徒同士や家族・身近な人たちとの会話などを通して、考えを明確にすることができる工夫がされている。</p>
<p>③他教科との連携の工夫</p>	<p>「ICTを活用した学習活動の工夫」</p> <p>デジタルコンテンツ数が378もあり豊富である。内容として、動画・シミュレーション、〇×クイズ、詳細資料や専門機関のWEBサイトのリンクなどがあり、活用することで学びを深めることができる。調理をする際、作り方だけでなく、材料の分量や注意ポイントも確認することができる。</p>	<p>デジタルコンテンツでは、学習内容に関する機関のWEBサイトとリンクがあり、知識を深めることができる。消費分野のデジタルコンテンツでは消費者庁の動画をリンクづけしているものが多くある。調理実習の動画が視覚的にわかりやすく、材料一覧から始まり、完成までを簡潔にまとめられている(P114～P137)。</p>	<p>調理の基礎(P116～P149)では、QRコードを記載することによって、生徒がより主体的に学習に取り組めるように工夫されている。調理の過程を動画で確認し、進めることができる。消費分野のデジタルコンテンツでは、消費者庁の動画をリンクづけしているものが多くある(P281など)。</p>
<p>④単元(教科の配列)の適切性(関連付け、時期など)</p>	<p>「小学家庭の教科書とリンクされており、想起や振り返りがしやすい(P193)、単元ごとに振り返りシートがあり、また、振り返りでは、三段階で自己評価するとともに、「生活に生かしたいこと、大切にしたいこと」を記述できる。(P164～P165等)考えてみよう、調べてみようなど、見開きのページごとに興味のあることに対して取りかかれる見出しを、わかりやすく取り入れられる(P145、P207など)。</p>	<p>小学校のどの分野と関連があるのかについて、各編の最初に書かれている(P70など)。QRコードを読み取ると、振り返りシートのPDFや章末の「学習のふり取り」があり、学習内容をまとめ、振り返りがしやすくなっている(P33など)。毎時間のめあてや、キーワードが最初にまとめられていて、見直しを持って学び、振り返りがしやすい工夫がされている。</p>	<p>各編の最初に小学校での学びが記され、関連がわかるように記されている(P182)。単元の終わりに「学習のまとめ」があり、振り返ったり自分の考えを深めたりすることができる。節タイトルを見ると、ここで何を学ぶのが生徒に伝わりやすい。学習の目標が明記されており、どのようなことを目標としている学習なのかを理解して、学習の見直しを持ちやすい。</p>
<p>⑤写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)</p>	<p>「見て学べる！幼児とのふれあい体験のページでは、実際に体験をイメージすることができ、自ら進んで他者と関わり合う導入ができるようになっている(P246～P247、P250～P251)」。QRコードを読み取ると、インターネット通販のシミュレーションがあり、クレジットカードの使用など実践的な体験ができる(P197)。中高生が被災時に経験したことが書かれており、それを元に自分の事として、より深く考える導入ができるようになっている(P184)。</p>	<p>「話し合ってみよう」(P239)ではグループ活動を、「やってみよう」(P261)では体験的活動につながる学習内容があり、思考を深めることができる。ポケットをつけてみようでは、実際の手の大きさを目安にした図があり、自分の手をイメージし、ポケット製作ができるように工夫されている(P193)。</p>	<p>災害後の生活の立て直しについて、プレハブ仮設住宅や災害公営住宅における住まいの工夫などが提案され、運営について考える際にシミュレーションがしやすい(P254)。身近な環境や地域社会の情報が参考として掲載されており、多様な視点から事象を見ることができる(P228～P229など)。</p>
<p>⑥単元(教科の配列)の適切性(関連付け、時期など)</p>	<p>「なぜ?」「どうして?」を引き出すため、問題発見・課題設定さらには問題解決する道筋をサポートし、主体的・対話的に学べるツールになっている(P276～P281)。デジタルコンテンツの中の「レッズスタート」や教科書内では、普段の生活を想像することで、問題や課題を発見しやすくなっている(例:記載P32、P75のQRコードよりリンクなど)。栄養バランスの良い献立作り(P48～P49)では、QRコードを読み取ると年齢を設定でき、幼児、高齢者、中学生の献立についてデジタルコンテンツを用いて適する栄養バランスについて考えることができるようになっている。</p>	<p>「課題解決学習の流れ」に記載されている通り、章末ごとに具体的な課題設定の例や学習の進め方が明示されており、学習に取り組みやすくなっている(P10)。「学びを生かそう」や「生活の課題と実践」では問題の発見から課題の解決、次の課題へつなげる6つのステップを統一している。「レッズスタート」では、普段の生活を想像することで、問題や課題を発見しやすくなっている(P148～P149)。</p>	<p>全体を通して、「1問題発見」→「2課題設定」→「3計画」→「4実践」→「5評価・改善」の順で学習を進めることによって、問題解決的な学習に取り組めるようになっている。防災について具体的に書かれているため、自分の生活に照らし合わせ、考えることができるように工夫されている。</p>
<p>⑦表現・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)</p>	<p>デジタルコンテンツで他教科との繋がりを理解できるように、他教科の教科書該当ページがリンクづけされている。</p>	<p>他教科の学習などとの関連がマークで記してある。</p>	<p>他教科や技術分野と関連するページには、「他教科・他分野との関連マーク」がつけられており、具体的事項をわかりやすく記している。</p>
<p>⑧単元(教科の配列)の適切性(関連付け、時期など)</p>	<p>P41～P42のページでは、1枚で6つの基礎食品群のことが理解でき、効果的に学習を進めることができるように工夫されている。幼児の世界を実物大写真で表現することで幼児の体の大きさを視覚的に捉えたり、幼児との関わり方の工夫につなげることができるように工夫されている(P230)。</p>	<p>実物大の食品写真(折り込み③～⑥)や地域ごとの野菜・郷土料理(P140～143)など、視覚的に分かるよう工夫が多くされている。重要なところが青字の太文字で記され、見やすく工夫されている。住まいの中で起こる事故がイラストが使われていて見やすい(P212～P213)。</p>	<p>調理の実習手順図は、生徒の視線の流れ、特別支援教育を考慮して見開きページで横に流れる記載となっており、基礎・基本を習得するための適切な配慮がされている(P148など)。様々な換気方法の実験結果が図やイラストで表されていて、わかりやすい(P245)。実物の写真が多く取り入れられていて、手順や現地の様子がわかりやすい(P214など)。</p>
<p>⑨単元(教科の配列)の適切性(関連付け、時期など)</p>	<p>学習の系統性や生徒の発達段階を踏まえ、ガイダンスの後は、学習指導指導要領が示すB(衣食住の生活)、C(消費生活・環境)、A(家族・家庭生活)の順で単元が配列されている。各単元は「目標」→「レッズスタート」→「学習課題」→「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」(活動)→「まとめよう」「生活に生かそう」で構成されている。</p>	<p>学習指導指導要領に沿ったA(家族・家庭生活)、B(衣食住の生活)、C(消費生活・環境)の順で単元が配列されている。各編は「導入」「やってみよう」「学びを生かそう」章末のまとめで構成されており、生徒が主体的・対話的に知識や技能を身につけられるよう、ワークが掲載されている。</p>	<p>学習指導指導要領に沿ったA(家族・家庭生活)、B(衣食住の生活)、C(消費生活・環境)の順で単元が配列されている。学習の目標、導入課題、本文と展開し、最終章での「学習のまとめ」で自己評価する構成となっている。問題解決型学習を通して創意工夫する力を養えるよう、課題が配置されている。</p>
<p>巻判・ページ数</p>	<p>AB判 298</p>	<p>A4変型判 296</p>	<p>AB判 314</p>

3 調査報告(外国語)	「10人」 発行年・教科書名	2 東 書 [NEW HORIZON English Course]	9 開 隆 堂 [Sunshine English Course]	15 三 省 堂 [NEW CROWN English Series]
<p>1. 教科書から見た編者の意図 「学習能力の3つの柱の育成に資する工夫」</p>	<p>基礎・基本的な知識・技能を培い、「Unit Activity」や「Real Life English」で思考・判断・表現に向かっているよう技能の統合を図り、「Stage Activity」では学んだ表現方法を使っての自己表現や総合的な発信力に結びつけている。目的・状況・場面を意識し、4技能5領域をバランスよく学習することができる。「即興的に話す活動」(Small Talk)もある。</p>	<p>各「PROGRAM」が知識・技能(Scenes)→思考・判断・表現(Tuning In)→Review&Retellで構成され、「知識・技能」を確実に習得し、その活用への道筋が明確である。学んだ表現方法を使って、自分の言葉で自己表現することができるような工夫がある。技能ごとにアイコンが付けられ、「即興的に話す活動」(Small Talk)もある。生徒が興味を持つような漫画や本文の内容でわかりやすくなっている。</p>	<p>「ことばを使う力」「他と関わる力」「考える力」「学びに向かう力」の育成を目指し、4技能5領域のバランスに配慮した言語活動や、身につけた言語材料を活用して言語活動に取り組みするための工夫がされている。また、小学校英語との連携、生徒の興味、関心、発達段階に応じた題材が充実している。教科書の使い方、学ぶポイント、プロセス、目標が生徒に分かりやすく提示され学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように工夫されている。</p>	
<p>2. 言語活動を充実するための工夫</p>	<p>Unit1～Unit4までは小学校までに培った力と関連づけられるよう、「Enjoy Communication」が各Partに設けられ、取り組みやすい言語活動が充実している(1年)。「Real Life English」では、実生活に即した場面設定で英語を学ぶ機会が設定されており、「目的・場面・状況」に合わせたコミュニケーションを伸ばすような工夫がある。「Grammar for communication」では場面に応じた会話のフレーズや、様々な文章を用いた会話のヒントが明記されている。巻末には「Small Talk」のコンテンツが設けられており、Unitのトピックに関連した質問に即興で応答する練習ができる。巻末資料「Word Room」にはジャンル別に単語や表現がまとめられており言語活動をする際に活用することができる。</p>	<p>巻頭のGet Readyでは、小学校での既習事項を確認しながら、言語活動を行えるようになっている(1年P7～P20)。生徒が主体的に言語活動を行うための場面設定や目的が具体的に示されている。言い換えやつなぎことばを紹介する欄が掲載されているなど、即興でコミュニケーションを図ることができる能力をばくむ場面も取り入れられている。「Our Project」では、マッピング(思いや考えを可視化する書き方)などを用いて思考を整理しながら表現活動が行えるよう工夫されている。また、「Step 4 for Our Project」(3年P78)では、ディスカッションの場面でよく使用される表現が紹介されており、活動をスムーズに進めやすくなっている。巻末資料には、単語をジャンル別にまとめたページや、英語の発音についての解説など、生徒が学習するうえでの助けになる情報が豊富にある。</p>	<p>巻頭のStarterやMy Dictionaryでは、小学校で聞いたり、話したりした活動に取り組みるとともに、小学校で学んだ語句や表現が活用できるようになっている(1年P7～P24)。各トピックが「Small Talk」ではじまることで、Speaking活動の充実化を図ることができる。「Think about yourself」の間では各Partで学習した表現を使い、自分自身の立場になって意見を述べるような工夫がされている。単元末の活動ではSpeak・Read・Writeなど幅広い表現を用いた学習が設定されている。Lessonの最後にある「Take Action!」ではリアルな場面で使用できる英語を学ぶことができる。</p>	
<p>3. 以下を活用した学習活動の工夫</p>	<p>ほぼ全てのページにある2次元コードを読み取ると、レポートやオーバーラッピング、シャドウイングを練習することができる。Unit1(1年P9)の2次元コードを読み取ると、フォニックスチャンツを聞くことができ、英語らしい発音の習得や、発音とつづりの結びつきを習得するための自主的な学習を促すことができる。英単語の意味を答える3択問題に挑戦でき、楽しみながら英単語の意味を覚えることができる。巻頭の2次元コードから「Digital Map」を見ることができ、世界地図や日本地図、その国の名所や文化などの情報を得ることができる。また、その土地についての読みものを読むことができる。</p>	<p>ほぼ全てのページに2次元コードが配置されており、語句や本文の発音をスマートフォンやタブレット等で手軽に聞くことができる。リスニングは速度の調整もでき、自分の学習に役立てることができる。どの2次元コードから入っても、全てのページ、単語にリンクするようになっている。動画コンテンツや単語学習アプリもある。</p>	<p>ほぼ全てのページに2次元コードが配置されており、語句や本文の発音や動画をスマートフォンやタブレット等でいつでも手軽に見聞きすることができる。本文テキスト、新出の語句・表現、話すこと(やりとり/発表)の活動のモデル英文などの音声聞くことができる。また、本文アニメーション、発音チェック、英和辞典、文法解説動画などの機能も使える。2次元コードの活用方法も明記されている(2年P6)。</p>	
<p>4. 学習を見通しし振り返るための工夫 1. 対 象 的 に 進 む べ き 学 習 内 容 を 選 び 進 む べ き 学 習 活 動 を 選 ぶ べ き 工 夫</p>	<p>冒頭に各Unitの目標と文法事項がまとめられており、いつまでどんなことを学習するのかかわかりやすい。小学校の既習事項が教科書を通じて「小」のマークで示してあるおかげで、小学校の学びを振り返るのに適している。巻末には「CAN-DOリスト」が設けられており、4技能にわたり学習の目標を達成できたのかを確認することができる。学習目標がはっきり提示されており、生徒が身につけたことの軌跡が分かるようになっており、自己評価をし、練習に生かせる工夫がある。</p>	<p>教科書の構成を説明するページ(P4～P5)では各学年での目標が明記されており、目標をもって学習を進められるようになっている。各「PROGRAM」のはじめにある3つのGOALについて、達成度を自己評価する場面が設定されている。単元のはじめに3つのGOALや単元を通して身につく表現が明記されている。学習目標がはっきり提示されており、生徒が身につけたことの軌跡が分かるように、3年間を見通した巻末の「できるようになったリスト(CAN-Doリスト)」で自己評価をし、練習に生かせる工夫がある。見通しの立った構成になっている。1年生では、教科書冒頭に小学校の既習事項を復習するためのページが充実している。</p>	<p>レッスンの終わりに目標となる言語活動「Goal Activity」が設定されており、ゴールに向かってとびから段階的に学びを進めることができる構成になっている。また、各「Goal Activity」には振り返りのためのポイントが示されており、課題や改善点を整理することができる。巻末には「What Can I do」の「CAN-DOリスト」が設けられており、4技能にわたり学習の目標を達成できたのかを確認することができる。リストが示されており、1年間の学びを振り返ることができる。1年生の教科書には、小学生の学習内容を振り返るページが設けられている。</p>	
<p>5. 自ら学んで能率を高めるための工夫 1. 学 習 内 容 の 選 び 進 む べ き 学 習 活 動 の 選 び 進 む べ き 工 夫</p>	<p>Unit1～Unit4の各Partに「Enjoy Communication」が設定され、コミュニケーション活動が組み込まれている。1年Unit5以降と2・3年には、各Partにペアで行う「Unit Activity」があり、段階的な活動が盛り込まれている。「Real Life English」では日常的な場面を設定し、体験的な活動を実施することができる。協働して問題解決を行う活動やグループでの発表活動が設けられており、対話的な学びの機会が豊富に用意されている。「Activity Sheet」の思考ツールには書き込み保存が可能でグループで共有することも可能である。</p>	<p>「Action」で与えられた場面や本文に関連したテーマで話し合いをすることができる。「Power-Up」には、ペアでロールプレイをしたり、互いに書いた文を読んで感想を述べ合ったりするタスクが組まれている。学期末のまとめで行われる「Our Project」では、グループ発表やポスター作成などで協働学習で学び合い、対話を通して問題解決に向かう活動を設定している。「Coffee Break 1」(2年P17)では「英語の略語表現」として、SNSで使われるスラング等が紹介されており、時代に準拠した英語表現を学ぶことができ、生徒の知的好奇心をくすぐるような工夫がされている。</p>	<p>各Partの内容に関する「Small Talk」のテーマが設定されており、様々なテーマでペアとやりとりすることができる。また、即興でのやりとりを練習するための「Role-Play Sheet」により、インフォメーションギャップ(異なる情報の差異を埋める)を使ってペアで活動できるようにしている。「Small Talk Plus」(3年P49)のコーナーや巻末資料の「Tips for Small Talk」では、ペアやグループで即興でやり取りし、会話を長く続けたり、議論を深めたりするアイデアやテクニックが紹介されている。</p>	
<p>6. 問題解決的な学習や課題解決ができる学習の工夫</p>	<p>各Unitの題材が、SDGs・多様性、人権・防災、安全・環境、資源エネルギーなどの今日我々が直面している問題をテーマとして扱っている。聞いたことのメモとしてマッピング(思いや考えを可視化する書き方)をしたり、そのメモに基づいてインタビューをしたりするタスクが組まれている。Story Retelling(本文内容を、写真や絵を参考にしてトピックごとにキーワードでまとめ、説明する)を行うためのメモを取るタスクが導入されている。多様な文化や価値観への気づきを促す「ダイバーシティーメモ」がある。Unit8はアプリカを題材とし、環境問題や紛争、貧困などの地球規模の問題について考えることができる。「Unit Activity」ではこの地球で起っている問題を伝え、協力を呼びかけるポスターの制作活動が設定されている(1年)。</p>	<p>聞いたことのメモとしてマッピング(思いや考えを可視化する書き方)をしたり、そのメモに基づいてインタビューをしたりするタスクが組まれている。Story Retelling(本文内容を、写真や絵を参考にしてトピックごとにキーワードでまとめ、説明する)を行うためのメモを取るタスクが各「PROGRAM」に導入されている。各Unitの題材が、SDGs・多様性、人権・防災、安全・環境、資源エネルギーなどの今日我々が直面している問題をテーマとして大きく扱っている。生徒一人一人がその諸問題に対してどのように関わっていくべきなのかを考える機会が設定されている。「Our Project」には生活に密着する話題について説明や質問ができるようになる設定になっている。</p>	<p>Reading、Writingともに身近な話題についてメモをまとめたり、サマリー(要約)をしたりするチャートが付されており、思考を整理しやすくなっている。「Read」では補助タスクの「Guide」が設定されており、視点を変えながら繰り返し英文を読むことで、概要や要点をとらえやすい流れになっている。SDGsに関連する題材が扱われている。</p>	
<p>7. 他教科との連携の工夫</p>	<p>CLIL(内容言語統合型学習)への対応として、2Part毎にある「Learning in English」では、世界中で使われている情報メディアや、SDGsに関するテーマなど、他教科での学習内容や現代的な諸課題と関連づけられたタスクが設定されている。</p>	<p>Readingでは、各「PROGRAM」の題材が他教科とリンクしており、エネルギー問題、環境問題、防災、平和、人権問題、スポーツの意義、共生などの題材を扱っている。</p>	<p>技術、音楽、社会、理科、保健体育、国語、道徳といった他教科との関連性を持たせた題材や歌などを扱っており、ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方に基いた学習へと発展させることができる。</p>	
<p>8. 学習・評価・記号・図等のほかの工夫 1. 表 示 方 法 の 工夫 2. カ ラー ユ ニ バー サ ル デ ザ イ ン</p>	<p>規則性のある構成により学習のユニバーサルデザイン化が図られている。淡い色合い、色の多用、図や表の大きさは適切かつ見やすい。発音に注意が必要な語や、他教科に関連する内容、タブレット端末等を使って取り組み活動など、様々な活動に応じた記号が用いられている。</p>	<p>「PROGRAM」1～3(1年)までは会話文の登場人物は絵で表記されており、行間が少し広がっている。識別しづらい色遣いを避け、書かれている内容が読み取りやすくなるよう、カラーユニバーサルデザインの大きくや特別支援教育の視点を取り入れた紙面作りがされている。</p>	<p>イラストや写真が大きく見やすい。学習要素が定位置にあり、わかりやすい。カラーユニバーサルデザインにも配慮した紙面作りがされている(2年P47)。記号や番号も大きく見やすい。また、それぞれの活動が色号化されておりわかりやすい。</p>	
<p>9. 表記・表現の工夫 1. 手 書 き の 工夫 2. 文 字 の 大 き さ 等</p>	<p>各Partの読み目の語数が掲載されている。Unit4までは4線を使用し、小文字が書きやすいように2、3線の幅を広くとっている(1年)。初期のフォントは、大きめで、読みやすい(1年)。また日本語表記・英語表記のどちらにもユニバーサルデザインフォントを使用し、支援が必要な生徒にも配慮がされている。より手書きに近く、日本語の文字と並べた時にも読みやすい工夫が施されている。</p>	<p>活字は太めで大きく、行間も十分に取られ、視認性に優れている。基本文の新出現のポイントに該当する部分や、新出単語欄の発音語彙は太字にしたり、文字色を変えて示すなど、重要度に応じて表示を変えたりと工夫されている。日本語表記・英語表記のどちらにもユニバーサルデザインフォントが採用されており、生徒にとって見やすいよう書体が工夫されている。1年生の初期には、バランスの取れた英語の書き方が学べるよう、4線が使われている。</p>	<p>日本語表記・英語表記のどちらにもユニバーサルデザインに配慮したフォントが使われている。文字の大きさ、フォントが学年に応じて工夫されており、実社会で英語を読む際に役立つ。1年生では、手書きの英語に近いユニバーサルデザインフォントが採用されている。</p>	
<p>10. 巻末(教材の配列)の編者の意図(時間など)</p>	<p>身近な内容から順に単元が配列されている。全てのUnitで、既習事項をスパイラルに学習できる構成になっている。学習する文法事項も日本人になじみの薄い後置修飾や関係代名詞、仮定法過去などは後半の単元で取り扱っており、生徒の発達段階に適している(3年)。</p>	<p>具体的な内容から抽象的な内容へと配列されており、生徒の成長に対して適切な構成である。文構造、文法事項は各単元はじめての「Scenes」でマンガ形式で導入されており、目的・場面・状況が明確なため、視覚的に進出表現を理解できる。</p>	<p>言語材料や言語活動は平易なものから複雑なものへ段階的に配列され、全体として系統に工夫がみられる。音声から文字、練習活動からコミュニケーション活動へと学習がスムーズに流れるように設計されている。既習事項がスパイラルに出てくるように工夫されており、知識・技能が定着しやすいうに工夫されている。</p>	
<p>11. 印刷ページ数</p>	<p>A4判 1年170 2年158 3年158</p>	<p>A4判 1年182 2年166 3年166</p>	<p>A4判 1年188 2年172 3年172</p>	

3 調査報告「外国語」 発行年・教科書名	17 教出 「ONE WORLD English Course」	38 光 村 「Here We Go! ENGLISH COURSE」	61 桜林館 「BLUE SKY English Course」
<p>1. 教科書から見た単元的・体系的・学習・能力の3つの柱の育成に資する工夫</p>	<p>各「Part」の「Grammar」によって総合的に基礎的、基本的な知識、技術を身につけることができる。「Task」によってコミュニケーション能力の育成を目指し、5領域別に設定された目標をそれぞれ達成できるように内容となっている。実際の使用に即した場面設定、興味・関心を高める話題、他者と関わりながら進めていく言語活動を豊富に設定している。「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」を育成できるように対話的な活動、協働して問題解決にあたる活動を取り入れている。「Project」では、学んだことを総合的に活用し、考えを深めることができるようにしている。</p>	<p>「英語を使ってできるよくなること」に基づき、教科書が大ききく3つのまとまりに分けられており、①話し合いの中で意見をまとめること、②得た情報を整理すること、③自分の意見を持ち、相手に表現することを目標にしている。それらの目標を達成するために、各Unitに4技能5領域に対応した活動や目標が配置されている。段階的に目標を達成していく中で、3年間で身につけさせたい力を習得できるように構成になっている。また、各Unitの「Part」では学習する言語材料の「知識及び技能」を身につけ、「You Can Do It!」では他者と協働して活動することで「思考力・判断力・表現力」を高められるような構成になっている。</p>	<p>Unitのとびらで学習目標が明示され、イラストや写真を見て音声聞いて学習内容のイメージを膨らませやすくなっている。また、Unitの終わりには学習目標の振り返りがあり、主体的に学習に取り組む態度を養う工夫がある。4技能5領域の活動はスモールステップで、全体を通してバランスよく設定されており、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた言語活動や具体的な課題を設定した活動を通して、各技能を習得させる工夫がある。各Unitの「Part」や「Focus on Form」で基礎・基本的な知識・技能を培い、「Think & Speak」「Let's Talk」「Write」「Listen」「Read」で思考・判断・表現の伸長に向けて技能の統合を図り、「Project」で総合的な発信力に結びつけられている。</p>
<p>2. 言語活動を充実するための工夫</p>	<p>巻頭のSpringboardでは、小学校で学習した表現や語彙を音声や文字で振り返ることができる(1年P6～P17)。既習の文法を用いた質問や応答をペアで行うことができる「Activities Plus」のページでは、活発に活動が行えるよう「Word Bank」が設けられている。Reading、Listening、Writing、Speaking4領域の活動を行う上でのコツを学習するため、「Tips for～ing」のページが設けられており、わかりやすく解説している。会話を行う上での「Useful Expressions」が掲載されている。「Tips」で各技能を高めるためのコツが紹介されており、「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介している。巻末の分野別用語集にはジャンル別に単語や表現がまとめられており、言語活動をする際に活用することができる。</p>	<p>小学校の既習事項を振り返り、中学校の学びへ円滑につなげるための導入教材「Let's Be Friends」が配置されている(1年P6～P19)。昔教材には、「Story Retelling」用の各Unitのイラストや、自己表現に役立つ「Active Words」があり、言語活動に役立てることができる。また、各Partの「Speak」や「Write」の随所に吹き出しが設けられており、自己表現の際のコツが明記されている。「Let's Talk」では、自分や相手のことについて、即興でやり取りをする力を身につけることを目標とし、ステップアップの仕方も明記されている。巻末付録には、自分の意見を分かりやすく伝えるためのコツがまとめられている(スピーキングの学び方)。</p>	<p>巻頭のLet's Startでは、小学校で慣れ親しんだ単語や表現が活用できるような言語活動が設定されている(1年P4～P10)。単元末の活動「Think & Speak」「Write」や「Project」で既習事項を活かして総合的な言語活動に取り組む際には、マッピング(2年P45)や表(3年P40)で思考を整理しやすいように工夫されている。また、「Tool Box」で自己表現に役立つ語句や表現が提示され、巻末の付録には音読のコツや「Word Box」が記載されており、言語活動の補助に活用できる。</p>
<p>3. 以下を活用した学習活動の工夫</p>	<p>ほぼ全てのページに2次元コードが配置されており、語句や本文の発音、動画をスマートフォンやタブレット等で手軽に見聞することができる。本文テキスト新出の語句や基本本文の発音や録音、再生ができる。新単語はフラッシュカードや単語一覧表にマスクの取りはずしができる。再生速度を学習の段階に応じて調整することができる。「まなびリンク」ではワークシートを使った問題演習が可能で、教室や家庭学習でもデジタルコンテンツを活用することができるようになっている。</p>	<p>ほぼ全てのページに2次元コードが配置されており、生徒はいつでも語句や本文の発音を確認・練習することができるようになっている。巻頭に、ICTの具体的な活用場面がイラストや動画で紹介されており、生徒が自ら進んでICTを活用することができるようになっている。本文の発音は速度調節も可能であり、生徒は自分のレベルに応じて活用することができる。また、教科書の登場人物がアニメーションで基本本文の解説をしている動画もある。</p>	<p>ほぼすべてのページに2次元コードが配置されており、語句や本文の発音をスマートフォンやタブレット等で手軽に聞くことができる。語句も1つずつ、連続再生など選ぶことができ、文字のサイズ設定、マスキング機能設定も自由に行えるようになっている。発音練習、本文内容理解、Listening問題、文法の解説を見聞することができる。再生速度を調整することができ、学習者の段階に応じて対応できる。学習者用デジタル教材では、フラッシュカードの機能があり、指導者用デジタル教材では、コンテンツの一部に生徒が問題を解いた正誤の常用が確認できる機能がある。</p>
<p>4. 学習を見通しやすくなる工夫</p>	<p>各Lessonのとびらや「Project」のページには、内容理解と活動の目標が示されており、学習の見通しが立てやすい。また、Lessonの終わりには文法のとびらと本文の内容を振り返る「Task」が設けられており、「Project」の終わりには目標の達成度を表す振り返りが設けられている。巻末には「CAN-Doリスト」が示されており、1年間の学びを振り返ることができる。Lesson1～3はActivityを中心に構成されており、漫画形式で徐々に対話文に慣れるように工夫されている。1年生では、小学生の学習を振り返るページがあり、スムーズに中学の学習につなげられるよう工夫されている。</p>	<p>教科書が大ききく3つのまとまりに分類し、それぞれに大きな目標が設定されている。それらの大きな目標を達成するために各Unitの目標が存在し、目次や各原に4技能5領域別にわかりやすく明記されている。Unitの「Goal」の最後に、目標を達成できたかどうか振り返ることができる部分がある。また、巻末には英語をよりよく使うためのコツが紹介されており、生徒が目標達成に向かって粘り強く取り組んでいくための一助となっている。巻末の「CAN-DO リスト」を折に触れて確認することで、生徒は自分の学習の見通しを立てたり、振り返ったりしやすいういうようになっている。1年生では、小学校の学習内容をじっくりと振り返るページがあり、苦手意識をもたせない工夫がされている。</p>	<p>Unitの最初に学習到達目標が明示され、生徒自身が見通しを立てて、自律的に学習を進められる。Unitの目標については、InputとOutputに分けて設定されている。Unitの終わりにはチェックリストがあり、学習到達目標の振り返りができる。また、巻末には「CAN-Do リスト」が掲載されており、領域別に設定された学習到達目標を学年の終わりに確認し、記入できるようになっている。1年生では、小学校の学習内容を振り返るページがあり、じっくりと英語学習の基礎を固めることができる。</p>
<p>5. 自ら進んで勉強を続ける工夫</p>	<p>「Activities Plus」において、既習の言語材料を用いて、様々な話題における応答例が示されペアワークができるよう工夫されている。また、「Grammar」ページの「Let's Use」においても、学んだ文構造や文法事項を含む対話等を自由に入れ替えて展開できる仕組みになっており、ペアワークによって口頭練習に継続的に取り組むことができるよう工夫されている。「Project」においては、グループワークで効果的に取り組むことができる活動が取り入れられている。</p>	<p>各Partに簡単なペアワークが設定されている。各Unitの「Goal」では、他者と協働して活動する場面や状況が設定されている(3年P26)。また、「You Can Do It!」では、身近な題材から社会的な問題についてディベートやプレゼンテーションを通して、生徒が自分の意見を発信できるようにしている。</p>	<p>各Unitの学習では、スモールステップでペアやグループの活動に取り組めるように工夫されている。「Let's Talk」では実生活に即した場面や題材をペアでロールプレイをしたり、スキットを作って演じる活動が組まれている。「Project」では発表するだけでなく、助言や評価をする場面、グループで協働、発表する場面が設定されており(3年P90)、技能統合的な活動に取り組めるように工夫されている。</p>
<p>6. 問題解決的な学習や課題解決ができる工夫</p>	<p>SDGsやリサイクル、慈善活動、福祉、男女平等などが題材として挙げられ、道徳心を養う工夫がされている。また、環境問題や絶滅危惧種の生物、児童就労など社会問題にも触れ、現代の諸課題について考える工夫もされている。Reading、Listening、Writing、Speakingの4領域において「手がかりとなる事柄」を「Tips」として紹介している。「Project」では、表現活動を行う上で、自らの考えをまとめることができるような段階的な学習の流れになっている。</p>	<p>SDGsや絶滅危惧種の生物、国際社会の平和、貧困問題など世界が抱える問題を教材としているUnitが多くあり、教科書を通してこれらの問題の基礎知識を得ることができる。各Unitの「Goal」では、得た知識をもとに他者と協働しながら、持続可能な社会の実現に向け自分たちに何ができるか考えさせる教材となっている(3年P61～P69)。</p>	<p>情報を図や表にメモをして、取り組む活動が多く設定されている。「Project」や「Let's Write」では、個人で作成した英作文やメモをペアやグループで共有し、助言をもとに改善した内容を最終的に発表させる構成になっている。ディスカッション(2年P122、P123)はグループの意見をまとめ、他のグループの意見と交流することで考えを深められるように工夫されている。インタビュー(3年P44、P45)では互いに持ち寄った質問を精査、分類した上で役割を決めてインタビューをし、内容をまとめる活動を設定し、協働して問題解決を図る体験ができるよう工夫されている。SDGsや環境問題など現代の社会問題を多く取り上げ、将来を担う生徒たちに考えさせようとしている。</p>
<p>7. 教科書との連携の工夫</p>	<p>絶滅危惧種や食文化の教材を取り入れ、理科、家庭科といった他教科との関連性をもたせている。日本語の文との語順との対比、カタカナ語と英語の違いに着目するなど、国語科との関連も図られている。また、国際貢献や児童就労に関する題材を取り上げ、社会や道徳とも関連性を持たせ、他教科との連携を図っている。</p>	<p>巻末の「思考の地図」には自分の考えを広げたり、考えをまとめるためのコツを紹介している(各学年巻末④)。持続可能な開発目標(SDGs)に関するテーマを幅広く取り上げている。</p>	<p>登場する国や地域が幅広く、各国の文化や伝統を学ぶことができる構成になっている。世界遺産、食文化、環境問題、防災・安全、平和学習、キャリア教育、科学技術・福祉、人権、異文化理解、芸術など多岐にわたる課題を取り取り取り、社会、理科、美術、音楽、道徳など他教科との連携を図り、教科横断的な学習を行うことができる。</p>
<p>8. 写真・挿絵・記号・図等の活用による工夫</p>	<p>写真、挿絵が多く、大きく鮮明である。ユニバーサルデザインに配慮されていて、学習者にとって見やすくわかりやすい配色である。ページの種類ごとに色分けがされており、わかりやすい。Lesson2までは本文が大きな字になっており、学習者にとって入り込みやすい内容になっている(1年)。</p>	<p>写真、絵、図が多く用いられ、全ページにわたってすべての人が使いやすいユニバーサルデザインの観点に立った色遣いやデザインである。図表は、色に頼ることなく線の種類や濃淡・地紋でも識別できるようになっている。</p>	<p>ページの種類によって色分けされており、わかりやすい。豊富な写真や挿絵、図があり、白を基調にした背景でわかりやすい。デザインもシンプルで、ユニバーサルデザインに配慮されている。</p>
<p>9. 表記・表現のわかりやすさ(字種、文字の大きさなど)</p>	<p>文字の大きさはフォントに応じて工夫されており、行間が適度に空いて読みやすい。また、手書き文字に近く、判読しやすいよう、日本語表記・英語表記のどちらにもユニバーサルデザインフォントが採用されている。Lesson4までは4線を使用し、小文字が書きやすいように2、3線の幅を広くとっている(1年)。</p>	<p>小学校との接続期には、活字体と書き文字との差異の生じない書体が使われている(1年P26)。Unit3までは4線を使用し、小文字を書きやすいように2、3線の幅を広くとっている(1年P29)。早期のUnitの会話文は吹き出しを活用しており(1年P28)、全学年において日本語表記・英語表記のどちらにもユニバーサルデザインフォントが採用されている。</p>	<p>1年初期では、4線の幅が小文字が書きやすいようになっている。日本語表記・英語表記のどちらにもユニバーサルデザインフォントが採用されており、支援が必要な生徒にも配慮がされている。「Word List」の品詞が白抜き文字でわかりやすい。背景が白の、新出単語などが目に入りやすい。習熟度別にフォントや文字の大きさが変化しているが、行間のスペースは十分にある。</p>
<p>10. 表記・表現のわかりやすさ(字種、文字の大きさなど)</p>	<p>Lessonの題材については、生徒の発達段階、興味・関心に配慮され徐々に世界や進路について視野が広がっていくよう工夫されている。言語活動においても難易度の比較的低いものから高いものへと段階的に配列されている。各LessonがPart1～3で構成されており、4技能5領域をバランスよく学ぶことができるように配列している。</p>	<p>8つのUnitで教材を構成し、まとまりごとの題材数に軽重をつけバランスよく配列されている。また、各Unitの題材の時期が、実際の学校行事や進路指導の各時期とリンクしており、生徒が親しみやすい題材となっている(3年)。文法事項も生徒の発達段階に適している。</p>	<p>Unitの題材については、生徒の発達段階や興味関心に配慮されており、世界や進路について徐々に視野が広がっていくよう工夫されている。各Unitが「Part」1～3、「Read & Think」「Think & Speak」で構成されており、言語活動の難易度が低いものから高いものへと段階的かつ4技能5領域についてもバランスよく学ぶことができるよう配列されている。</p>
<p>11. 印刷ページ数</p>	<p>AB判 1年182 2年182 3年182</p>	<p>AB判 1年194 2年194 3年194</p>	<p>A4判 1年166 2年170 3年154</p>

3 調査報告「道徳」	[5人]	2 東書	17 教出	38 光村
<p>①教科目標から見た編纂の適切さ 「学習・能力の3つの柱の育成に向けた工夫」</p>	<p>「新編 新しい道徳」</p>	<p>冒頭のガイダンスページで「何を学ぶか」「どう学ぶか」について触れる機会を設定している。各教材下部に「つぶやき」という自由に記述することができる箇所がある。各教材末には「考えよう」「見つめよう」という2つの発問が設定されており、一人で考えたり、グループで話し合ったりできるよう工夫されており、加えて「考えようをぐと深める」により、より深く考える機会を設定できる。「あらすじを簡単にわかるコマ漫画」や「デジタル心情円」といった教材と関連する、多様なデジタルコンテンツにアクセスすることができる。</p>	<p>「中学道徳 とびだそう未来へ」</p> <p>冒頭に「さあ、道徳を始めよう！」というガイダンスページを設定し、「何を学ぶか」「どう学ぶか」について触れる機会としている。各教材に「導入の発問」を設定し、自分自身の身近なこととつなげて考えることができるようになっている。各教材末には「学びの道しるべ」として3つの発問が設定されており、段階的に道徳的諸価値の理解を深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができるよう工夫されている。デジタルコンテンツ「まなびリンク」を開くことで、教材と関連する情報にアクセスすることができる。</p>	<p>「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき」</p> <p>「道徳科の学習を始めよう」「道徳 道案内」というガイダンスページにより、道徳を学ぶ意義について考える機会が設定されている。各章に設けられた、考えを深めて授業のねらいに到達するための発問例「考えてみよう」により、生徒が授業で何を考えていけばよいか明確になっている。各設問が対話を重視するよう設定され、自分に引き寄せて考えたり、見方を変えて話し合ったりするなど、多面的・多角的に考えられる内容となっている。「人権に対する感性を育てよう」というユニットを設けている。</p>
<p>②主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>① 言語活動を充実するための工夫</p>	<p>「考え、議論する道徳」に向けて、それぞれの教材で「考えよう」「見つめよう」が設定され、グループワークによる議論が想定されている。また、「つぶやき」のメモ欄は、思ったこと、考えたことなどを自由に記入できるようになっており、このメモを基にして議論することが想定されている。</p>	<p>巻頭のオリエンテーションでは、話し合いを深く行うためのポイントが提示されている。また、いくつかの教材の後に「ひろば」「やってみよう」ではグループ活動が想定されており、話し合い活動を通して教材での学びを広げたり、深めたりする工夫がされている(例:裏庭のできごと 1年P58～P63)。</p>	<p>「チャレンジ 問いを立てよう」では、教材を読んだ後に各自が問いを立て、その問いをグループで交流する機会を設定している(例:私がピンク色のキャップをかぶるわけ 3年P21～P25)。また、各学年の3学期には哲学的な対話に取り組む教材が配置されており、グループでの話し合い活動が想定されている。さらに、各学年において、対話を通して問題解決しようとする教材が設定され、問題解決の道筋を視覚化し、何のために、何を話し合うのが明確化されている。</p>
<p>③ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫</p>	<p>② 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>学期ごとに自己評価用紙「自分の学びをふり返ろう」が切り取り式で用意されている。教材のタイトルの下に、漫画のコマが掲載され、授業の冒頭に学習のテーマや内容について考えることができる(1学年あたり5教材)。</p>	<p>教材の冒頭に「導入」の問いが設けられており、生徒が見通しをもって主体的に学べるよう工夫されている。全教材に「導入」「学びの道しるべ」が設けられており、学習前と学習後の考えや心の変容を生徒自身が実感できるよう工夫されている。</p>	<p>1年間のスタートにあたって、学びを見通し、目的意識をもって授業に向かうことができるよう、各学年第1教材に「道徳の学習を始めよう」が位置づけられている。「道徳道案内」では、テーマごとに教材名がまとめられており、学びを見通すことができる。巻末の折込に、毎時間生徒が自己評価の記録を残す「学びの記録」が設けられており、切り取って活用できる。</p>
<p>④ 自ら学ぶ中で他者と関わりをつくるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫</p>	<p>③ 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>③ 哲学的対話(p4c) (3年P110)として、ボールを持った生徒が発言できる、相手を傷つけることは言わない、といったルールをもとに話し合いを行うコラムが全学年に用意されており、対話をする際のルールを明確化することで発言しやすくなる工夫がされている(例:好きな仕事か 安定か悩んでいる 3年P107～P109)。役割演技ができるコラムが設定されており、登場人物の気持ちを体験し、道徳的価値に迫ることができるよう工夫されている(例:缶コーヒをめぐるやりとりの場面をやってみよう 3年P142～P143)。</p>	<p>問題解決的な学習として、答えが一つではない問いを考え、自分の判断や生き方と関連づける工夫がされている(例:最優秀 2年P28～P33、違反摘発 2年P100～P101)。体験的な学習として「やってみよう」では、役割演技やフリーリングなどの活動が取り入れられている。</p>	<p>各学年の第1教材「1道徳の学習を始めよう」では、主体的に学びに向かえるよう、「話し合おう」「読んで」「演じて」「書いて」という考えの深め方が明示されている。「やってみよう」では、役割演技ができるよう場面設定などがされており、対話をしながら考えを深められるよう工夫されている。</p>
<p>⑤ 個々の考えを深めるための工夫</p>	<p>④ 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>教材文に沿って考える「考えよう」、教材から離れて自分を見つめて考える「見つめよう」、「考えよう」「見つめよう」のどちらかをさらに深める「ぐと深める」の3つが教材ごとに設定されている。巻末には心情円が付されており、自分の気持ちを表現し、考えることができる。また、心情円は二次元コードを読み取ることで使用することもできる。</p>	<p>各教材に導入があり、ねらいとする道徳的価値へ意識づけたり、学習テーマを共有したりすることができる。「学びの道しるべ」では、「教材をもとに問題意識をもつ問い」「自分ごととして、多面的・多角的に考える問い」「自分を振り返り、これからの生き方について考えを深める問い」の順に構造化された3つの問いが設定されており、考えを段階的に深めることができる。</p>	<p>各教材の終わりには、学びのテーマを提示した「考えよう」、道徳的な問題を明らかにする問いと道徳的な価値についての理解や自覚を深める問いが設定されている。また、「考えよう」とは切りの異なる問い「見方を変えて」や、日常生活につなげるための「つなげよう」が設定されており、段階的に考えを深めることができる。</p>
<p>⑥ 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫</p>	<p>⑤ 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>全学年に教材と関連したテーマをさらに深化・拡充させるコラム「Plus＋プラス」を多数掲載し、ソーシャルスキルコラム、探究の対話・体験的な学習・中学生が親しみやすいコラムなどを通して、生徒自身がさらに深く課題を考えるきっかけになるよう設定されている。自ら問題を設定し問題を解決する過程で道徳性を養う教材が全学年に配置されている(例:その子の世界 3年P102～P105)。各学年に現代的な課題を題材とした教材が複数配置されており、身近な社会問題を自分との関係において考えられるよう構成されている。</p>	<p>全学年「いじめをなくそう」「つながり合って生きる」「いのちをかがやかせよう」では複数の教材とコラム(ひろば)を組み合わせたユニットを設定し、現代的な課題の発見ならびに解決について、重層的に深く取り組めるようにされている。1年間の学びをもとに「よりよく生きる」ということについて考えを深めるページや、「道徳科の学びを振り返ろう」という、各学期や1年の学びを振り返って記録するページがあり、これらによって自身の成長を感じ、今後の課題や目標を見つけることができるようになっている。</p>	<p>全学年を通して、全ての教材に「考えよう」が設定され、自分に引き寄せて考えたり、問題解決のためにはどうすればよいかを考えたりする問いが用意されている。全学年「よりよい学校生活の学び・集団生活の充実」を扱った教材において、問題を解決する中で、道徳的価値に迫ることのできる教材が用意されている(例:親友 1年P34～P39、ジューク 2年P20～P24、松葉づえ 2年51～P57)。「チャレンジ 演じて考えよう」が設けられており、役割演技を通じて課題を発見したり、道徳的価値について考えを深められるようになっている(例:三年目の「ごめんね」 3年P40～P44)。</p>
<p>⑦ 他教科との連携の工夫</p>	<p>⑥ 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>他教科リンクにより、二次元コードを読み込むことで、関連する他教科の紙面をデジタルで閲覧することが想定されている。防災教育と関連する教材には、VR映像が用意されている(例:避難所での出来事 3年P73～75)。</p>	<p>社会科と関連した教材が各学年に多く設定されている(例:国連難民高等弁務官の緒方貞子 1年P48～P53、リオアニア外交官の杉原千蔵 2年P38～P45、自己決定権の意思表示カード 3年P140～P141)。また、食品ロスなどSDGsをテーマにした教材がある。</p>	<p>SDGsや他教科との関わりが分かりやすいように各教材末にマークが掲載されている。巻末の一覧表に他教科との関わりを掲載している。</p>
<p>⑧ 写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)</p>	<p>⑦ 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>写真や挿絵、ポスターなどのビジュアルから考える教材、マンガから考える教材、グラフから考える教材など、多様な教材から、生徒の学習意欲を引き出せるよう工夫されている(例:いじめに当たるのはどれだろう 1年P22～P24)。</p>	<p>漫画や絵本を用いた教材、絵や写真から考える教材など、読むことの負担を減らし、生徒の学習意欲が持続するよう工夫されている(例:変わりゆく地球 3年P98～P101)。色覚の個人差によって学習に支障をきたすことがないよう、判別しやすい配色や表現方法を採用し、全ての生徒が支障なく学習できるよう配慮している。</p>	<p>読み物教材では、中心的な発問の場面に挿絵を配置している。説明内容を解説するための写真や図表、グラフを必要な箇所配置し、本文の理解を助けるよう工夫されている(例:タコをたどって見せるもの 3年P60～P63)。絵本や漫画を転載した教材が位置づけられ、視覚的に生徒の興味関心を引きつけている。</p>
<p>⑨ 表紙・表裏のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)</p>	<p>⑧ 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>視認性の高いUDフォントが使用されており、平易な文章となっている。小学校で学習する漢字以外の全ての漢字に振り仮名が振られており、小学校で学習する漢字であっても読みにくい漢字には振り仮名が振られている。注釈には番号がふられており、本文と対応しやすくなっている。全ての教材に二次元コードが用意されており、朗読音声を使用することができる。</p>	<p>本文は視認性の高いUDフォントが使用されている。中学校配当漢字と常用漢字、固有名詞には振り仮名が振られている。理解が難しいと思われる言葉には脚注をつけ、教材理解のために必要な解説を加えている。</p>	<p>本文には、UDフォントの明朝体が使用されている。また、題名や見出しは太字やゴシック体を用いて内容を捉えやすくするよう配慮されている。中学校以上配当の常用漢字全てに振り仮名が振られている。</p>
<p>⑩ 単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)</p>	<p>⑨ 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>全学年を通しての重点内容項目と、学年ごとの重点内容項目を設定している。「いじめ問題のユニット」「生命尊重のユニット」「情報モラル」「自己肯定感を育む教材」は、指導に最適な時期を考慮し、各学年同じ時期に配列している。</p>	<p>各教材は、他教科や学校行事と連携しやすい時期に配置し、横断的な学びを通して学習効果が高まるようにしている。学習指導要領の内容項目が過不足なくおさえられ、学期ごとにも偏りがないように教材を配置している。</p>	<p>学校生活の実態と、生徒の成長を考慮し、1年間が複数の教材をまとめたユニットで構成されている。多くの学校で行われている行事が想定される時期に関連した学習を行えるよう、教材配列されている。教材を通じて学ぶ内容項目は、学びがつながるよう配列が工夫されている。</p>
<p>⑪ 判ページ数</p>	<p>⑩ 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>AB判 1年202 2年210 3年210</p>	<p>B5判 1年209 2年201 3年201</p>	<p>B5変型判 1年191 2年199 3年199</p>
<p>⑫ 現代的な課題への対応</p>	<p>⑪ 主体的・対話的で深い学びについての工夫</p>	<p>「いじめ問題」「生命の尊さ」「情報モラル」「SDGs」「多様性」の5つを現代的課題として取り扱っている(例:ある日の午後から 3年P24～P27、避難所での出来事 3年P73～P75、私の『ふつ』と、あなたの『ふつ』 1年P115～P118)。</p>	<p>「いじめ等の人権課題」「持続可能な社会」「生命の尊さ」がユニット構成になっている。情報モラルを考える教材も学年ごとに設定されており、情報活用力が育成できるよう工夫されている(例:歩きスマホをどうするか 3年P72～P74、ルールとマナー 1年P64～P67)。</p>	<p>いじめ問題について考えることができるよう、全学年に「いじめを許さない心について考える」ユニットが設けられている(例:『いじり』って 2年P43～P45)。「情報モラル」については、生徒の身近な問題を通して道徳的価値を考えられるようにされている(例:漫画泥棒 3年P87～P90)。「生命の尊さ」については、各学年に3教材ずつ用意されており、生命の誕生や死、命のつながりなどが扱われている(例:命が生まれるそのときに 2年P25～P28)。</p>

3 調査報告「道徳」		116 目文	224 学 研	232 あか岡
発行巻・教科書名		「中学道徳 あすを生きる」	「新版 中学生の道徳 明日への扉」	「中学生の道徳」
①教科目標から見た編集の適切さ 「履修」能力の3つの柱の育成に向けた工夫		各章で、考えを深めてその授業のねらいに到達するための発問例である「考えてみよう」と、学んだことを前向きに自分に生かすための「自分にプラスワン」を設定している。各教材に「学びのキーワード」が明示され、生徒が自分とのかかわりで道徳的価値について理解できるようにしている。別冊「道徳ノート」に自分の考えなどを書くことにより、学びの積み重ねから自身の成長の様子を把握することができるよう設定されている。	各章では、考えを深めるために「考えよう」を設定している。単元によって「深めよう」のページが適宜配置され、「見つけよう」「考えよう」「話し合おう」「生き方につなげよう」の4つのステップにより授業の流れが分かりやすく設定されている。「いのちの教育」を最重要テーマとして設定し、各テーマを内容項目が異なる複数の教材で多面的・多角的に学ぶユニット学習ができるように、また「SDGs」「多様性」「キャリア」に関して広い視野をもって考えを深めることができるようになっている。	各単元の末尾には「自分をみつめて考える」または「いろいろな見方で考える」と、「考えを深める」を設定し、各単元のねらいに迫る発問を通して考えに道すじができるようになっている。また追加発問「自分との対話」によって、教材での学びを踏まえて、自分自身や道徳的価値について問い直すような振り返りができるようになっている。「マイ・プラス」によってロールプレイや体験的な学習、問題解決的な学習など、多様な学習活動が提案されている(例:いじめについて話し合ってみよう 1年P34～P35)。
②主体的・協力的な学びについての工夫		① 言語活動を充実するための工夫 巻頭のオリエンテーションでは、話し合うポイントを提示している。また、教材ごとにある「考えてみよう」は、考え議論し、ねらいに迫るための発問例を提示している。さらに、各学年のいくつかの教材には「学びを深めよう」が設定されており、ロールプレイングや思考ツールを活用して話し合いを促進させようとしている。	① 言語活動を充実するための工夫 巻頭のオリエンテーションでは、考えを深めるためのステップとしてグループワークやペアワークの話し合いを提案している。また、いくつかの教材の後に「深めよう」では、グループワークやロールプレイングが想定されており、教材での学びを深める工夫がされている(例:キャッチボール 2年P68～P71)。さらに、各教材にはメモ欄があり、思ったことや考えたことを記入することを想定している。	① 言語活動を充実するための工夫 各学年のいくつかの教材の後に「マイ・プラス」では、考えを深めるために話し合い活動が設定されている。多様な考え方を示したり、考え方の違いをテーマにしたりすることで、意見交流が図りやすい教材を積極的に掲載している(例:社内の場面を実際にやってみよう 1年P92～P93)。
③ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫		② 主体的な学びについての工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 全ての教材の冒頭に学びのキーワードが記載され、生徒が見通しをもって主体的に学習できるように配慮されている。「道徳ノート」が付属しており、学びを続けることで生徒自身が心の成長を感じることができる。	② 主体的な学びについての工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 1年間の振り返りができる「未来への扉」で、学びの記録ができる。巻末の綴り込みで、日々の気づきや学期ごとの学びが蓄積でき、生徒が自身の成長をふり返り、課題や目標を見つめることができるように工夫している。	② 主体的な学びについての工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 生徒の発達段階に合わせて、各学年のスタートの教材が用意されている。教材は1年間の道徳科での学びの指針になる内容に工夫されている。学習の振り返りでは、学期ごとまたは1年間を通して、生徒自身が授業の取り組みを振り返ることのできるシートが用意されている。
④ 自ら進んで他者と関わるようになるための工夫や体験的な活動を導入するための工夫		③ 主体的な学びについての工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 各学年、6つの教材のあとに「学びを深めよう」のページが設定されており、問題解決的な学習や体験的な学習などの流れや資料が示されている。学びを深めるためのヒントとして、話し合いの手法や整理方法も示され、役割演技など、多面的で深い活動が取り入れられている(例:ヨソト 2年P70～P75、電車の中で 3年P108～P113)。	③ 主体的な学びについての工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 教材のあとに適宜配置されている「深めよう」では、考えを深めるための4つのステップが設定されている。その3番目のステップである「話し合おう」では、ペアやグループ、クラス全体での意見交流の場が設けられ、体験的に学ぶことができるよう役割演技も設定されている(例:ごみ収集場所をどこに 2年P20～P23)。	③ 主体的な学びについての工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 教材を読み、問題解決的な学習や体験的な学習を通して、様々な視点から考えを深める「マイ・プラス」のページが設定されている(例:1年P34～P35、P92～P93、2年P46～P47、P94～P95、3年P26～P27、P76～P77)。
⑤ 個々の考えを深めるための工夫		⑤ 個々の考えを深めるための工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 二次元コードを読み込むことで、「心情メーター」「シンキングツール」を使用できる。全教材の始めに「気づく」、教材の終わりに「考えてみよう」「自分にプラスワン」が設定されており、段階的に考えを深めることができる。教材末に「視野を広げて」「学びを深めよう」が設置されているものがあり、さらに考えを深めることができる。	⑤ 個々の考えを深めるための工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 教材ごとにある「考えよう」には発問2問ずつが設定されている。第1教材には「深めよう」が設定されており、「見つけよう」「考えよう」「話し合おう」「生き方につなげよう」という4つのステップで考えを深めることができる。二次元コードが用意されており、思考ツールを使用することができる。	⑤ 個々の考えを深めるための工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 各教材の終わりには、「考えの道すじ」が提示されている。また、「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」のどちらか、「考えを深める」の発問2問があり、さらに「自分との対話」が設定されており、段階的に考えを深めることができる。
⑥ 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫		⑥ 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 全ての教材の冒頭に「学びのキーワード」が記載され、生徒が主体的に学習できるように配慮されている。各学年6つの教材の後は「学びを深めよう」のページが設定され、問題解決的な学習や体験的な学習の流れと資料が示されており、学びの見通しや思考の広がり・深まりへとつながるように工夫されている(例:三人の乗客 1年P100～P103、電車の中で 3年P108～P113)。別冊「道徳ノート」では発問欄が空欄になっており、各教材で問題解決的な発問や課題発見につながるような発問が設定できる。	⑥ 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 教材により「深めよう」が適宜配置され、「見つけよう」「考えよう」「話し合おう」「生き方につなげよう」という4つのステップを具体的な例で示して、ひとつずつステップを踏みながら課題発見や問題解決への取り組みができるよう設定されている。巻末に「未来への扉」「学びの記録」「学びのメモ」が設けられ、生徒自身が成長を振り返り、課題や目標を見つめることができるよう工夫されている。	⑥ 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 全ての単元に「自分との対話」として、テーマに対する「自分自身の課題」発見を促すような問いかけが設定されている。各学年に3か所「マイ・プラス」という、役割演技や話し合いなどを取り入れて、生徒がいろいろな立場で課題について想像したり考えたりできるような問いが設定されている。「北の大地から野生の猛禽を守る」(2年P90～P93)では、齋藤さんとハンターの意見の対立という問題を解決するためにどうしたらよいか、深く掘り下げて話し合う機会を設定し、多面的・多角的な学びにつながる機会が設定されている。
⑦ 他教科との連携の工夫		⑦ 他教科との連携の工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 巻末の内容項目別教材一覧では、他教科との関わりがわかりやすく提示されている。他教科等の内容及び実施時期との関係を考慮して教材配列がなされている。	⑦ 他教科との連携の工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 社会科と関連した教材が各学年に設定されている(例:エルトゥールル号 1年P32～P36、難民問題 2年P82～P87、リトアニア外交官の杉原千敏 3年P176～P181)。また、各学年でSDGsをテーマにした複数の教材がユニットとして構成されている。	⑦ 他教科との連携の工夫 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 巻末の「Thinking」では、SDGsの視点で各教材を17の目標で分類している。各学年の巻末には各教材の該当内容項目や各教科等との関わりを一覧で掲載している。
⑧ 写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)		⑧ 写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど) ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 図版が鮮明で大きく配置されるなど、生徒が理解しやすく興味・関心をもてるように工夫されている。色覚特性の有無を問わず、全ての生徒にとって見やすいように色調や色の組み合わせが細部まで配慮されている(例:星空を届けたい 3年P148～P153)。	⑧ 写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど) ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 カラーユニバーサルデザインの観点から、全ての生徒によって学びやすいよう配慮されている。色彩は目にやさしく仕上げられている。レイアウトの工夫により、学習展開を考慮して、余白を適度に確保したゆとりある紙面構成になっている。(例:償い 2年P152～P155)	⑧ 写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど) ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 教材の冒頭には、色・形状を工夫したマークを配置し、全ての生徒によって学びやすくなるよう、配慮されている。人物を扱った教材では、写真が大きく配置されている。「夢へのステップ」について考えよう(3年P13～P14)では、大谷翔平選手が実際に書いた目標設定シートが掲載される等、生徒を引きつける工夫がされている。挿絵では、場面や登場人物の表情を細かく表現しているものが多い。
⑨ 表紙・表紙のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)		⑨ 表紙・表紙のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど) ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 視認性の高いUDフォントが使用されている。中学校で学習する漢字に振り仮名が振られている。脚注欄、側注欄を活用し、やや難解な語句や、教材の読み取りに必要な補足説明が丁寧にされている。全ての教材に二次元コードが用意されており、朗読音声を使用することができる。	⑨ 表紙・表紙のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど) ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 視認性の高いUDフォントが使用されている。中学校で学習する漢字と固有名詞には振り仮名が振られている。注釈には番号が振られており、本文と対応しやすくなっている。	⑨ 表紙・表紙のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど) ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 視認性の高いUDフォントが使用されている。生徒の読み取りに差異が生じないよう、未習の漢字には全てに、固有名詞は教材初出のみに振り仮名が振られている。学習上説明を要する文言や固有名詞などには、必要に応じて脚注を付している。
⑩ 単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)		⑩ 単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など) ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 発達の段階や学校生活、他教科等の学習内容、内容項目間の関連を考慮し、いじめやよりよい社会に関わる内容について複数の教材やコラムがユニット化され、複数配置されている。テーマを設けて教材の選定や配列が工夫され、各テーマを学ぶ必然性が感じられる適切な時期に設定している。キャリア教育の理念に配慮した校種間連携について、教材の選定や配列が工夫されている。	⑩ 単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など) ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 目標を達成できるように各学年で教材が構成されている。生徒が興味・関心をもって学べるよう、様々な分野で活躍する人や先人たちに関係する教材を多数掲載している。教材の配列については、生徒の発達段階を踏まえるなど様々な点を考慮し、系統的な学びが展開できるように工夫されている。	⑩ 単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など) ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 他の教科や教育活動との関連を考慮して教材を配列している。「生命尊重」「いじめ防止」を最重要課題として取り扱うよう構成している。その他、重点項目については、年間3時間ずつ相当するよう構成されている。
⑪ 判・ページ数		⑪ 判・ページ数 B5判 1年178別冊42 2年186別冊42 3年194別冊42	⑪ 判・ページ数 A5判 1年190 2年194 3年198	⑪ 判・ページ数 B5判 1年194 2年194 3年194
⑫ 現代的な課題への対応		⑫ 現代的な課題への対応 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 コラム「視野を広げて」では、現代的な諸課題に関わる5つのテーマ(いじめ、自立と共生、環境と未来、安全な生活、情報社会)を基にして生徒の実生活に即した内容を扱っている(例:いじめをなくすために 2年P44～P45、直撃 仕事インタビュー 2年P22～P23、気候変動と生物多様性 3年P130～P131、毎日を安全に過ごすために 1年P60～P61、AIと情報社会 3年P66～P67)。	⑫ 現代的な課題への対応 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 「14の現代的課題マーク」を教材名とともに配置している。「SDGs」「多様性」「キャリア」を「ユニット学習」としている。「多様性ユニット」には、LGBTQに関する内容が発達段階に合わせて設定されている(例:らしさって何だろう 1年P18～P23、先輩がくれたひと言 2年P74～P76)。情報モラルの教材では、デジタル機器を自分らしく活用する方法や、ネット特有のいじめについて考えることができる(例:○○流デジタルライフ 3年P10～P13)。	⑫ 現代的な課題への対応 ④ 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 「いじめ問題」をはじめ、「情報モラル」「キャリア」「共に生きる社会」という4つのテーマをユニット化し、現代的課題に向き合うための設定がされている(例:リアルとネットの不思議 3年P56～P59、分身ロボットカフェへようこそ 3年P78～P81)。

3 調査報告「道徳」	
発行年・教科書名	233 目 録
観点	「道徳 中学校」
①教科目標から見た編集の適切さ ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	ウェルビーイングカードを用いて、いくつかの視点から自分自身を見つめなおしたり、周りと話し合ったりするような工夫がされている。各章の冒頭には4コマ漫画で、教材のテーマに向かう生徒の「問い」をうながし、各単元の末尾には「考えよう」「深めよう」を設定し、授業の流れや目的を分かりやすく設定している。導入動画教材が各学年に1つずつ、画像や音声資料がそれぞれ10か所以上用意されており、知識を深めるための資料が提供されている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	巻末付録のウェルビーイングカードを活用することで、自分や他者の考えや思いをお互いに伝えやすくしている。教材の文末に「考えよう」「深めよう」の発問を置き、自分の考えを深めていけるよう工夫されている。
イ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	各学年の冒頭に「クラスのみんなど道徳授業を創り出そう」の単元が設けられており、1年間のスタートにあたり、前学年の振り返りとともに学びの目標と目的意識をもって授業に向かう態度形成ができるよう工夫されている。自分の考えを書いた後に、周りの意見との交流ができるページが用意され、自身の見方や考え方が変わったかどうかを振り返ることができる(例:幸福ってなあに 2年P34～P38)。
②主体的・対話的で深い学びについて ウ. 自ら進んで他者と関わり合いをつくるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	グループワークに適した教材が設定されており、話し合い中心の時間になるよう工夫されている(例:どうにかできない?～ベットの殺処分～ 1年P132～P135)。
エ. 個々の考えを深めるための工夫	巻末にはウェルビーイングカードが付属しており、自分の考えを可視化できる。また、カードのキーワードを交流することで、同じテーマに対して多角的に考えを深めることができる。各教材の最後には、発問として「考えよう」「深めよう」が設置されている。教材が文章ではなく4コマ漫画のものがあり、考えやすいように工夫されている。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	導入では4コマ漫画を用いて、教材のテーマに向かう生徒の「問い」を促し、率直な意見を引き出すような発問が設定されている。終結には「考えよう」「深めよう」と2つの発問を設定し、発問によって見方や考え方が変わった、深まったことを実感させるような展開となっている。「幸福ってなあに」(2年P34～P38)では、自分の考えを書いた後に、周りの意見との交流ができるページが用意され、自身の見方や考え方が変わったかどうかを確かめることができる。
③他教科との連携の工夫	社会科と関連した教材が各学年に設定されている(例:エルトゥールル号 1年P121～P126、新渡戸稲造 2年P80～P83、吉田松陰 3年P34～P39)。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	課題に対して考えを深めていく入り口として、4コマ漫画が配置されている。漫画教材を各学年に配置し、課題をわかりやすく配置している。カラーユニバーサルデザインの観点から、色使いやマーク類などの用い方について配慮されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさなど)	視認性の高いUDフォントが使用されている。中学校で学習する漢字と常用外漢字、固有名詞には振り仮名が振られている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	各校の年間指導計画に拠ったカリキュラム編成がしやすいよう、視点別内容項目順に教材配列をしている。目次について、視点別内容項目順のほかにはテーマ別目次も用意されている。
⑦判・ページ数	AB判 1年163 2年167 3年171
⑧現代的な課題への対応	「情報モラル」「いじめ」「人権・福祉ジェンダー」「環境資源」「生命尊重」「国際貢献・国際理解」が現代的な課題に向き合うための教材として配置されている(例:情報の光と闇～ファクトチェック 1年P32～P35)。

令和6年度西宮市立小学校・義務教育学校前期課程使用教科書

	番号	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
		略称	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号
国語	38 光村	国語 113	こくご一上 かざぐるま	国語 213	こくご二上 たんぼぼ	国語 313	国語三上 わかば	国語 413	国語四上 かがやき	国語 513	国語五 銀河	国語 613	国語六 創造
		国語 114	こくご一下 ともだち	国語 214	こくご二下 赤とんぼ	国語 314	国語三下 あおぞら	国語 414	国語四下 はばたき				
書写	2 東書	書写 106	新編 あたらしい しよしゃ 一	書写 206	新編 新しい しよしゃ 二	書写 306	新編 新しい 書写 三	書写 406	新編 新しい 書写 四	書写 506	新編 新しい 書写 五	書写 606	新編 新しい 書写 六
社会	116 日文					社会 308	小学社会 3年	社会 408	小学社会 4年	社会 508	小学社会 5年	社会 608	小学社会 6年
地図	46 帝国					地図 304	楽しく学ぶ 小学生の地図帳 3・4・5・6年	(前年度給与したものを使用)		(前々年度給与したものを使用)		(前々々年度給与したものを使用)	
算数	61 啓林館	算数 120	わくわく さんすう1 すたあと ぶっく	算数 220	わくわく 算数2上	算数 320	わくわく 算数3上	算数 420	わくわく 算数4上	算数 520	わくわく 算数5	算数 620	わくわく 算数6
		算数 121	わくわく さんすう1	算数 221	わくわく 算数2下	算数 321	わくわく 算数3下	算数 421	わくわく 算数4下				
理科	61 啓林館					理科 312	わくわく理科 3	理科 412	わくわく理科 4	理科 512	わくわく理科 5	理科 612	わくわく理科 6
生活	2 東書	生活 117	どきどきわくわく あたらしい せいかつ 上 新編	(前年度給与したものを使用)									
		生活 118	あしたへ ジャンプ 新編 新しい 生活 下	(前年度給与したものを使用)									
音楽	17 教出	音楽 103	小学音楽 おんがくのおくりもの1	音楽 203	小学音楽 音楽のおくりもの2	音楽 303	小学音楽 音楽のおくりもの3	音楽 403	小学音楽 音楽のおくりもの4	音楽 503	小学音楽 音楽のおくりもの5	音楽 603	小学音楽 音楽のおくりもの6
図画工作	116 日文	図工 107	すがこうさく1・2上 まるごと たのしもう	(前年度給与したものを使用)		図工 307	図画工作3・4上 ためす 見つける	(前年度給与したものを使用)		図工 507	図画工作5・6上 わたしとひびき合う	(前年度給与したものを使用)	
		図工 108	すがこうさく1・2下 まるごと たのしもう	(前年度給与したものを使用)		図工 308	図画工作3・4下 ためす 見つける	(前年度給与したものを使用)		図工 508	図画工作5・6下 わたしとひびき合う	(前年度給与したものを使用)	
家庭	2 東書									家庭 503	新編 新しい家庭 5・6 私がつくる みんなでつくる 明日をつくる	(前年度給与したものを使用)	
保健	224 学研					保健 311	新・みんなのほけん3・4年	(前年度給与したものを使用)		保健 511	新・みんなの保健5・6年	(前年度給与したものを使用)	
英語	15 三省堂									英語 513	CROWN Jr.5	英語 613	CROWN Jr.6
										英語 514	CROWN Jr. My Dictionary	英語 514	CROWN Jr. My Dictionary
特別の教科 道徳	38 光村	道徳 114	どうとく1 きみが いちばん ひかるとき	道徳 214	どうとく2 きみが いちばん ひかるとき	道徳 314	どうとく3 きみが いちばん ひかるとき	道徳 414	道徳4 きみが いちばん ひかるとき	道徳 514	道徳5 きみが いちばん ひかるとき	道徳 614	道徳6 きみが いちばん ひかるとき

令和6年度西宮市立小学校・義務教育学校前期課程使用教科書（特別支援学級〔知的障害者用〕）

種目	番号	第1学年～第6学年											
		略称	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	
国語	2 東書	国語 C-121	こくご ☆	国語 C-122	こくご ☆☆	国語 C-123	こくご ☆☆☆						
算数	17 教出	算数 C-121	さんすう ☆	算数 C-122	さんすう ☆☆(1)	算数 C-123	さんすう ☆☆☆(2)	算数 C-124	さんすう ☆☆☆				
音楽	2 東書	音楽 C-121	おんがく ☆	音楽 C-122	おんがく ☆☆	音楽 C-123	おんがく ☆☆☆						

令和6年度西宮市立小学校・義務教育学校前期課程使用教科書（特別支援学級〔聴覚障害者用〕）

種目	番号	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
		略称	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	記号番号	教科書名	
言語指導	17 教出	国語 B-121	こくご ことばのべんきょう 一ねん	国語 B-221	こくご ことばのべんきょう 二ねん	国語 B-321	こくご ことばのべんきょう 三ねん	国語 B-421	国語 ことばのれんしゅう 四年	国語 B-521	国語 ことばの練習 五年	国語 B-621	国語 ことばの練習 六年

(参考資料) 令和7年度使用西宮版一覧から外した図書

発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				外した理由			
発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的		肢病		
10-1	講談社	504	創作絵本かぞえてみよう	◎			◎								◎	◎	◎	◎			◎			令和6年度用一般図書契約予定一覧に掲載されていないため。	
10-1	講談社	558	決定版心をそだてるはじめての日本の歴史名場面101			◎												◎			◎			令和6年度用一般図書契約予定一覧に掲載されていないため。	

令和7年度使用西宮版一覧に加えた図書

発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				加えた理由				
発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的		肢病			
25	06-1	偕成社	L01	100かいだてのいえシリーズ100かいだてのいえ		◎		◎	○						○	◎	◎	○			◎	◎		1から100までの数についてストーリーに沿って楽しみながら学習することができる。縦に開く装丁のため、数の増加のイメージをしやすい。可愛いイラストかつパターン化された展開でまとめられており、イメージを広げることができる。		
146	28-1	福音館	583	福音館の科学シリーズ絵で見る日本の歴史			◎									◎	◎	◎			◎			それぞれの時代風景が様々な場面で一枚の絵にまとめられており、場面毎にその歴史事項についてイメージしながら学ぶことができる。写実的なイラストで描かれており、実際の資料を想起しやすい。		
184	57-26	技術評論社	513	5さいからのプログラミングえほん				○		○	◎				○	◎	◎	○				◎		物語に沿って、プログラミング教材(スクラッチJr)を操ることで、楽しく論理的思考を学ぶことができる。物語の内容が平易であり、絵本の形をとっているため、プログラミングの流れをイメージで捉えやすい。		
187	76-16	パイインタ	550	はじめての日本のれきしえほん			◎									○	◎	◎			◎			それぞれの時代風景や文化、暮らしなどについて分かりやすく絵を中心にまとめられており、歴史事項をイメージしやすい。児童生徒が取り組みやすいように、可愛いイラストで描かれている。		

令和7年度使用西宮版一覧で「教科等」「学年」「障害種別」を変更した図書

発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				変更点とその理由	
発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的		肢病
令和7年度使用西宮版一覧で「教科等」「学年」「障害種別」を変更した図書はありません。																							

令和7年度使用 西宮市立小・中・義務教育学校 特別支援学級用一般図書一覧

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病
1	01-1	あかね書房	001	単行本さわってあそぼうふわふわあひる	◎											◎				◎		◎	
2	01-1	あかね書房	A02	もじのえほんかたかなアイウエオ		◎										◎	◎	◎	◎			◎	
3	01-1	あかね書房	B02	あかねえほんシリーズかたちのえほんまる・さんかく・しかくさん				◎								◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎
4	01-1	あかね書房	E01	けんちゃんとおそぼう1のってのって	◎	○										◎	◎					◎	◎
5	01-1	あかね書房	G04	からだのえほん4からだにもしもし	◎									◎		◎				◎	○	◎	
6	01-1	あかね書房	H02	かばくん・くらしのえほん2かばくんのおかいもの	◎	○	◎							◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎
7	01-1	あかね書房	I02	あかね書房の学習えほんおかあさんだいすき1.2.3				◎								◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎
8	01-1	あかね書房	I03	あかね書房の学習えほんことばのえほんABC											◎				◎	◎	◎	◎	
9	01-1	あかね書房	I07	あかね書房の学習えほんえいごえほんぞうさんがっこうに行く											◎				◎	◎	◎	◎	
10	02-1	岩崎書店	A07	あそびの絵本クレヨンあそび							◎					◎	◎	◎		◎		○	
11	02-1	岩崎書店	A17	あそびの絵本えのぐあそび							◎					◎	◎	◎		○		○	◎
12	02-1	岩崎書店	C04	かいかたそだてかたずかん4やさいのうえかたそだてかた				◎			◎								◎		◎	◎	
13	02-1	岩崎書店	E01	五味太郎のことばとかずの絵本漢字の絵本		◎												◎	◎			◎	◎
14	02-1	岩崎書店	E02	五味太郎のことばとかずの絵本絵本ABC											◎				◎	◎		◎	◎
15	02-1	岩崎書店	E04	五味太郎のことばとかずの絵本かずの絵本		○		◎								◎	◎	◎	◎			◎	◎
16	02-1	岩崎書店	F08	絵本図鑑シリーズ8やさいのずかん	◎									◎			◎						◎
17	02-1	岩崎書店	F12	絵本図鑑シリーズ12のはらのずかんー野の花と虫たちー				◎						◎					◎		◎	◎	
18	04-1	絵本館	D02	五味太郎の絵本かずのえほん1・2・3				◎									◎	◎		○	○	◎	◎
19	05-3	旺文社	B02	学校では教えてくれない大切なこと(2)友だち関係(自分と仲良く)										◎				◎	◎		◎	○	
20	05-3	旺文社	B06	学校では教えてくれない大切なこと(6)友だち関係(気持の伝え方)										◎				◎	◎		◎	○	
21	06-1	偕成社	003	かこさとしつくしい絵							◎							◎	◎	◎			
22	06-1	偕成社	004	10+1人の絵本作家オリジナルソング集うたのパレット						◎								◎	◎	◎			
23	06-1	偕成社	E01	「おれたち、ともだち！」絵本ともだちや		◎												◎	◎	◎		◎	◎
24	06-1	偕成社	H01	日本むかし話おむすびころりん		◎												◎	◎			◎	
25	06-1	偕成社	L01	100かいだてのいえシリーズ100かいだてのいえ		◎		◎	○							○	◎	◎	○			◎	◎
26	06-1	偕成社	O05	五味太郎・言葉図鑑(5)つなぎのことば		◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
27	06-1	偕成社	O06	五味太郎・言葉図鑑(6)くらしのことば		◎													◎		◎		◎
28	06-1	偕成社	O10	五味太郎・言葉図鑑(10)なまえのことば		◎											◎	◎	◎	◎		○	
29	06-1	偕成社	P02	赤ちゃん版ノンタン(2)ノンタンもぐもぐもぐ	○	◎											◎	◎				◎	◎
30	06-1	偕成社	Q06	子どもの生活(6)じょうぶなからだになれるよ!										◎	◎			◎	◎	◎			
31	06-1	偕成社	R01	あかちゃんのあそびえほん(1)ごあいさつあそび	◎									◎		◎						◎	
32	06-1	偕成社	R04	あかちゃんのあそびえほん(4)ひとりであんちできるかな	◎											◎						◎	
33	06-1	偕成社	R06	あかちゃんのあそびえほん(6)いいおへんじできるかな	◎									◎		◎						◎	
34	06-1	偕成社	S01	安全のしつけ絵本(1)きをつけようね	○		◎										◎	◎	◎	◎	○		◎
35	06-1	偕成社	T01	エリック・カールの絵本はらぺこあおむし	◎	◎		◎	○								◎	◎			◎	◎	◎
36	06-1	偕成社	T03	エリック・カールの絵本(ぬりえ絵本)わたしだけのはらぺこあおむし							◎						◎	◎	◎	◎			◎
37	06-1	偕成社	T04	エリック・カールの絵本くまさんくまさんなに見てるの?		◎										◎	◎					◎	◎
38	06-1	偕成社	T07	エリック・カールの絵本できるかな?ーあたまからつまさきまでー	◎	○										◎	○					◎	○

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小・低	小・中	小・高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病
39	06-1	借成社	Y01	ともだちだいすき(2)おべんとうなあに？	◎	◎								○		◎	◎			◎		◎	○
40	06-1	借成社	Z01	子どものマナー図鑑(1)ふだんの生活のマナー	◎		◎							◎			◎	◎	◎		◎	◎	
41	06-1	借成社	Z03	子どものマナー図鑑(3)でかけるときのマナー			◎							◎			◎	◎	◎		◎	◎	
42	06-2	学研	522	こどもずかん0さい～4さいこどもずかん英語つき		◎										◎						◎	
43	06-2	学研	523	こどもずかん0さい～4さいこどもずかん英語つきよくばりバージョン		◎									◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
44	06-2	学研	N01	ほんのおおきさほんのおおきさ動物園	◎	◎											◎	◎		◎	◎		
45	06-2	学研	O01	あそびのおうさまBOOKぬって							◎						◎	◎	◎	◎	○		◎◎
46	06-2	学研	O02	あそびのおうさまBOOKはって							◎						◎	◎	◎	◎	◎		◎
47	07-2	金の星社	001	おてつだいの絵本	◎								◎		◎		○	○	◎	◎		◎	◎◎
48	07-2	金の星社	535	音のでるとけいえほんいままんじ？	◎			◎									◎	◎	○	○	○		◎○
49	07-2	金の星社	E01	やさしいからだのえほん1からだのなかはどうなっているの？					○				◎				◎	◎		◎			
50	07-2	金の星社	F01	ひとりのできるもん！1たのしいたまご料理														◎	◎		◎	◎	◎
51	07-2	金の星社	F04	ひとりのできるもん！4うれしいごはん、パン、めん料理														◎	◎	◎	◎	◎	◎
52	07-2	金の星社	F05	ひとりのできるもん！5すてきなおかし作り														◎	◎		◎	◎	◎
53	08-1	くもん出版	525	ゆびなぞりカードひらがな		◎											◎	◎				◎◎	
54	08-1	くもん出版	526	反対ことばカード		◎												◎	◎				◎
55	08-1	くもん出版	808	あきびんごの創造性を育てる○つけドリルたべもの博士		◎											◎	◎				◎	
56	08-1	くもん出版	A01	もじ・ことば1はじめてのひらがな1集		◎											◎					◎◎	
57	08-1	くもん出版	A03	もじ・ことば3やさしいひらがな1集		◎											◎	◎	◎			◎	
58	08-1	くもん出版	B01	生活図鑑カードたべものカード	◎	◎											◎	◎		◎		◎	
59	08-1	くもん出版	B02	生活図鑑カードくだものやさしいカード1集	◎	◎											◎	◎		◎		◎	
60	08-1	くもん出版	C01	書きかたカード「ひらがな」		◎											◎	◎	◎	◎		◎◎	
61	08-1	くもん出版	D01	ひらがなカード		◎											◎	◎	◎	○	◎	◎◎	
62	08-1	くもん出版	D02	とけいカード				◎									◎	◎	◎	◎		◎◎◎	
63	08-1	くもん出版	G03	CD付き楽器カード						◎							◎	◎	◎	◎	○	◎◎◎	
64	08-2	グランママ	001	ぼくとわたしのせいかつえほん	◎	○											◎	◎	◎		◎	◎	
65	08-2	グランママ	006	ことばえほん	○	◎											◎	◎	◎			◎	○
66	10-1	講談社	001	米村でんじろうのDVDでわかるおもしろ実験！！					◎		○	○						◎	◎	◎			
67	10-1	講談社	525	講談社の動く図鑑MOVE植物	◎				◎								◎	◎	◎	◎	○	◎◎◎	
68	10-1	講談社	H05	ブルーナのアイデアブックミッフィーの1から10まで					◎								◎					◎	○
69	10-3	国土社	B14	たのしい図画工作14こすりだし・すりだし							◎								◎				◎
70	10-4	こぐま社	B05	こぐまちゃんえほん第3集しろくまちゃんのほっとけーき	○	◎											◎	◎	◎		○	◎◎	
71	10-4	こぐま社	D01	ことばあそびの絵本ぶたたぬききつねねこ		◎											◎	◎	◎			◎◎	
72	10-4	こぐま社	E01	こぐまちゃんえほん別冊さよならさんかく		○		◎									◎	◎	◎			◎	
73	10-5	小峰書店	B01	りかのこうさく1ねんせい	◎				◎		◎						◎	◎	◎	◎	◎	◎◎◎	
74	10-5	小峰書店	C01	くまたんのはじめてシリーズよめるよめるよあいうえお		◎											◎	◎	◎			◎	
75	10-5	小峰書店	C02	くまたんのはじめてシリーズおいしいおいしい1・2・3					◎								◎	◎				◎	
76	10-8	合同出版	B01	絵でわかるこどものせいかつずかん1みのまわりのきほん	◎									◎	◎		◎	◎	◎	○	◎	◎◎◎	
77	11-4	三省堂	C01	親子でうたう英語うたの絵じてん											◎					◎	◎	◎◎	

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小・低	小・中	小・高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病
78	12-2	小学館	B02	21世紀幼稚園百科2とけいとじかん	◎			◎									◎	◎	◎			◎	○
79	12-2	小学館	B06	21世紀幼稚園百科6かずあそび1・2・3				◎								◎	◎	◎				◎	
80	12-2	小学館	B11	21世紀幼稚園百科11からだのふしぎ										◎	◎			◎	◎	◎			◎
81	12-2	小学館	C01	ドラえもんちずかん1につぼんちず			◎										◎	◎	◎			◎	◎
82	12-2	小学館	C02	ドラえもんちずかん2せかいちず			◎										◎	◎				◎	◎
83	12-2	小学館	N02	あーとぶつくひらめき美術館第2館							◎							◎	◎			◎	
84	12-2	小学館	Z01	デコボコえほんかずをかぞえよう!				◎								◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎
85	12-7	女子栄養大	001	新・こどもクッキング	◎							◎						◎	◎	◎		◎	
86	13-2	鈴木出版	A05	知育えほんマークのずかん	◎	○	◎				○	○		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
87	14-4	成美堂出版	003	いちばんわかりやすい小学生のための学習世界地図帳			◎										◎	◎		◎	○		
88	14-4	成美堂出版	004	いちばんわかりやすい小学生のための学習日本地図帳			◎									○	◎	◎		◎	○		
89	14-4	成美堂出版	005	CDつき楽しく歌える英語のうた											◎			◎	◎	○	◎	◎	
90	14-4	成美堂出版	006	作ってみよう!リサイクル工作68	◎						◎					○	◎	◎	◎			◎	
91	14-4	成美堂出版	007	CDつき小学生の英語レッスン絵でみて学ぼう英会話											◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎
92	14-5	世界文化社	A01	写真でわかるなぜなに1どうぶつ	◎	◎			◎	◎						◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○
93	15-3	草思社	001	みんなのためのルールブックあたりまえだけど、とても大切なこと									◎	○	◎			◎	◎		◎	◎	◎
94	16-3	大日本絵画	506	とけいつきしかけえほんピーター・imaanじ?	◎			○								◎	○	○	○			◎	
95	16-4	太郎次郎社	C03	子どもがしあげる手づくり絵本あいうえおあそび上ひらがな50音		◎												◎	◎			◎	
96	17-1	チャイルド	001	ぬったりかいたりらくがきBOOK							◎							◎		◎		◎	
97	17-1	チャイルド	535	チャイルドブックこども百科ふしぎ、ふしぎ!かがくあそび図鑑	◎				◎		○					◎	◎	◎	◎			◎	◎
98	20-1	童心社	H01	14ひきのシリーズ14ひきのあさごはん	◎	◎		○								◎	◎	◎				◎	◎
99	20-1	童心社	H02	14ひきのシリーズ14ひきのびくにつく	◎	◎		○								◎	◎	◎				◎	◎
100	20-4	戸田デザイン	001	和英えほん											◎			◎	◎			◎	
101	20-4	戸田デザイン	002	1から100までのえほん				◎										◎				◎	
102	20-4	戸田デザイン	003	あいうえおえほん		◎										◎	◎	◎				◎	◎
103	20-4	戸田デザイン	004	ABCえほん											◎			◎		◎	◎	◎	◎
104	20-4	戸田デザイン	005	につぼんちず絵本			◎										◎	◎	◎			◎	◎
105	20-4	戸田デザイン	006	せかいちず絵本			◎										◎	◎	◎				
106	20-4	戸田デザイン	007	よみかた絵本		◎											◎	◎	◎			◎	◎
107	20-4	戸田デザイン	009	とけいのえほん				◎									◎	◎	◎			◎	◎
108	20-4	戸田デザイン	010	昆虫とあそぼう					◎					◎			◎	◎		◎	○	◎	○
109	20-5	同成社	A01	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」1(改訂版)(ひらがなのことば・文・文章の読み)		◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
110	20-5	同成社	A02	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」2(改訂版)(かたかな・かん字の読み書き)		◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
111	20-5	同成社	A03	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」3(改訂版)(文章を読む、作文・詩を書く)		◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
112	20-5	同成社	B01	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」入門編1(改訂版)(表象形成・音韻形成・発声・発音)		◎										◎	◎	◎			◎	◎	
113	20-5	同成社	B02	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」入門編2(改訂版)(ひらがなの読み書き)		◎										◎	◎	◎			◎	◎	◎

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者 コード	発行者略称	図書 コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・表	技・家	体・保	道徳	外国語	小・低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病
114	20-5	同成社	C01	ゆつくり学ぶ子のための「さんすう」1(量概念の基礎、比較、ななま集め)				◎									◎	◎	◎	◎		◎	
115	20-5	同成社	C02	ゆつくり学ぶ子のための「さんすう」2(1対1対応、1～5の数、5までのたし算)				◎									◎	◎	◎	◎	◎	◎	
116	20-5	同成社	C03	ゆつくり学ぶ子のための「さんすう」3(6～9のたし算、ひき算、位取り)				◎									◎	◎	◎	◎	◎	◎	
117	20-5	同成社	C04	ゆつくり学ぶ子のための「さんすう」4(くり上がり、くり下がり、2けたの数の計算)				◎									◎	◎	◎	◎	◎	◎	
118	20-5	同成社	C05	ゆつくり学ぶ子のための「さんすう」5(3けたの数の計算、かけ算、わり算)				◎											◎	◎	◎	◎	
119	20-7	東洋館	001	改訂新版くらしに役立つ社会			◎												◎		◎	◎	◎
120	20-7	東洋館	002	改訂新版くらしに役立つ国語		◎													◎		◎	◎	◎
121	20-7	東洋館	003	改訂新版くらしに役立つ数学				◎											◎		◎	◎	◎
122	20-7	東洋館	004	改訂新版くらしに役立つ理科					◎										◎		◎	◎	◎
123	21-2	ナツメ社	001	子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん	◎	◎						○	◎	○				◎	◎		◎	◎	○
124	27-1	ひかりのく	001	たのしいてあそびうたえほん						◎							◎			◎		◎	◎
125	27-1	ひかりのく	002	どうようでおえかきできるどうようNEW絵かきうたブック						◎							◎	◎			◎	◎	◎
126	27-1	ひかりのく	013	あそびうたのほんCDつき						◎							◎	◎			◎		◎
127	27-1	ひかりのく	C12	こどものずかんMio12きせつとしぜん	◎				◎								◎	◎	◎	○		◎	○
128	27-1	ひかりのく	D01	202シリーズたべもの202	◎	○											◎	◎	◎		◎		◎
129	27-1	ひかりのく	F01	改訂新版どうようえほん1						◎							◎	◎	◎	◎		◎	◎
130	27-1	ひかりのく	F02	改訂新版どうようえほん2						◎							◎	◎	◎	◎		◎	◎
131	27-1	ひかりのく	F03	改訂新版どうようえほん3						◎							◎	◎	◎	◎		◎	◎
132	27-1	ひかりのく	I01	改訂新版体験を広げるこどものずかん1どうぶつえん					◎					◎			◎	◎	◎		◎	◎	
133	27-1	ひかりのく	I08	改訂新版体験を広げるこどものずかん8あそびのずかん					○		◎							◎	◎	○		◎	
134	27-1	ひかりのく	I09	改訂新版体験を広げるこどものずかん9からだとけんこう					○				◎					◎		◎	◎	◎	
135	27-1	ひかりのく	K09	新装版KIDS2112たべものひゃっか	◎												◎	◎	◎		◎		◎
136	27-2	評論社	A01	スカーリーおじさんののはたらく人たち			◎							◎			◎	◎		◎			
137	27-2	評論社	B01	しかけ絵本の本棚コロちゃんはどこ？	○	◎											◎					◎	○
138	27-2	評論社	B25	しかけ絵本の本棚からだのなかとそと					○				◎	◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎
139	27-2	評論社	C01	ピーター・スピアーの絵本1せかいのひとびと			◎											◎	○		◎		
140	27-3	ひさかた	507	せかいのこつきえほん			◎							◎				◎			◎		
141	27-3	ひさかた	A01	あかちゃんのための絵本はみがきしゅわしゅわ	◎												◎	◎				◎	
142	27-3	ひさかた	B02	ミーミとクークのえほんミーミとクークの1・2・3					◎								◎	◎				◎	◎
143	27-3	ひさかた	C04	スキンシップ絵本かたかなアイウエオ		◎											◎	◎			◎	◎	◎
144	27-3	ひさかた	C05	スキンシップ絵本かずのえほん				◎									◎	◎	◎	◎		◎	◎
145	28-1	福音館	578	福音館の科学シリーズ植物あそび	◎				◎		○						◎	◎	○	○	○	◎	◎
146	28-1	福音館	583	福音館の科学シリーズ絵で見る日本の歴史			◎										◎	◎	◎			◎	
147	28-1	福音館	610	安野光雅の絵本はじめてであうすうがくの絵本2					◎										◎			◎	
148	28-1	福音館	B06	幼児絵本シリーズくだもの	◎	○			◎								◎	◎			◎		◎
149	28-1	福音館	B08	幼児絵本シリーズやさしい	◎	○											◎	◎	◎		◎		◎
150	28-1	福音館	B09	幼児絵本シリーズやさしいのおなか	◎				◎		◎						◎	◎	○	○		◎	◎
151	28-1	福音館	E02	かがくのとも絵本たべられるしよくぶつ	◎				◎								◎	◎	◎	○	◎	◎	◎

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小・低	小・中	小・高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病
152	28-1	福音館	E13	かがくのとも絵本きゆうきゅうばこ新版													◎	◎	◎		◎	◎	
153	28-1	福音館	E14	かがくのとも絵本しんぶんしでつくろう	◎						◎					◎	◎			○		◎	◎
154	28-1	福音館	E16	かがくのとも絵本みんなうんち	◎											◎	◎						◎
155	28-1	福音館	G01	福音館の科学シリーズ昆虫					◎								◎	◎	◎			◎	◎
156	28-1	福音館	G03	福音館の科学シリーズ地球					◎										◎			◎	
157	28-1	福音館	G04	福音館の科学シリーズ道ばたの四季	◎				◎					○		◎	◎	◎	◎		○	◎	◎
158	28-1	福音館	G05	福音館の科学シリーズぼくらの地図旅行			◎										◎	◎		◎			
159	28-1	福音館	G09	福音館の科学シリーズあそびのレシピ	◎						◎					◎	◎	◎				◎	
160	28-1	福音館	H26	こどものとも絵本おおきなかぶ		◎								◎		◎	◎					◎	○
161	28-1	福音館	H56	こどものとも絵本はじめてのおつかい	◎	◎										◎	◎	◎				◎	
162	28-1	福音館	K01	日本傑作絵本シリーズおふろだいすき	◎											◎	◎					◎	
163	28-1	福音館	K04	ぐりとぐらの絵本ぐりとぐらの1ねんかん	◎	◎										◎	◎					◎	
164	28-1	福音館	L01	みちかなかがくシリーズ町の水族館・町の植物園	◎		◎									◎	◎	◎		◎	◎		
165	28-1	福音館	M06	みちかなかがくシリーズ町たんけん			◎							◎		◎	◎	◎		◎			
166	28-3	ブロンズ新	530	だるまさんと	◎	◎										◎	◎				○	◎	
167	28-3	ブロンズ新	537	だるまさんが	◎	◎										◎	◎				○	◎	
168	28-3	ブロンズ新	538	だるまさんの	◎	◎										◎	◎				○	◎	
169	28-3	ブロンズ新	A02	らくがきえほんあ・い・う・え・お		◎					○					◎	◎	◎	○	○		◎	○
170	28-4	文化出版局	E07	どうぶつあれあれえほん第4集かくしたのだから					◎							◎	◎	◎				◎	
171	28-6	文研出版	509	まかせて！おてつだい1わくわくしよくじ										◎			◎	◎				◎	
172	28-7	福村出版	A05	シリーズ生活を学ぶ5遠くへ行きたいな	◎		◎									◎	◎	◎	○	◎	◎		
173	29-1	平凡社	B02	新版はじめましてにほんちず	◎		◎										◎	◎				◎	◎
174	30-2	ポプラ	A02	あそびのひろば2やさしいてづくりのプレゼント							◎					◎	◎	◎				◎	◎
175	30-2	ポプラ	A04	あそびのひろば4はりえあそび							◎					◎	◎	◎				◎	
176	30-2	ポプラ	A08	あそびのひろば8らくがきあそび							◎					◎	◎					◎	◎
177	30-2	ポプラ	C08	ペーパーランド8おりがみえあそび	◎						◎					◎	◎	◎				◎	
178	30-2	ポプラ	J01	クーとマーのおぼえるえほん1ぼくのいろいろな		◎										◎	◎						◎
179	30-2	ポプラ	N02	絵本・いつでもいっしょ2どうぶつなんびき？					◎							◎	◎					◎	
180	32-1	民衆社	A02	さんすうだいすきあそび・つくる・しらべる2年					◎									◎				◎	
181	40-1	理論社	A01	あいうえおうさま		◎	◎									◎	◎	◎		○	◎	◎	
182	40-3	リーブル	001	あっちゃんあがつたべものあいうえお		◎										◎	◎	◎	◎		○	◎	◎
183	40-3	リーブル	002	しりとしましょ！たべものあいうえお		◎										◎	◎	◎	◎		○	◎	
184	57-26	技術評論社	513	5さいからのプログラミングえほん					○		○	◎				○	◎	◎	○				◎
185	71-1	永岡書店	548	きいてうたって24曲どうようたのえほん	○					◎					○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別					
発行者 コード	発行者略称	図書 コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小・低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病	
186	76-16	パイインタ	544	はじめてのなんどもかけるひらがなぶっく	◎	◎									◎	◎	◎	○		◎	◎	◎	
187	76-16	パイインタ	550	はじめての日本のれきしえほん			◎									○	◎	◎			◎		
188	78-9	文英堂	546	シグマベストきくきくドリルSTEP1はじめて編		◎									◎						◎	○	
189	78-9	文英堂	547	シグマベストきくきくドリルSTEP2入学準備 〔基礎〕編		◎									◎	◎					◎	○	

令和6年度一般図書契約予定発行者

発行者 コード	発行者 略称	発行者名	変更	発行者 コード	発行者 略称	発行者名	変更
01-1	あかね書房	株式会社 あかね書房		62-38	旬報社	株式会社 旬報社	
02-1	岩崎書店	株式会社 岩崎書店		62-43	ジアース	株式会社 ジアース教育新社	
04-1	絵本館	株式会社 絵本館		62-47	シンコーM	株式会社 シンコーミュージック・エンタテイメント	
05-1	大阪教育図	大阪教育図書 株式会社		62-49	シルババ	株式会社 シルババック	
05-3	旺文社	株式会社 旺文社		62-50	実務教育出	株式会社 実務教育出版	
06-1	偕成社	株式会社 偕成社		62-54	Jリサーチ	有限会社 ジェイ・リサーチ出版	
06-2	学研	株式会社 G a k k e n		62-56	J T B	株式会社 J T Bパブリッシング	
06-4	開隆堂出版	開隆堂出版 株式会社		62-59	至光社	有限会社 至光社	
07-2	金の星社	株式会社 金の星社		62-63	小学館クリ	株式会社 小学館クリエイティブ	
07-4	教 芸	株式会社 教育芸術社		62-70	ジャムハウ	株式会社 ジャムハウス	
07-5	教育画劇	株式会社 教育画劇		62-71	祥伝社	株式会社 祥伝社	
08-1	くもん出版	株式会社 くもん出版		62-72	柴田書店	株式会社 柴田書店	
08-2	グランまま	株式会社 グランまま社		62-73	出版ワーク	株式会社 出版ワークス	
10-1	講談社	株式会社 講談社		63-3	瑞雲舎	株式会社 瑞雲舎	
10-2	好学社	株式会社 好学社		63-8	数研出版	数研出版 株式会社	
10-3	国土社	株式会社 国土社		63-9	水王舎	株式会社 水王舎	
10-4	こぐま社	株式会社 こぐま社		63-10	スリーエ	株式会社 スリーエネットワーク	
10-5	小峰書店	株式会社 小峰書店		63-11	すばる舎	株式会社 すばる舎	
10-8	合同出版	合同出版 株式会社		63-16	スタック	株式会社 スタジオタッククリエイティブ	○
10-9	こぼと	有限会社 K O B A T O		64-2	清風堂書店	株式会社 清風堂書店	
10-10	コクヨ	コクヨ 株式会社		64-3	全音楽譜	株式会社 全音楽譜出版社	
11-1	さえら	株式会社 さ・え・ら書房		64-6	正進社	株式会社 正進社	
11-4	三省堂	株式会社 三省堂		64-9	西東社	株式会社 西東社	
12-2	小学館	株式会社 小学館		64-13	誠文堂新光	株式会社 誠文堂新光社	
12-7	女子栄養大	女子栄養大学出版部		64-18	青春出版	株式会社 青春出版社	
12-10	視覚デザイ	株式会社 視覚デザイン研究所		64-22	全国障害者	全国障害者問題研究会	
13-2	鈴木出版	鈴木出版 株式会社		65-2	増進堂	株式会社 増進堂	
14-3	育成会	一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会		65-6	創元社	株式会社 創元社	
14-4	成美堂出版	成美堂出版 株式会社		65-13	騒人社	株式会社 騒人社	
14-5	世界文化社	株式会社 世界文化社		65-15	S B クリエ	S B クリエイティブ 株式会社	○
15-3	草思社	株式会社 草思社		65-16	そうえん社	株式会社 そうえん社	
16-3	大日本絵画	株式会社 大日本絵画		66-5	大修館書店	株式会社 大修館書店	
16-4	太郎次郎社	株式会社 太郎次郎社エディタス		66-6	大和書房	株式会社 大和書房	
17-1	チャイルド	株式会社 チャイルド本社		66-10	高橋書店	株式会社 高橋書店	
20-1	童心社	株式会社 童心社		66-11	大日本図書	大日本図書 株式会社	
20-2	ドレミ楽譜	株式会社 ドレミ楽譜出版社		66-20	玉川大学出	玉川大学出版部	
20-3	東京書店	東京書店 株式会社		66-23	竹書房	株式会社 竹書房	
20-4	戸田デザイ	有限会社 戸田デザイン研究室		66-28	たいらか	特定非営利活動法人 たいらか	○
20-5	同成社	株式会社 同成社		67-3	汐文社	株式会社 汐文社	
20-7	東洋館	株式会社 東洋館出版社		67-6	中央法規	中央法規出版 株式会社	
21-2	ナツメ社	株式会社 ナツメ社		69-2	帝国書院	株式会社 帝国書院	
22-3	日本教育研	株式会社 エストディオ		69-11	点字学習	点字学習を支援する会	
25-1	のら書店	有限会社 のら書店		70-2	童話屋	株式会社 童話屋	
27-1	ひかりのく	ひかりのくに 株式会社		70-3	徳間書店	株式会社 徳間書店	
27-2	評論社	株式会社 評論社		70-9	東京法令	東京法令出版 株式会社	
27-3	ひさかた	株式会社 ひさかたチャイルド		70-12	東京書籍	東京書籍 株式会社	
27-4	P H P	株式会社 ビーエイチピー研究所		70-13	童話館出版	株式会社 童話館出版	
28-1	福音館	株式会社 福音館書店		70-27	トヤマ出版	トヤマ出版 株式会社	
28-2	婦人之友	株式会社 婦人之友社		70-33	東京堂出版	株式会社 東京堂出版	
28-3	ブロンズ新	株式会社 ブロンズ新社		70-34	子供図書館	公益財団法人 東京子ども図書館	
28-4	文化出版局	学校法人文化学園 文化出版局		71-1	永岡書店	株式会社 永岡書店	
28-6	文研出版	文研出版		71-5	ナート	株式会社 ナート	
28-7	福村出版	福村出版 株式会社		71-6	ナガセ	株式会社 ナガセ	
28-8	フレーベル	株式会社 フレーベル館		71-7	玉光堂	株式会社 玉光堂	
29-1	平凡社	株式会社 平凡社		71-8	難聴児支援	難聴児支援教材研究会	
30-2	ポプラ	株式会社 ポプラ社		72-2	ヴォーグ社	株式会社 日本ヴォーグ社	○
32-1	民衆社	株式会社 民衆社		72-7	日本文芸社	株式会社 日本文芸社	
33-1	むぎ書房	有限会社 むぎ書房		72-8	日東書院	株式会社 日東書院本社	
36-1	山と溪谷社	株式会社 山と溪谷社		72-13	西村書店	株式会社 西村書店	
40-1	理論社	株式会社 理論社		72-16	漢字能力検	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	
40-3	リーブル	株式会社 リーブル		72-21	日本習字普	株式会社 日本習字普及協会	
51-1	あいうえお	株式会社 あいうえお館		72-24	N H K 出版	株式会社 N H K 出版	
51-4	アリス館	株式会社 アリス館		72-31	日本図書	株式会社 日本図書センター	
51-5	アルク	株式会社 アルク		72-37	日本トアカ	株式会社 日本トータルアカデミー	
51-6	朝日新聞	株式会社 朝日新聞出版		72-38	日本能率協	株式会社 日本能率協会マネジメントセンター	
51-10	あすなろ	株式会社 あすなろ書房		72-40	二宮書店	株式会社 二宮書店	○
51-18	アプリコッ	アプリコット出版 株式会社		74-3	ネオテリッ	株式会社 ネオテリック	
51-19	明石書店	株式会社 明石書店		75-1	農文協	一般社団法人 農山漁村文化協会	
51-34	アノニマ	中央出版 株式会社 (アノニマ・スタジオ)		76-4	白泉社	株式会社 白泉社	
51-35	朝日学生	株式会社 朝日学生新聞社		76-12	博雅堂	株式会社 博雅堂出版	

発行者コード	発行者略称	発行者名	変更	発行者コード	発行者略称	発行者名	変更
51-41	あさ出版	株式会社 あさ出版	○	76-13	オウル社	有限会社 ハッピーオウル社	
51-42	アンサンク	株式会社 アンサンク	○	76-16	バイインタ	株式会社 バイインターナショナル	
52-1	家の光協会	一般社団法人 家の光協会	○	77-7	東山書房	株式会社 東山書房	○
52-2	岩波書店	株式会社 岩波書店		77-13	B L 出版	ビーエル出版 株式会社	
52-4	教養池田	株式会社 池田書店		77-16	ビリケン	有限会社 ビリケン商会 (ビリケン出版)	
52-7	いかだ社	株式会社 いかだ社		77-22	ビジネス社	株式会社 ビジネス社	
52-15	一声社	株式会社 一声社		77-23	美術エデュ	株式会社 美術出版エデュケーションナル	
52-16	イースト	株式会社 イースト・プレス		78-2	富士房	有限会社 富士房	
53-5	WAVE	株式会社 WAVE 出版		78-9	文英堂	株式会社 文英堂	
54-20	えほんの社	株式会社 えほんの社		78-12	文溪堂	株式会社 文溪堂	
54-21	エスコアール	株式会社 エスコアール		78-13	文理	株式会社 文理	
54-22	m p i	株式会社 m p i 松香フォニックス		78-15	ブティック	株式会社 ブティック社	
54-26	エイデル	株式会社 エイデル研究所		78-16	扶桑社	株式会社 扶桑社	
54-27	絵本塾出版	株式会社 絵本塾出版		78-18	フォーラム	株式会社 フォーラム・A 企画	
54-29	MDN	株式会社 エムディエヌコーポレーション		78-20	双葉社	株式会社 双葉社	
55-1	大月書店	株式会社 大月書店		78-34	プレジデ社	株式会社 プレジデント社	
55-12	音楽センタ	株式会社 音楽センター		78-36	文響社	株式会社 文響社	
55-15	音楽之友社	株式会社 音楽之友社		79-6	ベネッセ	株式会社 ベネッセコーポレーション	
55-19	大泉書店	株式会社 大泉書店		79-9	ベストセラ	株式会社 ベストセラーズ	
55-21	沖縄時事	合資会社 沖縄時事出版		79-10	ベレ出版	有限会社 ベレ出版	
55-22	桜雲会	社会福祉法人 桜雲会		80-6	ほるぶ	株式会社 ほるぶ出版	
56-3	カワイ出版	株式会社 全音楽譜出版社カワイ出版部		80-11	ボトス出版	ボトス出版 有限会社	
56-7	河出新社	株式会社 河出書房新社		80-12	保育社	株式会社 保育社	
56-13	かもがわ	株式会社 かもがわ出版		80-13	本の泉社	株式会社 本の泉社	
56-21	岳陽舎	株式会社 岳陽舎		80-14	ぼーぐなん	株式会社 ぼーぐなん	
56-24	学研みらい	株式会社 G a k k e n (学研教育みらい)		80-15	北海道新聞	株式会社 北海道新聞社	
56-27	べん習字	株式会社 学文社 (日本べん習字)		81-7	マール社	株式会社 マール社	
56-28	カドカワ	株式会社 K A D O K A W A		81-15	マガジン社	株式会社 マイクロマガジン社	
56-29	かんき出版	株式会社 かんき出版		82-3	三起商行	三起商行 株式会社	
56-33	カエル	株式会社 カエルちゃんオフィス		82-4	光村教育	光村教育図書 株式会社	
56-35	カンゼン	株式会社 カンゼン		82-5	光村図書	光村図書出版 株式会社	
57-11	教育図書	教育図書 株式会社		82-6	みくに出版	株式会社 みくに出版	
57-12	教育出版	教育出版 株式会社		82-10	カルチュア	カルチュア・コンビニエンス・クラブ 株式会社	□
57-22	喜楽研	株式会社 喜楽研		82-14	ミンマ社	株式会社 ミンマ社	
57-26	技術評論社	株式会社 技術評論社		82-15	三輪書店	株式会社 三輪書店	
57-31	紀伊國屋	株式会社 紀伊國屋書店		82-16	ミネルヴァ	株式会社 ミネルヴァ書房	
57-40	教育評論社	株式会社 教育評論社		83-3	むさし書房	クイックターンプロジェクト	
57-41	岐阜新聞社	株式会社 岐阜新聞社	○	84-1	明治図書	明治図書出版 株式会社	
58-3	クレヨンハ	株式会社 クレヨンハウス		84-4	メイツ出版	株式会社 メイツユニバーサルコンテンツ	
58-7	群羊社	株式会社 群羊社		84-5	明治書院	株式会社 明治書院	
58-8	グラフィク	株式会社 グラフィック社		84-7	メディアバル	株式会社 メディア・バル	
58-11	くろしお	株式会社 くろしお出版		86-6	ヤマハHD	株式会社ヤマハミュージックエンタテイメントホールディング	
59-5	K・M・P	有限会社 ケイ・エム・ピー		87-8	ゆまに	株式会社 ゆまに書房	
60-2	佼成出版	株式会社 佼成出版社		87-11	UD絵本	特定非営利活動法人ユニバーサルデザイン絵本センター	
60-3	弘文社	株式会社 弘文社		87-14	唯学書房	有限会社 唯学書房	
60-11	光文書院	株式会社 光文書院		88-6	幼年教育	幼年教育出版 株式会社	
60-20	コンセル	株式会社 コンセル		88-7	こぐま会	株式会社 幼児教育実践研究所 (こぐま会)	
60-22	子供の未来	有限会社 子どもの未来社		89-2	ラボ教育	株式会社 ラボ教育センター	
60-24	語学春秋社	株式会社 語学春秋社		90-11	リヴォルヴ	特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所	
60-29	交通新聞	株式会社 交通新聞社		90-13	リベラル社	株式会社 リベラル社	
60-32	コスミック	株式会社 コスミック出版		92-1	黎明書房	株式会社 黎明書房	
60-34	あか図	あかつき教育図書 株式会社		93-3	ロクリン社	株式会社 ロクリン社	
60-40	コロロ発達	株式会社 コロロ発達療育センター		T181	東点 (一般)	社会福祉法人 東京点字出版所 (一般)	
60-43	弘文堂	株式会社 弘文堂		T182	ライト (一般)	社会福祉法人 日本ライトハウス (一般)	
61-7	三省堂書店	株式会社 三省堂書店		T216	支援セ (一般)	社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター (一般)	
61-11	サンマーク	株式会社 サンマーク出版		T217	日点 (一般)	社会福祉法人 日本点字図書館 (一般)	
61-15	サーベル	株式会社 サーベル社		181	東点	社会福祉法人 東京点字出版所	
61-18	サンクチュ	株式会社 サンクチュアリ・パブリッシング	○	182	ライト	社会福祉法人 日本ライトハウス	
61-22	埼玉福祉会	社会福祉法人 埼玉福祉会		196	ヘレン	社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会	
62-3	集英社	株式会社 集英社					
62-4	少年写真新	株式会社 少年写真新聞社					
62-6	新日本	株式会社 新日本出版社					
62-7	秀学社	株式会社 秀学社					
62-8	主婦と生活	株式会社 主婦と生活社					
62-11	新潮社	株式会社 新潮社					
62-12	主婦の友	株式会社 主婦の友社					
62-13	新興出版社	株式会社 新興出版社啓林館					
62-20	新学社	株式会社 新学社					
62-22	新星出版社	株式会社 新星出版社					
62-35	昭文社	株式会社 昭文社	○				

※ 変更欄 (令和5年度使用教科書事務執行管理システム掲載からの変更)
□・・・発行者名変更
○・・・新規発行者

義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員

白	銀	夏	樹	関西学院大学 教職教育研究センター長 教授
田	中	由	紀	保護者代表
西	井	美	和	保護者代表
加	藤	正	保	西宮市立苦楽園中学校 校長
都	志	啓	二	西宮市立学文中学校 校長
田	中	栄	治	西宮市立平木中学校 主幹教諭
釜	淵	章	匡	西宮市立山口中学校 主幹教諭
桑	原	美	和	西宮市教育委員会学校教育課 課長
橋	野	泰	輝	西宮市教育委員会学校教育課 係長

以上 9 名